

## 基本計画書

基本計画書									
事項	記入欄								備考
計画の区分	学部の設置								
フリガナ設置者	ガッコウホウジン セイセンジョシダイガク 学校法人 清泉女子大学								
フリガナ大学の名称	セイセンジョシダイガク 清泉女子大学								
大学本部の位置	東京都品川区東五反田3丁目16番21号								
大学の目的	<p>本学は、教育基本法及び学校教育法に準拠し、広く知識を授けるとともに深く専門の学芸を教授研究し、知的・道徳的及び応用的能力を展開させ、キリスト教的世界観に立ち、高い知性と豊かな教養をそなえ、奉仕的精神に富む女性を養成することを目的とする。</p>								
新設学部等の目的	<p>地球市民学部 本学部は、人間愛の尊重を基盤に、文化の多様性を理解し、グローバル社会の諸事象を分析できる人材を養成する。数多く存在する社会課題のなかから、自分が取り組むべき身近な問題を定めて、その課題解決のために、他者と協働しながら具体的に行動することができる人材を養成する。 また、建学の精神である「キリスト教ヒューマニズム」を基礎に、文化や社会の多面性を尊重しながら、社会課題を解決するために探求する力を涵養する。幅広い教養、専門分野の知識に加え、理想の実現に向けて具体的に実践する行動力を修得させる。</p>								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地
	地球市民学部 地球市民学科  計	年  4	人  100	年次人  —	人  400	学士（地球市民学）	文学関係	年 月 第 年次  令和7年4月1日 第1年次	東京都品川区 東五反田3丁目 16番21号
同一設置者内における変更状況 (定員の移行, 名称の変更等)	<p>○学部の設置 総合文化学部 総合文化学科 (230) (令和7年4月届出予定)</p> <p>○学生募集停止 <u>文学部 (廃止)</u> <u>日本語日本文学科 (△65)</u> <u>英語英文学科 (△75)</u> <u>スペイン語スペイン文学科 (△40)</u> <u>文化史学科 (△90)</u> <u>地球市民学科 (△60)</u> ※令和7年4月学生募集停止</p>								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	地球市民学部 地球市民学科	講義	演習	実験・実習	計				
		77科目	147科目	26科目	250科目	124単位			

学部等の名称	基幹教員						基幹教員以外の教員(助手を除く)
	教授	准教授	講師	助教	計	助手	
地球市民学部 地球市民学科	8 (8)	3 (3)	2 (2)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	137 (137)
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	7 (7)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	10 (10)		大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 8人
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(aに該当する者を除く)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	2 (2)		
小計(a~b)	8 (8)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	12 (12)		
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a又はbに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a, b又はcに該当する者を除く)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)		
計(a~d)	8 (8)	3 (3)	2 (2)	0 (0)	13 (13)		
総合文化学部 総合文化学科	19 (19)	7 (7)	1 (1)	0 (0)	27 (27)	0 (0)	185 (185)
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	15 (15)	7 (7)	1 (1)	0 (0)	23 (23)		令和7年4月届出予定 大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 10人
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(aに該当する者を除く)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	4 (4)		
小計(a~b)	19 (19)	7 (7)	1 (1)	0 (0)	27 (27)		
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a又はbに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a, b又はcに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
計(a~d)	19 (19)	7 (7)	1 (1)	0 (0)	27 (27)		
計	27 (27)	10 (10)	3 (3)	0 (0)	40 (40)	0 (0)	— (—)

新設分

既設分	司書・教職課程	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (20)
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (1)		
	小計（a～b）	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (1)		
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	計（a～d）	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (1)		
	日本語教員課程	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (4)
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	小計（a～b）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	計（a～d）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	共通科目	0 (5)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (5)	0 (0)	0 (32)
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	0 (5)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (5)		
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	小計（a～b）	0 (5)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (5)		
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
計（a～d）	0 (5)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (5)			

既設分（続き）	キリスト教文化研究所	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (7)
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	小計（a～b）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	計（a～d）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	言語教育研究所	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	小計（a～b）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	計（a～d）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
計	0 (6)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (6)	0 (0)		
合計	27 (33)	10 (10)	3 (3)	0 (0)	40 (46)	0 (0)	— (—)	

職 種		専 属	そ の 他	計						
		人	人	人						
事 務 職 員		34 (34)	63 (63)	97 (97)	大学全体					
技 術 職 員		1 (1)	0 (0)	1 (1)						
図 書 館 職 員		1 (1)	4 (4)	5 (5)						
そ の 他 の 職 員		0 (0)	0 (0)	0 (0)						
指 導 補 助 者		0 (0)	14 (14)	14 (14)						
計		36 (36)	81 (81)	117 (117)						
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
	校 舎 敷 地	22,934.30m <sup>2</sup>	0m <sup>2</sup>	0m <sup>2</sup>	22,934.30m <sup>2</sup>					
	そ の 他	6,831.00m <sup>2</sup>	0m <sup>2</sup>	0m <sup>2</sup>	6,831.00m <sup>2</sup>					
	合 計	29,765.30m <sup>2</sup>	0m <sup>2</sup>	0m <sup>2</sup>	29,765.30m <sup>2</sup>					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
		14,481.73m <sup>2</sup> ( m <sup>2</sup> )	0m <sup>2</sup> ( 0m <sup>2</sup> )	0m <sup>2</sup> ( 0m <sup>2</sup> )	14,481.73m <sup>2</sup> ( m <sup>2</sup> )					
教室・教員研究室		教 室	43室	教員研究室	50室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	電子図書 〔うち外国書〕	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	機械・器具 点	標本 点	学部単位での 特定不能なため、大学全体の 数		
	地球市民学部地球市民学科	718,100 [463,400] (653,300 [406,800])	335,800 [333,000] (280,000 [277,800])	4,000 [2,400] (3,800 [2,300])	765 [730] (690 [680])	0 ( 0 )	0 ( 0 )			
	計	718,100 [463,400] (653,300 [406,800])	335,800 [333,000] (280,000 [277,800])	4,000 [2,400] (3,800 [2,300])	765 [730] (690 [680])	0 ( 0 )	0 ( 0 )			
	スポーツ施設等	スポーツ施設		講堂	厚 生 補 導 施 設					
		0m <sup>2</sup>		1,035m <sup>2</sup>	2,146m <sup>2</sup>		大学全体			
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書購入費には電子ジャーナル、データベースの整備費（運用コスト）を含む。
		教員1人当り研究費等	<del>          </del>	400千円	400千円	400千円	400千円	－千円	－千円	
		共同研究費等	<del>          </del>	670千円	670千円	670千円	670千円	－千円	－千円	
		図書購入費	42,450千円	42,450千円	42,450千円	42,450千円	42,450千円	－千円	－千円	
	設備購入費	21400千円	14350千円	10850千円	10850千円	10850千円	－千円	－千円		
	学生1人当り 納付金			第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
			1420千円	1170千円	1170千円	1170千円	－	－		
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金、資産運用収入、手数料 等							

大 学 の 名 称		清泉女子大学								
学 部 等 の 名 称	修業年 限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	収容定員充 足率	開設 年度	所 在 地		
	年	人	年次 人	人		倍				
既 設 大 学 等 の 状 況	文学部					—				
	日本語日本文学科	4	—	—	—	—	昭和25年度	東京都品川区 東五反田 3丁目16番21号	令和7年度より 学生募集停止	
	英語英文学科	4	—	—	—	—	昭和25年度		令和7年度より 学生募集停止	
	スペイン語スペイン文学 科	4	—	—	—	—	昭和36年度		令和7年度より 学生募集停止	
	文化史学科	4	—	—	—	—	平成5年度		令和7年度より 学生募集停止	
	地球市民学科	4	—	—	—	—	平成13年度		令和7年度より 学生募集停止	
	人文科学研究科									
	人文学専攻	3	5	—	15	博士（人文学）	平成8年度			
	言語文化専攻	2	6	—	12	修士（言語文化）	平成5年度			
	思想文化専攻	2	6	—	12	修士（思想文化）	平成6年度			
地球市民学専攻	2	5	—	10	修士（地球市民 学）	平成17年度				
附属施設の概要	該当なし									

学校法人清泉女子大学 設置認可等に関わる組織の移行表

令和6年度

入学 編入学 収容  
定員 定員 定員

令和7年度

入学 編入学 収容  
定員 定員 定員 変更の事由

清泉女子大学			
文学部			
日本語日本文学科	65	—	260
英語英文学科	75	—	300
スペイン語スペイン文学科	40	—	160
文化史学科	90	—	360
地球市民学科	60	—	240
<hr/>			
計	330	—	1320
清泉女子大学大学院人文科学研究科			
人文学専攻	5	—	15
言語文化専攻	6	—	12
思想文化専攻	6	—	12
地球市民学専攻	5	—	10
<hr/>			
計	22	—	49



清泉女子大学				
<u>総合文化学部</u>				学部の設置 (届出)
<u>総合文化学科</u>	<u>230</u>	—	<u>920</u>	
<hr/>				
<u>地球市民学部</u>				学部の設置 (届出)
<u>地球市民学科</u>	<u>100</u>	—	<u>400</u>	
<hr/>				
計	<u>330</u>	—	<u>1320</u>	
清泉女子大学大学院人文科学研究科				
人文学専攻	5	—	15	
言語文化専攻	6	—	12	
思想文化専攻	6	—	12	
地球市民学専攻	5	—	10	
<hr/>				
計	22	—	49	



設置の前後における学位等及び基幹教員の所属の状況

届出時における状況					新設学部等の学年進行 終了時における状況						
学部等の名称	授与する学位等		異動先	基幹教員		学部等の名称	授与する学位等		異動元	基幹教員	
	学位又は 称号	学位又は 学科の分野		助教 以上	うち 教授		学位又は 称号	学位又は 学科の分野		助教 以上	うち 教授
文学部 日本語日本文学科 (廃止)	学士(日本語日本文学)	文学関係	総合文化学部総合文化学科	6	5	総合文化学部 総合文化学科	学士 (人文学)	文学関係	文学部日本語日本文学科	6	5
			退職	1	1				文学部英語英文学科	4	3
									文学部スペイン語スペイン文学科	5	3
									文学部文化史学科	9	5
									司書・教職課程	2	2
			計	7	6				キリスト教文化研究所	1	1
文学部 英語英文学科 (廃止)	学士(英語英文学)	文学関係	総合文化学部総合文化学科	4	3	地球市民学部 地球市民学科	学士(地球市民学)	文学関係	文学部スペイン語スペイン文学科	1	1
			その他	2	2				文学部地球市民学科	6	4
			退職	1	1				司書・教職課程	2	1
			計	7	6				日本語教員課程	1	1
文学部 スペイン語スペイン文学科 (廃止)	学士(スペイン語スペイン文学)	文学関係	総合文化学部総合文化学科	5	3	地球市民学部 地球市民学科	学士(地球市民学)	文学関係	人文科学研究所	1	0
			地球市民学部地球市民学科	1	1				言語教育研究所	1	1
			退職	1	1				新規採用	1	0
			計	7	5				計	13	8
文学部 文化史学科 (廃止)	学士(文化史学)	文学関係	総合文化学部総合文化学科	9	5	\					
			退職	1	1						
			計	10	6						
文学部 地球市民学科 (廃止)	学士(地球市民学)	文学関係	地球市民学部地球市民学科	6	4						
			退職	1	1						
			計	7	5						
司書・教職課程	-	-	総合文化学部総合文化学科	2	2						
			地球市民学部地球市民学科	2	1						
			退職	1	1						
			計	5	4						
日本語教員課程	-	-	地球市民学部地球市民学科	1	1						
			計	1	1						
人文科学研究所	-	-	地球市民学部地球市民学科	1	0						
			退職	1	1						
			計	2	1						
キリスト教文化研究所	-	-	総合文化学部総合文化学科	1	1						
			計	1	1						
言語教育研究所	-	-	地球市民学部地球市民学科	1	1						
			計	1	1						

## 基礎となる学部等の改編状況

開設又は 改編時期	改 編 内 容 等	学 位 又 は 学 科 の 分 野	手 続 の 区 分
昭和25年4月	文学部国文学科 設置	文学	設置認可 (学科)
	文学部英文学科 設置	文学	設置認可 (学科)
昭和36年4月	文学部スペイン語スペイン文学科 設置	文学	設置認可 (学科)
昭和38年4月	文学部キリスト教文化学科 設置	文学	設置認可 (学科)
平成5年4月	文学部文化史学科 設置	文学	設置認可 (学科)
平成5年4月	文学部キリスト教文化学科の学生募集停止	—	学生募集停止 (学科)
平成6年4月	文学部英文学科 → 文学部英語英文学科	文学	名称変更 (学科)
平成9年4月	文学部国文学科 → 文学部日本語日本文学科	文学	名称変更 (学科)
平成13年4月	文学部地球市民学科 設置	文学	設置認可 (学科)
令和7年4月	総合文化学部総合文化学科 設置	文学	設置届出 (学部)
令和7年4月	地球市民学部地球市民学科 設置	文学	設置届出 (学部)
令和7年4月	文学部日本語日本文学科、英語英文学科、スペイン語スペイン文学科、文化史学科及び地球市民学科の学生募集停止	—	学生募集停止 (学科)

## 教 育 課 程 等 の 概 要

(地球市民学部地球市民学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		基 幹 教 員 (助 手 を 除 く) 以 外 の 教 員	
1 年 次 必 修 科 目	思考法・表現スキル チュートリアル	1前		2				○		6	1	2					
	地球市民としての思考と表現1	1前	○	4				○		3							
	地球市民としての思考と表現2	1後	○	4				○		2	1						
	多文化理解 プロジェクトのための英語コミュニケーション	1前・後		2					○		1		1			3	
	社会地理 ソーシャルデザイン概論	1前	○	2					○		3	1					オムニバス
P B L	プロジェクト入門1	1前		1				○			1						
	プロジェクト入門2	1後		1				○			1						
	小計(7科目)	—	—	16	0	0		—		8	2	2	0	0	3		
2 年 次 必 修 科 目	思考法・表現スキル プレゼンテーション技法	2後		2					○		1					3	オムニバス
	多文化理解 キャリアのための英語コミュニケーション	2前		2					○		1		1			6	
	社会地理 データと社会	2前	○	2					○		2	1					オムニバス
	P B L	グループプロジェクト1	2前	○	2					○		1					
		グループプロジェクト2	2後	○	2					○		1					
	小計(5科目)	—	—	10	0	0		—		4	1	1	0	0	9		
3 年 次 必 修 科 目	総合 応用 研究プロジェクト1	3前・後	○	2					○		7	2	1				
		3前・後	○	2					○		7	2	1				
	思考法・表現スキル プロジェクト・プレゼンテーション	3後		1					○		1						
		小計(3科目)	—	—	5	0	0		—		7	2	1	0	0	0	
4 年 次 必 修 科 目	総合 応用 研究プロジェクト3	4前・後	○	2					○		7	2	1				
		4後	○	2					○		7	2	1				
		4通	○	2					○			1					
		4後	○	2					○		1						
		小計(4科目)	—	—	8	0	0		—		7	2	1	0	0	0	
領 域 必 修 科 目	地球社会 の理解 社会課題解決のための情報スキル演習	1休				4				○		1	1				共同
	多文化理解 国際協力のための英語	2休				4				○		2					共同
		小計(2科目)	—	—	0	8	0		—		3	1	0	0	0	0	

選択必修科目	地球市民 セミナー 科目群	地球市民セミナー1	1・2前		1		○			1								
		地球市民セミナー2	1・2後		1		○			1								
		小計(2科目)	—	—	0	2	0	—		2	0	0	0	0	0	0	0	0
	地球社会の理解	グローバル・スタディーズ1	2・3後		2		○											1
		グローバル・スタディーズ2	2・3前		2		○											1
		グローバル・スタディーズ3	2・3後		2		○											1
		グローバル・スタディーズ4	2・3前		2		○											1
		グローバル・スタディーズ5	2・3前		2		○											1
		グローバル・スタディーズ6	2・3休		2		○											1
		グローバル・スタディーズ7	2・3前		2		○											1
		グローバル・スタディーズ8	2・3前		2		○											1
		グローバル・スタディーズ9	2・3後		2		○											1
		グローバル・スタディーズ10	2・3後		2		○											1
		小計(10科目)	—	—	0	20	0	—		0	0	0	0	0	0	0	0	9
	多文化理解と言語	地域文化研究1	1・2後		2		○											1
		地域文化研究2	1・2前		2		○											1
		地域文化研究3	1・2前		2		○											1
		地域文化研究4	1・2後		2		○											1
		地域文化研究5	1・2前		2		○											1
		地域文化研究6	1・2前		2		○											1
	地域文化研究7	1・2前		2		○			1									
	地域文化研究8	1・2後		2		○			1									
	小計(8科目)	—	—	0	16	0	—		1	0	0	0	0	0	0	0	6	
フィールドワーク科目群	フィールドワーク1	2休		2				○	1									
	フィールドワーク2	2・3前		4				○	1								標準外 隔年	
	フィールドワーク3	2・3前		4				○	1		1						標準外 隔年	
	フィールドワーク4	2・3通		6				○	1								標準外 隔年	
	フィールドワーク5	2・3前		4				○	1	1							標準外 隔年	
	フィールドワーク6(日本語教育実習)	3・4通		2				○	1								標準外 隔年	
	GCSインターンシップ	2・3通		2				○							1		標準外	
	情報系インターン講座	2・3後		1				○		1								
	地域共生インターン講座	2・3前		1				○	1									
	海外インターン講座	2・3後		1				○			1							
	小計(10科目)	—	—	0	27	0	—		3	2	1	0	0	0	0	1		
専門事例科目群	専門事例:地球市民と政治	2・3後	○	4			○		1								隔年	
	専門事例:地球市民と文化	2・3前	○	2			○			1								
	専門事例:地球市民と社会	2・3前	○	2			○		1									
	専門事例:地球市民と平和構築	2・3前	○	2			○				1							
	専門事例:地球市民とキャリア	2・3前	○	2			○		1									
	専門事例:地球市民と環境	2・3後	○	4			○		1								隔年	
	専門事例:地球市民と技術	2・3後	○	4			○		1								隔年	
	専門事例:地球市民と宗教	2・3後	○	2			○			1								
	専門事例:地球市民とメディア	2・3後	○	2			○		1									
	専門事例:地球市民とビジネス	2・3前	○	2			○		1									
	専門事例:地球市民と開発	2・3後	○	4			○		1								隔年	
	専門事例:地球市民と対話	2・3後	○	2			○				1							
	専門事例:地球市民と教育	2・3前	○	2			○		1									
	専門事例:地球市民と心理	2・3後	○	2			○		1									
	専門事例:地球市民と言語	2・3前	○	2			○		1									
	専門事例:地球市民と日本語教育	2・3後	○	2			○		1									
	専門事例:地球市民とポピュラー文化	2・3前	○	2			○		1									
	専門事例:地球市民とアート	2・3後	○	2			○		1									
	専門事例:地球市民とAI	2・3後	○	2			○			1								
	Global Citizen and Politics	2後		2			○										1	
	Global Citizen and Culture	2後		2			○										1	
	Global Citizen and Society	2後		2			○										1	
	Global Citizen and Peace	2前		2			○										1	
	Global Citizen and Human Resource	2後		2			○										1	
	Global Citizen and Environment	2前		2			○										1	
	Global Citizen and Technology	2後		2			○										1	
	Global Citizen and Religion	2前		2			○										1	
	Global Citizen and Media	2前		2			○										1	

専門事例科目群(続き)	Global Citizen and Business	2後			2			○								1	
	Global Citizen and Development	2後			2			○								1	
専門事例科目群(続き)	Global Citizen and Law	2前			2			○								1	
	Global Citizen and Justice	2後			2			○								1	
専門事例科目群(続き)	Global Citizen and Constructive Controversy	2後			2			○								1	
	<b>小計(33科目)</b>	—	—	0	74	0	—	—	—	7	2	1	0	0	7		
選択必修科目(続き)	映像表現法	2前			2			○								1	
	映像表現演習	2後			2			○								1	
選択必修科目(続き)	アート・デザイン論	2後			2			○								1	
	アート・デザイン演習	2前			2			○								1	
選択必修科目(続き)	ワークショップ・デザイン論	2前			2			○								1	
	リーダーシップ・組織論	2前			2			○								1	
選択必修科目(続き)	ユニバーサル・コミュニケーション論	2前			2			○								1	
	ユニバーサル・コミュニケーション演習	2後			2			○								1	
選択必修科目(続き)	コーチング論	2前			2			○								1	
	日本語教授法論1	2・3前			2			○								1	
選択必修科目(続き)	日本語教授法論2	2・3後			2			○								1	
	日本語教授法演習1	2・3前			2			○								2	
選択必修科目(続き)	日本語教授法演習2	2・3後			2			○								2	
	情報スキル1	2・3後			2			○		○						1	
選択必修科目(続き)	情報スキル2	2・3後			2			○		○						1	
	情報スキル3	2・3後			2			○		○						1	
選択必修科目(続き)	データサイエンス	2・3後			2			○		○						1	
	社会課題解決のための情報スキル	2・3後			2			○		○						1	
選択必修科目(続き)	社会課題解決のためのメディア1	2・3前			2			○								1	
	社会課題解決のためのメディア2	2・3後			2			○								1	
選択必修科目(続き)	社会課題解決のためのビジネス1	2・3前			2			○								1	
	社会課題解決のためのビジネス2	2・3後			2			○								1	
選択必修科目(続き)	国際協力のための外国語	2・3休			4			○									共同
	外国語特別演習	1・2通			1			○									共同
	<b>小計(24科目)</b>	—	—	0	49	0	—	—	—	4	1	0	0	0	18		
基幹教育科目	スタートアップ・ゼミナール	1前			1			○								3	
	初年次ゼミナール	1前			2			○								2	
基幹教育科目	初年次ゼミナール	1後			2			○								1	メディア
	キャリア・デザイン I	1後			2			○								3	
基幹教育科目	スペイン語の世界	2後			2			○								10	
	人間論	1前			2			○								3	オムニバス
基幹教育科目	キリスト教学 I	2前			2			○								4	
	キリスト教学 II	2後			2			○								4	
基幹教育科目	健康・安全管理	1後			2			○								1	オムニバス
	情報環境の構築	1前			1			○								3	
基幹教育科目	情報環境の構築	1休			1			○								2	共同
	データリテラシー基礎	1後			1			○								3	
基幹教育科目	情報社会の安全と倫理	1前			1			○								1	
	<b>小計(13科目)</b>	—	—	18	3	0	—	—	—	3	1	1	0	0	26		
基幹教育科目	First-year English: English for Global Citizens 1a	1前			2			○								6	
	First-year English: English for Global Citizens 1b	1後			2			○								6	
基幹教育科目	First-year English: Seisen Studies in English	1前・後			2			○								4	
	First-year English: Basic English GC 1a	1前			2			○								1	
基幹教育科目	First-year English: Basic English GC 1b	1後			2			○								1	
	First-year English: Basic English GC 2	1前			2			○								1	
基幹教育科目	Second-year English: English for Global Citizens 2	2前			2			○								5	
	<b>小計(7科目)</b>	—	—	2	12	0	—	—	—	1	0	0	0	0	13		
選択外国語	English Skills Workshop (Extensive Reading) a	1・2・3・4前			2			○								1	
	English Skills Workshop (Extensive Reading) b	1・2・3・4後			2			○								1	
選択外国語	English Skills Workshop (Active Skills for Communication) a	1・2・3・4前			2			○								1	
	English Skills Workshop (Active Skills for Communication) b	1・2・3・4後			2			○								1	

基幹教育科目（続き）	選択外国語（続き）	English Skills Workshop (Academic Listening)	1・2・3・4後			2				○								1		
		English Skills Workshop (Advanced Academic Listening)	1・2・3・4後			2				○									1	
		English Skills Workshop (Academic Writing)	1・2・3・4前			2				○									1	
		TOEIC対策講座 Pre-intermediate a	1・2・3・4前			2				○									3	
		TOEIC対策講座 Pre-intermediate b	1・2・3・4後			2				○									4	
		TOEIC対策講座 Intermediate a	1・2・3・4前			2				○									3	
		TOEIC対策講座 Intermediate b	1・2・3・4後			2				○									4	
		TOEIC対策講座 Advanced a	1・2・3・4前			2				○									1	
		TOEIC対策講座 Advanced b	1・2・3・4後			2				○									1	
		留学準備TOEFL-ITP対策講座 a	1・2・3・4前			2				○									1	
		留学準備TOEFL-ITP対策講座 b	1・2・3・4後			2				○									1	
		留学準備TOEFL S&W対策講座	1・2・3・4後			2				○									1	
		留学準備IELTS対策講座 a	1・2・3・4前			2				○									1	
		留学準備IELTS対策講座 b	1・2・3・4後			2				○									1	
		英検対策講座 a	1・2・3・4前			2				○									1	
		英検対策講座 b	1・2・3・4後			2				○									1	
		Business Communication	1・2・3・4後			2				○									1	
		Current Issues: SDGs a	1・2・3・4前			2				○									1	
		Current Issues: SDGs b	1・2・3・4後			2				○									1	
		フランス語入門	1・2・3・4前			2				○									1	
		フランス語初級	1・2・3・4後			2				○									1	
		ドイツ語入門	1・2・3・4前			2				○									1	
		ドイツ語初級	1・2・3・4後			2				○									1	
		中国語入門	1・2・3・4前			2				○									3	
		中国語初級	1・2・3・4後			2				○									1	
		朝鮮・韓国語入門	1・2・3・4前			2				○									1	
		朝鮮・韓国語初級	1・2・3・4後			2				○									1	
		イタリア語入門	1・2・3・4前			2				○									1	
		イタリア語初級	1・2・3・4後			2				○									1	
		ギリシア語入門	1・2・3・4前			2				○									1	
		ギリシア語初級	1・2・3・4後			2				○									1	
		ラテン語入門	1・2・3・4前			2				○									1	
		ラテン語初級	1・2・3・4後			2				○									1	
		ロシア語入門	1・2・3・4前			2				○									1	
		ロシア語初級	1・2・3・4後			2				○									1	
		日本語上級文法a	1・2・3・4前			2				○			1							
		日本語上級文法b	1・2・3・4後			2				○			1							
		日本語上級読解a	1・2・3・4前			2				○									1	
		日本語上級読解b	1・2・3・4後			2				○									1	
		日本語上級会話a	1・2・3・4前			2				○			1							
		日本語上級会話b	1・2・3・4後			2				○			1							
		日本語上級総合a	1・2・3・4前			2				○									1	
		日本語上級総合b	1・2・3・4後			2				○									1	
		日本語中級Ia	1・2・3・4前			2				○									1	
		日本語中級Ib	1・2・3・4後			2				○									1	
		日本語中級IIa	1・2・3・4前			2				○									1	
		日本語中級IIb	1・2・3・4後			2				○									1	
		日本語中級IIIa	1・2・3・4前			2				○									1	
		日本語中級IIIb	1・2・3・4後			2				○									1	
		日本語中級IVa	1・2・3・4前			2				○									1	
		日本語中級IVb	1・2・3・4後			2				○									1	
			<b>小計(55科目)</b>	—	—	<b>0</b>	<b>110</b>	<b>0</b>					<b>—</b>	<b>1</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>28</b>	
		教養科目	考える技法	1・2・3・4前				2				○								1
			書く技法（基礎）	1・2・3後				2				○			1					1
			書く技法（一般）	1・2・3前				2				○								1
書く技法（発展）	2・3・4前・後					2				○								1		
読む技法	1・2・3・4後					2				○								1		
対話の技法	1・2・3・4後					2				○								1		
文理融合基礎	1・2・3・4後					2				○								1		
キャリア・デザインⅡ	2前					2			○									1		
キャリア・デザインⅢ□	3前					2			○			1						1		
キャリアの組織論	2・3・4後					2			○									1		
インターンシップ	2・3・4通				2				○								1			

基幹教育科目（続き）	教養科目（続き）	ジェンダー学	1・2・3・4後			2		○										1		
		現代社会とジェンダー	1・2・3・4後			2		○											1	
		教育とジェンダー	1・2・3・4後			2			○			1								
		表象文化とジェンダー	1・2・3・4後			2		○											1	
		英語で学ぶ平和	1・2・3・4前			2			○										1	
		英語で学ぶ対話	1・2・3・4後			2			○										1	
		平和学	1・2・3・4前			2		○											1	
		SDGs概論	1・2・3・4前			2		○											1	
		現代社会とボランティア	1・2・3・4前			2				○										1
		地域協力演習	1・2・3・4通			2				○										1
		暮らしの法律	1・2・3・4前			2		○												1
		現代社会と法律	1・2・3・4前			2		○												1
		労働者と法律	1・2・3・4後			2		○												1
		現代の国際経済	1・2・3・4後			2		○												1
		現代の日本政治	1・2・3・4前			2		○												1
		現代の国際政治	1・2・3・4後			2		○												1
		現代社会とメディア	1・2・3・4前			2		○												1
		現代社会と倫理	1・2・3・4前			2		○												1
		暮らしの倫理学	1・2・3・4後			2		○												1
		心理学 1	1・2・3・4前			2		○												1
		心理学 2	1・2・3・4後			2		○												1
		暮らしの科学（実験講座 キッチンサイエンス）	1・2・3・4前			2				○										1
		科学史・科学哲学	1・2・3・4後			2		○												1
		言語学	1・2・3・4前			2		○												1
		応用言語学	1・2・3・4前			2		○												1
		社会言語学	1・2・3・4後			2		○												1
		認知言語学	1・2・3・4後			2		○												1
		日本語音声学	1・2・3・4後			2		○												1
		日本語教育文法	1・2・3・4休			2		○												1
		法学（日本国憲法）	1・2・3・4前			2		○												1
		経済学	1・2・3・4前			2		○												1
		暮らしの経済学	1・2・3・4後			2		○												1
		暮らしの社会学	1・2・3・4前			2		○												1
		哲学1	1・2・3・4後			2		○												1
		哲学2	1・2・3・4前			2		○												1
		表象文化論	1・2・3・4後			2		○												1
		音楽	1・2・3・4前			2		○												1
		キリスト教の祈り	1・2・3・4前			2		○												1
		キリスト教のこぼ	1・2・3・4後			2		○												1
		キリスト教の思想	1・2・3・4後			2		○												1
		キリスト教と現代社会	1・2・3・4前			2		○												1
		キリスト教と美術	1・2・3・4前			2		○												1
		キリスト教と音楽	1・2・3・4後			2		○												1
		キリスト教と文学	1・2・3・4前			2		○												1
		暮らしの科学（実験講座 健康と環境）	1・2・3・4後			2				○										1
		暮らしの科学（栄養学）	1・2・3・4前			2		○												1
		暮らしの科学（病気の予防）	1・2・3・4前			2		○												1
		暮らしの科学（健康増進）	1・2・3・4後			2		○												1
		心身の医学	1・2・3・4前			2		○												1
		体育実技・理論	1・2・3・4前・後			1						○								2
		体育実技・理論	1・2・3・4休			1						○								1
		数量リテラシー	1後			2						○								2
		情報科学1	2・3・4前			2						○								1
		情報科学2	2・3・4前			2						○								1
		情報科学3	2・3・4後			2						○								1
		情報科学4	2・3・4後			2						○								1
		小計(67科目)	—	—	0	132	0	—	—	—	—	1	1	0	0	0	0	50		
		合計(250科目)	—	—	59	453	0	—	—	—	—	8	3	2	0	0	137			
		学位又は称号	学士（地球市民学）			学位又は学科の分野			文学関係											

オムニバス・共同（一部）

卒業・修了要件及び履修方法	授業期間等	
<p>・<b>自学科専門科目</b>：  1年次：「思考法・表現法・スキル」「多文化理解と言語」「地球社会の理解」「PBL」から計16単位必修。2年次：「思考法・表現法・スキル」「多文化理解と言語」「地球社会の理解」「PBL」から10単位必修。3年次：「総合知・応用」「思考法・表現法・スキル」から5単位必修。4年次：「総合知・応用」8単位必修。（計39単位）  領域必修科目として、「地球社会の理解」または「多文化理解と言語」から4単位選択必修。  選択必修科目として、地球市民セミナー科目群から2単位選択必修、「地球社会の理解」または「多文化理解と言語」から2単位選択必修、フィールドワーク科目群から2単位選択必修、専門事例科目群の「専門事例科目」から4単位選択必修、「Global Citizen科目」から2単位選択必修、「思考法・表現法・スキル」から2単位選択必修、その他自学科専門科目から8単位選択必修。（計26単位）</p> <p>・<b>基幹教育科目</b>：清泉スタンダード18単位必修、必修外国語から2単位必修、6単位選択必修、教養科目から14単位以上選択必修（計40単位）</p> <p>・<b>自由選択</b>：19単位</p> <p>合計124単位以上修得すること。  （履修科目の登録の上限：24単位（半期））</p>	1学年の学期区分	2学期
	1学期の授業期間	13週
	1時限の授業の標準時間	105分

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(文学部地球市民学科)																	
科目 区分		授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	基 幹 教 員 (助 手 を 除 く)	
1 年次 必修 科目	思 考 法 法 ・ ス キ ル	チュートリアル	1前		2				○		4	1					
		基礎概念1	1前	○	4				○		2						
		基礎概念2	1後	○	4				○		2						
	理 解 多 文 化	English for Global Citizens 1	1前			2				○						4	
English for Global Citizens 2		1後			2				○						4		
P B L	個人プロジェクト1	1前			2				○		1						
	個人プロジェクト2	1後			2				○						2		
	小計(7科目)	—	—	—	18	0	0	—	—	5	1	0	0	0	6		
2 年次 必修 科目	理 解 多 文 化	English for Global Citizens 3	2前		2				○		1					2	
		国際協力のための英語	2休		4				○		1						
	共 生 社	データサイエンス入門	2前	○	2					○		2	1				オムニバス
		データサイエンス応用	2後		2					○		2					
P B L	グループプロジェクト1	2前	○	2					○		1						
	グループプロジェクト2	2後	○	2					○		1						
	小計(6科目)	—	—	—	14	0	0	—	—	4	1	0	0	0	2		
3 年次 必修 科目	総 合 知 ・ 応 用	研究プロジェクト1	3前・後	○	2				○		5	2					
		研究プロジェクト2	3前・後	○	2				○		5	2					
	法 ・ ス キ ル 思 考 法 ・ 表 現	プレゼンテーション技法	3後		2					○						2	
		プロジェクト・プレゼンテーション	3後		2					○		1					
小計(4科目)	—	—	—	8	0	0	—	—	5	2	0	0	0	2			
4 年次 必修 科目	総 合 知 ・ 応 用	研究プロジェクト3	4前・後	○	2				○		6	2					
		シニアチュートリアル	4前・後	○	2				○		6	2					
		卒業論文	4通	○	2					○		1					
		卒業プレゼンテーション	4後	○	2					○		1					
小計(4科目)	—	—	—	8	0	0	—	—	6	2	0	0	0	0			
選 択 必 修 科 目	地 球 市 民 セ ミ ナ ー 科 目 群	地球市民セミナー1	1・2・3・4前			1			○		1						
		地球市民セミナー2	1・2・3・4後			1			○		1						
		小計(2科目)	—	—	—	0	2	0	—	—	2	0	0	0	0	0	
	グ ロー バ ル ・ ス タ ディ ー ズ バ ル 目 群	グローバル・スタディーズ1	1・2・3・4後			2				○						1	
		グローバル・スタディーズ2	1・2・3・4前			2				○						1	
		グローバル・スタディーズ3	1・2・3・4後			2				○						1	
		グローバル・スタディーズ4	1・2・3・4前			2				○						1	
		グローバル・スタディーズ5	1・2・3・4前			2				○						1	
		グローバル・スタディーズ6	1・2・3・4前			2				○						1	
	小計(6科目)	—	—	—	0	12	0	—	—	0	0	0	0	0	4		
系 地 域 目 群	地域研究1	1・2・3・4前			2				○						1	隔年	
	地域研究2	1・2・3・4前			2				○						1	隔年	
	地域研究3	1・2・3・4後			2				○						1	隔年	
	地域研究4	1・2・3・4後			2				○						1	隔年	
	地域研究5	1・2・3・4前			2				○						1	隔年	
	地域研究6	1・2・3・4前			2				○						1	隔年	

選択必修科目(続き)	地域研究系科	地域研究7	1・2・3・4前			2		○			1						
		地域研究8	1・2・3・4後			2		○			1						
		小計(8科目)	—	—	0	16	0	—			0	0	0	0	0	0	6
	英語系科目群	Global Citizen and Politics	2・3・4後			2		○									1
		Global Citizen and Culture	2・3・4前			2		○									1
		Global Citizen and Society	2・3・4後			2		○									1
		Global Citizen and Peace	2・3・4前			2		○									1
		Global Citizen and Human Resource	2・3・4後			2		○									1
		Global Citizen and Environment	2・3・4前			2		○									1
		Global Citizen and Technology	2・3・4後			2		○									1
		Global Citizen and Religion	2・3・4前			2		○									1
		Global Citizen and Media	2・3・4前			2		○									1
		Global Citizen and Business	2・3・4後			2		○									1
		Global Citizen and Development	2・3・4後			2		○									1
		Global Citizen and Law	2・3・4前			2		○									1
		Global Citizen and Justice	2・3・4後			2		○									1
		Global Citizen and Constructive Controversy	2・3・4後			2		○									1
		小計(14科目)	—	—	0	28	0	—			0	0	0	0	0	0	7
	フィールドワーク目群	フィールドワーク1	1・2・3・4休			2			○		1						
		フィールドワーク3	1・2・3・4前			4			○		1						
	フィールドワーク4	1・2・3・4通			6			○		1							
	フィールドワーク5	1・2・3・4前			4			○			1						
	GCSインターンシップ	1・2・3・4通			2			○		1					1		
	小計(5科目)	—	—	0	18	0	—			3	1	0	0	0	0	1	
専門事例系科目群	専門事例：地球市民と政治	2・3・4後			4			○		1						隔年	
	専門事例：地球市民と文化	2・3・4後			4			○			1					隔年	
	専門事例：地球市民と社会	2・3・4後			4			○			1					隔年	
	専門事例：地球市民と平和	2・3・4後			4			○		1						隔年	
	専門事例：地球市民と人的資源	2・3・4前			4			○		1						隔年	
	専門事例：地球市民と環境	2・3・4後			4			○		1						隔年	
	専門事例：地球市民と技術	2・3・4前			4			○		1						隔年	
	専門事例：地球市民と宗教	2・3・4前			4			○			1					隔年	
	専門事例：地球市民とメディア	2・3・4前			4			○		1		1				隔年	
	専門事例：地球市民と企業	2・3・4前			4			○		1						隔年	
	専門事例：地球市民と開発	2・3・4後			4			○		1						隔年	
	専門事例：地球市民と対話	2・3・4後			4			○		1						隔年	
	小計(12科目)	—	—	0	48	0	—			5	2	0	0	0	0	0	
コンセプト・スキル系科目群	映像表現法	1・2・3・4前			2		○									1	
	アート・デザイン論	1・2・3・4後			2		○									1	
	ワークショップ・デザイン論	1・2・3・4前			2			○								1	
	リーダーシップ・組織論	1・2・3・4前			2		○									1	
	ユニバーサル・コミュニケーション論	1・2・3・4前			2		○									1	
	ユニバーサル・コミュニケーション演習	1・2・3・4後			2			○								1	
	コーチング論	1・2・3・4前			2			○								1	
	コーチング演習	2・3・4前			2			○		1							
	小計(8科目)	—	—	0	16	0	—			1	0	0	0	0	0	7	
その他	国際協力のための外国語	1・2・3・4休			4			○		1							
	外国語特別演習	1・2・3・4通			2			○		1							
	小計(2科目)	—	—	0	6	0	—			2	0	0	0	0	0	0	
全学共通科目	「建学の精神」科目	人間論	1前	○	2			○		3	1					オムニバス	
		キリスト教学I	2前		2			○		1	1					3	
		キリスト教学II	2後		2			○		1	1					3	
		キリスト教と文化a	1・2・3・4前		2			○		1						5	
		キリスト教と文化b	1・2・3・4後		2			○		1						5	
		キリスト教概論a	1・2・3・4前		2			○								1	
		キリスト教概論b	1・2・3・4後		2			○								1	
		キリスト教思想a	2・3・4前		2			○		1							
		キリスト教思想b	2・3・4後		2			○		1							
		キリスト教文学a	2・3・4前		2			○								1	
		キリスト教文学b	2・3・4後		2			○								1	
	小計(11科目)	—	—	6	16	0	—			3	1	0	0	0	0	12	

初年次教育科目	スタートアップ・ゼミナール	1前		1			○		7	1								
	初年次ゼミナール	1前	○	2			○		7	2	1							
	初年次ゼミナール	1後			2		○			2								
	初年次スタディーズ1	1後			2		○		6	3								
	初年次スタディーズ2	1後			2		○		7	1	1							
	初年次スタディーズ3	1後			2		○		6	2								
	初年次スタディーズ4	1後			2		○		5	2								
	初年次スタディーズ5	1後			2		○		4	4								
	初年次スタディーズ6	1後			2		○			1								
	小計(9科目)	—	—	3	14	0		—	27	8	2	0	0	0				
外国語科目(必修・英語)	First-year English: Reading & Writing a	1前			2		○		1									10
	First-year English: Advanced English I-1a	1前			2		○											1
	First-year English: Advanced English I-2a	1前			2		○											1
	First-year English: Advanced English II-1a	1前			2		○											1
	First-year English: Advanced English II-2a	1前			2		○											1
	First-year English: Basic English a	1前			4		○											1
	First-year English: Reading & Writing b	1後			2		○		1									10
	First-year English: Advanced English I-1 b	1後			2		○											1
	First-year English: Advanced English I-2 b	1後			2		○											1
	First-year English: Advanced English II-1 b	1後			2		○											1
	First-year English: Advanced English II-2 b	1後			2		○											1
	First-year English: Basic English b	1後			4		○											1
	First-year English: Listening & Speaking	1前・後			2		○											7
	First-year English: Seisen Studies in English	1前・後			2		○											7
	Second-year English: Academic English a	2前			2		○											9
	Second-year English: Advanced English I-1a	2前			2		○											1
	Second-year English: Advanced English I-2a	2前			2		○											1
	Second-year English: Advanced English II-1a	2前			2		○											1
	Second-year English: Advanced English II-2a	2前			2		○											1
	Second-year English: Academic English b	2後			2		○											9
	Second-year English: Advanced English I-1b	2後			2		○											1
	Second-year English: Advanced English I-2b	2後			2		○											1
	Second-year English: Advanced English II-1b	2後			2		○											1
	Second-year English: Advanced English II-2b	2後			2		○											1
	Second-year English: Writing	2前・後			2		○											6
	Second-year English: English Seminar	2前・後			2		○		1									5
小計(26科目)	—	—	0	56	0		—	1	0	0	0	0	0				30	
外国語科目(選択・英語)	English Skills Workshop (Extensive Reading)a	1・2・3・4前			2		○											1
	English Skills Workshop (Extensive Reading)b	1・2・3・4後			2		○											1
	English Skills Workshop (Academic Listening)a	1・2・3・4前			2		○											1
	English Skills Workshop (Academic Listening)b	1・2・3・4後			2		○											1
	English Skills Workshop (Advanced Academic Listening)a	1・2・3・4前			2		○											1
	English Skills Workshop (Advanced Academic Listening)b	1・2・3・4後			2		○											1

外国語科目 (選択・英語) (続き)	English Skills Workshop (Academic Writing)a	1・2・3・4前		2			○								1	
	English Skills Workshop (Academic Writing)b	1・2・3・4後		2			○								1	
	TOEIC対策講座Pre-intermediate a	1・2・3・4前		2			○								2	
	TOEIC対策講座Pre-intermediate b	1・2・3・4後		2			○								2	
	TOEIC対策講座Intermediate a	1・2・3・4前		2			○								2	
	TOEIC対策講座Intermediate b	1・2・3・4後		2			○								2	
	TOEIC対策講座Advanced a	1・2・3・4前		2			○								1	
	TOEIC対策講座Advanced b	1・2・3・4後		2			○								1	
	TOEFL-ITP対策講座 a	1・2・3・4前		2			○								1	
	TOEFL-ITP対策講座 b	1・2・3・4後		2			○								1	
	TOEFL S&W対策講座	1・2・3・4前		2			○								1	
	英検対策講座 a	1・2・3・4前		2			○								1	
	英検対策講座 b	1・2・3・4後		2			○								1	
	Theater Education a	1・2・3・4前		2			○								1	
	Theater Education b	1・2・3・4後		2			○								1	
	Business Communication	1・2・3・4後		2			○								1	
	Current Issues a	1・2・3・4前		2			○								1	
	Current Issues b	1・2・3・4後		2			○								1	
	小計(24科目)	—	—	0	48	0	—	—	0	0	0	0	0	0	13	
	全学共通科目 (続き)	外国語科目 (選択・英語以外)	スペイン語Ⅰ	1・2・3・4前		2			○							2
スペイン語Ⅱ			1・2・3・4後		2			○							2	
フランス語Ⅰ			1・2・3・4前・後		2			○							2	
フランス語Ⅱ			1・2・3・4後		2			○							2	
ドイツ語Ⅰ			1・2・3・4前		2			○							1	
ドイツ語Ⅱ			1・2・3・4後		2			○							1	
中国語Ⅰ			1・2・3・4前・後		2			○							3	
中国語Ⅱ			1・2・3・4後		2			○							3	
日本語文法Ⅰ			1・2・3・4前		2			○		1					1	
日本語文法Ⅱ			1・2・3・4後		2			○		1					1	
日本語読解Ⅰ			1・2・3・4前		2			○							2	
日本語読解Ⅱ			1・2・3・4後		2			○							1	
日本語会話Ⅰ			1・2・3・4前		2			○		1					1	
日本語会話Ⅱ			1・2・3・4後		2			○		1					1	
総合日本語Ⅰ			1・2・3・4前		2			○							2	
総合日本語Ⅱ			1・2・3・4後		2			○							1	
朝鮮・韓国語Ⅰ			1・2・3・4前・後		2			○							2	
朝鮮・韓国語Ⅱ			1・2・3・4後		2			○							2	
朝鮮・韓国語Ⅲ			1・2・3・4前・後		2			○							1	
イタリア語Ⅰ			1・2・3・4前		2			○							1	
イタリア語Ⅱ	1・2・3・4後		2			○							1			
ギリシア語Ⅰ	1・2・3・4前		2			○		1								
ギリシア語Ⅱ	1・2・3・4後		2			○		1								
ラテン語Ⅰ	1・2・3・4前		2			○							1			
ラテン語Ⅱ	1・2・3・4後		2			○							1			
ロシア語Ⅰ	1・2・3・4前		2			○			1							
ロシア語Ⅱ	1・2・3・4後		2			○			1							
小計(27科目)	—	—	0	54	0	—	—	2	1	0	0	0	0	16		
情報科学科目	情報科学入門1 a	1前		1			○	1						2	メディア	
	情報科学入門1 a	1休			1		○	1						1	共同 メディア	
	情報科学入門1 b	1後		1			○	1						2		
	情報科学入門2	1前		1			○	1						1		
	情報科学1 b	2・3・4後			2		○							1		
	情報科学1 c	2・3・4前			2		○							1		
	情報科学1 d	2・3・4後			2		○							1		
	情報科学2	2・3・4後			2		○							1		
	情報科学3a	2・3・4前			2		○							1		
	情報科学3b	2・3・4後			2		○							1		
小計(10科目)	—	—	3	13	0	—	—	1	0	0	0	0	0	3		
「心身の健康」科目	健康・安全管理	1後		2			○	1						1	オムニバス	
	体育実技・理論	1・2・3・4前・後			1		○							1		
	体育実技・理論	1・2・3休			1		○							1		
	体育実技・理論	1・2・3・4休			1		○							1		
	体育実技・理論	1・2・3休			1		○	1	1					1	共同	
小計(5科目)	—	—	2	4	0	—	—	2	1	0	0	0	0	4		



資格課程科目	教職課程	教職入門	1後			2		○			3							オムニバス		
		教育学概論	2前			2		○			1									
		教育心理学	2前			2		○			1									
		教育制度論	2後			2		○			1									
		教育方法論 (ICT活用を含む)	2後			2		○			1									
		特別支援教育概論	2休			1		○											1	
		教育課程論	3前			1		○						1						
		特別活動の理論と方法	3前			1		○				1								
		生徒指導 (進路指導を含む)	3前			2		○				1								
		教育相談	3後			2		○												1
		道徳教育の理論と方法	3前			2		○				1								
		教育実習指導	3後			1		○				1								
		総合的な学習の時間の指導法	3後			1		○						1						
		教育実践演習 (中・高)	4後			2				○		3								オムニバス
		教育実習1	4通			2						1								標準外
		教育実習2	4通			2						1								標準外
		国語科教育法Ⅰ	2前			2		○												1
		国語科教育法Ⅱ	2後			2		○												1
		国語科教育法Ⅲ	3前			2		○												1
		国語科教育法Ⅳ	3後			2		○												1
		英語科教育法Ⅰ	2前			2		○				1								
		英語科教育法Ⅱ	2後			2		○				1								
		英語科教育法Ⅲ	3前			2		○				1								
		英語科教育法Ⅳ	3後			2		○				1								
		イスパニア語科教育法Ⅰ	2前			2		○												1
		イスパニア語科教育法Ⅱ	2後			2		○												1
		イスパニア語科教育法Ⅲ	3前			2		○												1
		イスパニア語科教育法Ⅳ	3後			2		○												1
		社会科・地歴科教育法Ⅰ	2前			2		○				1								
		社会科・地歴科教育法Ⅱ	2後			2		○				1								
		社会科・公民科教育法Ⅰ	3前			2		○				1								
		社会科・公民科教育法Ⅱ	3後			2		○				1								
		宗教科教育法Ⅰ	2前			2		○												1
		宗教科教育法Ⅱ	2後			2		○												1
		宗教科教育法Ⅲ	3前			2		○												1
		宗教科教育法Ⅳ	3後			2		○												1
		現代と法律	2・3・4後			2		○												1
		現代教育問題	2・3・4後			2		○												1
		学習科学	2・3・4前			2		○				1								
小計(39科目)		—	—	0	73	0	—	—	—	5	0	1	0	0	0	0	9			
司書教諭課程	学校経営と学校図書館	2前			2		○											1		
	読書と豊かな人間性	2・3・4後			2		○											1		
	学校図書館メディアの構成	2・3・4後			2		○					1								
	学習指導と学校図書館	2・3・4前			2		○											1		
	情報メディアの活用	3・4後			2		○						1							
小計(5科目)		—	—	0	10	0	—	—	1	0	1	0	0	0	0	2				
司書課程	生涯学習概論1	2・3・4前			2		○											1		
	生涯学習概論2	2・3・4後			2		○											1		
	図書館情報学概論	2前			2		○					1								
	情報資源組織論	2前			2		○											1		
	情報資源組織演習Ⅰ	2後			2				○									1		
	情報資源組織演習Ⅱ	2・3後			2				○									1		
	図書館サービス概論	2・3・4前			2		○											1		
	児童サービス論	2・3・4前			2		○											1		
	図書館情報資源概論	2・3・4前			2		○											1		
	図書館制度・経営論	3・4後			2		○											1		
	情報サービス論	3・4前			2		○											1		
	情報サービス演習Ⅰ	3・4前			2				○			1								
	情報サービス演習Ⅱ	3・4後			2				○			1								
	図書館情報技術論	3・4前			2		○			1								1		
	図書館基礎特論	2・3・4後			1		○											1		
図書・図書館史	2・3・4前			1		○											1			
図書館サービス特論	2・3・4後			2		○											1			
図書館情報資源特論	3・4後			1		○											1			
図書館実習	3・4通			1					○			1						標準外		
小計(19科目)		—	—	0	34	0	—	—	1	0	1	0	0	0	0	12				
書学課程司	学校図書館概論	2前			2		○											1		
	学校教育概論	2・3・4後			2		○					1								
小計(2科目)		—	—	0	4	0	—	—	0	0	1	0	0	0	1					

資格課程科目(続き)	学芸員課程	博物館情報・メディア論	3休			2		○								1	標準外 共同	
		博物館教育論	3後			2		○										1
		博物館展示論	3後			2		○										1
		博物館学	3休			4		○										1
		博物館資料論	3休			2		○			1							1
		博物館資料保存論	3前			2		○										1
		博物館実習	4通			3				○	1							1
		小計(7科目)	—	—	0	17	0	—			1	0	0	0	0	0		6
	日本語教員課程	日本語教育概論	2前			2		○			1							
		日本語音声学	2・3後			2		○									1	
		日本語教授法Ⅰa	2・3前			2		○									1	
		日本語教授法Ⅰb	2・3後			2		○									1	
		日本語教授法Ⅱa	2・3前			2		○			1							
		日本語教授法Ⅱb	2・3後			2		○			1							
		日本語教育文法	2・3休			2		○									1	
異文化理解とコミュニケーション		2・3・4後			2		○			1								
日本語教授法演習1a		3・4前			2			○								1		
日本語教授法演習1b		3・4後			2			○								1		
日本語教授法演習2a		3・4前			2			○								1		
日本語教授法演習2b		3・4後			2			○								1		
日本語教育実習1		3・4休			2				○	1								
日本語教育実習3		3・4後			1				○	1								
小計(14科目)	—	—	0	27	0	—			1	0	0	0	0	0	5			
合計(276科目)				—	—	62	646	0	—	34	9	2	0	0	148			
学位又は称号		学士(地球市民学)			学位又は学科の分野			文学関係										
卒業・修了要件及び履修方法										授業期間等								
<p>・自学科専門科目:1年次必修科目18単位、2年次必修科目14単位、3年次必修科目8単位、4年次必修科目8単位、計48単位。「地球市民セミナー科目群」から2単位選択必修、「グローバル・スタディーズ科目群」「地域研究系科目群」から2単位選択必修、「英語系科目群」から4単位選択必修、「専門事例科目群」から8単位選択必修、「コンセプト・スキル系科目群」から2単位選択必修、計66単位)</p> <p>・共通科目:「建学の精神」科目(「人間論」2単位必修、「キリスト教学Ⅰ」2単位必修、「キリスト教学Ⅱ」2単位必修、計6単位)、初年次教育科目(「スタートアップ・ゼミナール」1単位必修、「初年次ゼミナール」2単位必修、「初年次スタディーズ」2単位選択必修、計5単位)、外国語科目(英語)(1年次8単位選択必修、2年次8単位選択必修、計16単位)、情報科学科目(「情報科学入門1a」1単位必修、「情報科学入門1b」1単位必修、「情報科学入門2」1単位必修、計3単位)、「心身の健康」科目(「健康・安全管理」2単位必修、「体育実技・理論」1単位選択必修、計3単位)、教養科目・「建学の精神」選択科目・キャリア教育科目から16単位以上選択必修。</p> <p>・自由選択:17単位以上</p> <p>合計132単位以上修得する。(履修科目の登録の上限:24単位(半期))</p>										1学年の学期区分				2学期				
										1学期の授業期間				13週				
										1時限の授業の標準時間				105分				

## 授業科目の概要

## (地球市民学部地球市民学科)

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
1 年次 必修 科目	チュートリアル		本科目を通して受講生は、まず本学部の成り立ちやカリキュラムの仕組み、学科教員の学修歴や研究歴・専門分野などを理解する。第二に、4年間の大学生活をどのように過ごすか、計画を立て、情報発信力のコンセプトを意識しながら第三者に向けてプレゼンテーションを行う。さらに、Social Emotional Learning (SEL、科目名:個人プロジェクト1)で取り組む「マイプロジェクト」についての計画や内容について、チュートリアル教員やSEO (Student Experience Officer) の助言を自ら必要なタイミングで能動的に受ける。最後に、学科教員の話を参考にしながら、各自が大学生活の目標を「私の大学生活計画書」の形態で執筆する。	
	地球市民としての思考と表現1	○	地球市民学部生が、多文化理解および地球社会の理解について研究を進め、それらを応用して各種プロジェクトやフィールドワーク等の実践活動を行うためには、まずは思考法や表現法について学び、「学び方」を身につける必要がある。本科目は「思考のツール・思考の概念(コンセプト)」=概念型学習として本学部が開発した、「地球市民のための101のコンセプト(101 Concepts for Global Citizens)」を学生に紹介し、それを使用できるようになることを目的とする。地球市民学を構成する政治学、国際関係論、経済学、法学、文化人類学、平和学、社会学、経営学、人的資源管理論、環境科学、開発学といったテーマに関連する「事例」を用いながら、少人数のディスカッションを通じて、「地球市民のための101のコンセプト」の理解を浸透させていく。本科目は101のコンセプトのうち前半部分を取り扱う。	
	地球市民としての思考と表現2	○	地球市民学部生が、多文化理解および地球社会の理解について研究を進め、それらを応用して各種プロジェクトやフィールドワーク等の実践活動を行うためには、まずは思考法や表現法について学び、「学び方」を身につける必要がある。本科目は「思考のツール・思考の概念(コンセプト)」=概念型学習として本学部が開発した、「地球市民のための101のコンセプト(101 Concepts for Global Citizens)」を学生に紹介し、それを使用できるようになることを目的とする。地球市民学を構成する政治学、国際関係論、経済学、法学、文化人類学、平和学、社会学、経営学、人的資源管理論、環境科学、開発学といったテーマに関連する「事例」を用いながら、少人数のディスカッションを通じて、「地球市民のための101のコンセプト」の理解を浸透させていく。本科目は101のコンセプトのうち後半部分を取り扱う。	
	多文化理解と言語	プロジェクトのための英語コミュニケーション		本学部の英語科目は、英語を母語とするネイティブスピーカーに近づくためではなく、英語を現代社会の「共通語」として、すなわち社会において、お互いの第二言語として、英語を問題なく用いていく、国際的英語ユーザーになることを目的とする。そのためには、ただ英語の四技能を高めるのではなく、他の英語ユーザーのさまざまな文化的背景の理解が不可欠であるし、自文化の理解も重要となる。 本科目は、英語を「共通語」として世界の多くの人々と協働できるようになるための第一歩の1年次科目である。まずは、共通語としての英語とは何か、共通語として用いる際に相手の文化を理解することがなぜ重要なのかを説明した上で、共通語として英語を用いることによって可能になるような自分像を描いてもらい、そのための懸念や苦手分野に関して書き出す。この意識づけを経て、共通語(第二言語)として英語を用いるために十分な四技能を身につけるための自身の優先順位を意識し、苦手分野を補うような対策を実施する(四技能測定の目安としてはTOEICを用いる)。また、他者の文化的背景を理解し、コミュニケーションをとり、協働し、他者のために役に立つてこそ英語スキルが意味を持つのだという意識づけを高めるために、英語が第二言語である話者へのインタビューを実施する。
地球社会の理解	ソーシャルデザイン概論	○	(概要)地球市民学とは、貧困、紛争、難民、環境、エネルギー、ジェンダー、少子高齢化、地域活性化などのグローバル社会や地域社会が抱える諸問題を、学際的に研究する学問であるが、世界は今、先行きが不透明で将来の予測が困難なVUCA (Volatility: 変動性、Uncertainty: 不確実性、Complexity: 複雑性、Ambiguity: 曖昧性) の状態にあると言われている。VUCAの時代の未来における地球社会の理解と分析のために、求められる視座や方法論を、「ソーシャルデザイン」という観点から俯瞰し、本学部において学ぶべき知識や身につけるスキルなどを考察する。  オムニバス形式/13回 (1 安齋徹/4回) ソーシャルデザインという視座から地球社会の課題について講義する(SDGs概論・個人一企業と地球社会の関係) (13 安藤祐介/3回) ソーシャルデザインという視座から地球社会の課題について講義する(AI論、情報ネットワーク論) (6 山本達也/3回) ソーシャルデザインという視座から地球社会の課題について講義する(ネットワーク論、地方創生論) (2 兼清清一/3回) ソーシャルデザインという視座から地球社会の課題について講義する(メディアと地球社会)	オムニバス
P B L	プロジェクト入門1		4年間の地球市民学部における学修のためには、学生自身が自分の強みを知り、それを活かしながら、周囲との協働関係を築くことが重要である。そのために、本科目では、Social Emotional Learning (心理的安全性を高めるトレーニング)を行いながら、自分の強みを活かした「マイプロジェクト」を、まずは自分の身の回りで実行できるように構想する。学期末までには、自分の周囲の人々と協力しながら、4年間の学修の第一歩目として、「マイプロジェクト」を実施する。	
	プロジェクト入門2		プロジェクト入門1で培った自己分析力、および他者と協働する力を活かしながら、本科目では、学外への実習を行う。あくまでも自分の興味関心に基づいて、NGO・企業・自治体などの中から訪問先を選定し、先方へのアポ取りを行い、インタビューを実施する。事前の下調べ、実際のインタビューの行い方など、社会調査の基礎を学ぶ。インタビューはグループで実施し、リーダーシップや協働力を高める。調査結果については、学期末に全体で発表する。	

2 年次 必修 科目	思考法・表現法・スキル	プレゼンテーション技法	(概要)1年次の「地球市民としての思考と表現1」で学んだ情報発信力に関連するコンセプトを意識しながら、それらを異なるシチュエーション別に実際に使うことができるようになることにある。そのことを通じて、学生時代のみならず社会人になっても通用する「プレゼンテーション技法」について理論・実践の両面からの理解を深め、「確実に相手に伝わり」「人を動かすことができる」ようなプレゼンテーション能力を向上させる。3クラスに分けて実施する。 (オムニバス形式/13回) (1)～(3)クラス担当 6 山本達也/5回) 導入、言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション、ストーリーの重要性、スライドデザインの基礎、映画の脚本的構造について講義する。 (56 内藤徹 (1)クラス担当、140 三宅 玲子 (2)クラス担当、29 青木美由紀(3)クラス担当/8回) 見せ方・伝え方、脚本の構成、ライフストーリー・プレゼンテーション、デザインワークショップ、「役者力」などについて講義し、最終プレゼンテーションのコメントをする。	オムニバス
	多文化理解と言語	キャリアのための英語コミュニケーション	2年次夏の領域必修科目「国際協力のための英語」の導入として、本科目ではまず1年次での英語力の伸びを学生自身が把握し、四技能のうち学生自身が伸ばしたいと考える部分を、学生自身に発見させる。さらに教員の指導のもとに、進度別に、TOEICおよびe-learning教材を用いて英語力の進展を図る。また、1年次英語必修科目同様、共通語としての英語という意識を高めるため、英語を第二言語とする話者との協働を1段階進め、本科目ではキャリアに沿うテーマや英語を使うキャリアシーンを想定して、英語第二言語話者とそのテーマ・シーンに関連する動画作成や発表を行う。第二言語話者との交流を頻繁に行うことで、相手の文化を理解することの重要性を認識させ、他者との協働のためのコミュニケーション・ツールとして英語を用いる頻度を高めていく。	
	地球社会の理解	データと社会	(概要)本科目のテーマは、現在のようなデジタル社会において、地球市民として地球社会の課題を分析するために身につけておくべき数理・データサイエンス・AIに関する基礎的な素養を、主体的に体得することにある。最終的には、学修した数理・データサイエンス・AIに関する技能や知識のもとに、これらを扱う際に人間中心の適切な判断をしながら、自らの意思でAI等の恩恵を享受しつつ、これらを地球社会の理解を深めるために活用できるようになることを目標とする。講義では、可能な限り社会課題と関連性のある実データを利用し、データと社会課題との関連性についての知見を深めていく。2クラスに分けて実施する。 (オムニバス形式/13回) (13 安藤祐介 (1)・(2)クラス担当/3回) 社会で起きている変化とデータおよびAIの関係性、社会におけるデータ・AIの利活用、データ・AI利活用における留意事項について講義する。 (6 山本達也 (1)クラス担当、3 鈴木直喜 (2)クラス担当/10回) データ分布、相関、データ関連ソフト、データ分析の流れや、社会分析に役立つテキストデータの可視化、データ分析の実践などの講義を行う。	オムニバス
	P B L		グループプロジェクト1	地球市民学部におけるプロジェクトとは「グローバル社会や地域社会の諸課題を自分の問題として捉え、他者と協働しながら、具体的な解決策を提示し、実践する。そしてそれを発信すること」である。今後、学部の専門科目やゼミナールなどを履修しながら、自分の関心を深め、取り組むべき社会的な課題を見つけ、その解決に向けて実践して、小さなことでもいいので解決に導き、そしてそれを発信することが求められる。本科目は、1年次の「個人プロジェクト」と3～4年次の「卒業プロジェクト」を繋ぐ科目であり、プロジェクトを推進するために必要な基本的なスキルを習得しながら、社会の課題解決にグループで取り組むことに挑戦する。本科目では特に、企業や自治体から依頼された案件を、グループで協力しながら解決することを試みる。
		グループプロジェクト2	地球市民学部におけるプロジェクトとは「グローバル社会や地域社会の諸課題を自分の問題として捉え、他者と協働しながら、具体的な解決策を提示し、実践する。そしてそれを発信すること」である。今後、学部の専門科目やゼミナールなどを履修しながら、自分の関心を深め、取り組むべき社会的な課題を見つけ、その解決に向けて実践して、小さなことでもいいので解決に導き、そしてそれを発信することが求められる。本科目は、1年次の「プロジェクト入門1」「プロジェクト入門2」と3～4年次の「研究プロジェクト1」「研究プロジェクト2」「研究プロジェクト3」「研究プロジェクト4」を繋ぐ科目であり、プロジェクトを推進するために必要な基本的なスキルを習得しながら、社会の課題解決にグループで取り組むことに挑戦する。本科目では特に、グループそれぞれが挑戦したい課題を見つけ、グループで外部の団体と協働しながら解決することを試みる。	
3 年次 必修 科目	総合知・応用	研究プロジェクト1	複雑な現実の現象の中から、問題を見出し、その問題が生じている原因について仮説を立て、仮説を検証するといった一連の作業を学びつつ、自らの力で卒業論文・プロジェクトとして取り組むにふさわしい、「問題を発見」「問題を解決」するためのテーマを見出していく。研究の内容は、多文化理解や言語に関する研究群(文化、メディア、AI、日本語、心理、対話、地域文化など)、地球社会の理解に関する研究群(開発、環境、ビジネス、計画論、政治など)から構成される。本科目は卒業へ至る研究の第一段階として、多様なテーマから学生自身がテーマを選定し、研究を開始することに重点を置く。	
		研究プロジェクト2	複雑な現実の現象の中から、問題を見出し、その問題が生じている原因について仮説を立て、仮説を検証するといった一連の作業を学びつつ、自らの力で卒業論文・プロジェクトとして取り組むにふさわしい、「問題を発見」「問題を解決」するためのテーマを見出していく。具体的な研究の内容は、多文化理解や言語に関する研究群(文化、メディア、AI、日本語、心理、対話、地域文化など)、地球社会の理解に関する研究群(開発、環境、ビジネス、計画論、政治など)の分野から構成される。本科目では、研究プロジェクト1の成果も踏まえ、4年次につながるプロジェクトの成果物をまとめる。	
	思考法・表現スキル	プロジェクト・プレゼンテーション	卒業研究プロジェクトとして取り組む自身のプロジェクトについて、背景にある社会課題を念頭におきながら、アドバイザー教員の指導のもと、情報発信(口頭発表およびポスター発表)し、自身が当該プロジェクトに取り組む意義を他者に対して説得する。口頭発表およびポスター発表の内容は、webページ制作、アプリ、動画、ポスターなどの形態とする。1月に開催するプロジェクト・フェスティバル(プロフェス)にて、ポスターセッションおよび口頭発表の2つの異なる情報発信の形態を用い、第三者に対してそのテーマに取り組む意義を説得する。	

4 年 次 必 修 科 目	総合知・応用	研究プロジェクト3	○	複雑な現実の現象の中から、問題を見出し、その問題が生じている原因について仮説を立て、仮説を検証するといった一連の作業を学びつつ、自らの力で卒業論文・プロジェクトとして取り組むにふさわしい、「問題を見出し」「問題を解決」するためのテーマを見出していく。具体的な研究の内容は、多文化理解や言語に関する研究群(文化、メディア、AI、日本語、心理、対話、地域文化など)、地球社会の理解に関する研究群(開発、環境、ビジネス、計画論、政治など)の分野から構成される。本科目では、3年次の成果も踏まえ、卒業プレゼンテーションと卒業論文として仕上げるための準備を行う。	
		研究プロジェクト4	○	複雑な現実の現象の中から、問題を見出し、その問題が生じている原因について仮説を立て、仮説を検証するといった一連の作業を学びつつ、自らの力で卒業論文・プロジェクトとして取り組むにふさわしい、「問題を見出し」「問題を解決」するためのテーマを見出していく。具体的な研究の内容は、多文化理解や言語に関する研究群(文化、メディア、AI、日本語、心理、対話、地域文化など)、地球社会の理解に関する研究群(開発、環境、ビジネス、計画論、政治など)の分野から構成される。本科目では、卒業プレゼンテーションと卒業論文として4年間の学修の成果をまとめるべく、最終的な準備を行う。	
		卒業論文	○	地球市民学部での学びの集大成として、各自が選んだテーマについて、文献渉猟を通じた先行研究への理解やフィールドワークなどを行い、それに基づいて分析や考察をし、卒業論文を作成する。論文であるために必要な3つの要素である問い、主張、論拠の整合性を重視する。また文献調査からの2次データだけでなく、本学部が重視するフィールドワークからの1次データを踏まえた論文になっていることが強く望まれる。論文の型として序論、本論、結論で構成された文章は、誰が読んでも理解できる客観的な表現であること。そして参考文献の引用も適切になされていることが評価の基準となる。	
		卒業プレゼンテーション	○	二年間取り組んできたプロジェクトについて、パワーポイントなどを用いて10分間の口頭発表を行う。その後、10分間の質疑応答に臨む。プレゼンテーションでは、先行研究・プロジェクトに基づいた設計になっているか(批判的思考力)、社会人としての責任に基づき、思慮深くプロジェクトを遂行したか(関係構築力)、効果的なプロジェクトをデザインできたか(創造的思考力)、プロジェクト遂行過程で必要な情報を発信できたか(情報発信力)、プロジェクト結果を適切に評価し発展可能性を発見できたか(発展性)を評価する。	
領域 必 修 科 目	地球社会の理解	社会課題解決のための情報スキル演習		私たちは、今まさに「デジタル革命」の真っ只中にあり、世界の社会・産業構造に革命的な大転換が起こっているが、一人ひとりの幸福追求と世界の平和と繁栄を両立させ、多様性を重視し、地域、ジェンダー、世代といった枠を越えて、人々に科学技術の果実を届けることがデジタル社会の責務である。本科目では、社会が抱える課題を、自分自身に関係がある身近な問題として理解し、他者と協働しながら具体的な解決策を提示していくために必要となる多様な情報スキルの基本を身につける。	共同
	多文化理解と言語	国際協力のための英語		1・2年次の英語必修科目のまとめと位置付ける本科目では、英語を第二言語とする話者との英語を通じた協働・コミュニケーションの仕上げとして、英語での開発計画の作成および英語発表を行う。まず学生はSDGsを英語で学び、開発途上国の文化と社会経済的状況について英語で学ぶ。現地課題解決にあたる当事者にもインタビューし、現地からのインプットを得る。それらの知識をもとに、ある地域に派遣された際に、文化的要因に配慮しながら、どのようなアクション・プランをたてるかについて、グループで構想し英語で発表する。とともに、進度別に四技能の進展を図り、1・2年次の英語四技能の到達についてTOEICで測定する。	共同
選 択 必 修 科 目	地球市民セミナー科目群	地球市民セミナー1		本科目は、地球市民学に関する研究及び、自身の卒業研究プロジェクトに取り組む上で参考となるような、関連分野における先端的な研究または先端的な実践例を、外部講師による講演形式で行っていく。なお、品川区との共同開催の形で進められるため、品川区在住・在勤の一般の方々も聴衆として参加する。その他、地球市民学科の卒業生、地球市民学科に関心のある高校生、清泉女子大学の教職員他も聴衆として参加する。本科目では特に、広く多文化理解や言語コミュニケーションに関する講演シリーズを企画することとする。	
		地球市民セミナー2		本科目は、地球市民学に関する研究及び、自身の卒業研究プロジェクトに取り組む上で参考となるような、関連分野における先端的な研究または先端的な実践例を、外部講師による講演形式で行っていく。なお、品川区との共同開催の形で進められるため、品川区在住・在勤の一般の方々も聴衆として参加する。その他、地球市民学科の卒業生、地球市民学科に関心のある高校生、清泉女子大学の教職員他も聴衆として参加する。本科目では特に、広く地球社会の理解に関する講演シリーズを企画することとする。	
	地球社会の理解	グローバル・スタディーズ1		本科目は、グローバル社会における教育を総合的に学ぶものである。グローバル化に伴う言語・文化を越える教育や多言語多文化環境での教育、地球規模での教育課題、地球市民を育てるためのシティズンシップ教育について、講義を中心に討論・グループ学習を交えて学習する。また、上記の学習を通して、教育的事象と社会・文化・教育制度との関わりについても考察する。また、教育全般に関する理解を深め、考察の足がかりとなる知見や枠組みの習得を副次的な目標とする。	
		グローバル・スタディーズ2		本科目は日本語教育の歴史や現状を知り、今後の展望を考えることによって、社会において日本語教師が担うべき役割についての自覚と知識を身につけることを目的とする。具体的には、日本語教員養成における「社会・文化・地域」区分の「世界と日本」、「異文化接触」、「日本語教育の歴史と現状」に関することを扱い、(1)世界と日本の社会と文化、(2)日本の在留外国人施策、(3)多文化共生(地域社会における共生)、(4)日本語教育史、(5)言語政策、(6)日本語の試験、(7)世界と日本の日本語教育事情等について学ぶ。	

地球社会の理解 (続き)	グローバル・スタディーズ3	本科目のテーマは、公衆衛生学とグローバルヘルスである。新型コロナウイルスの世界的流行によって公衆衛生学が注目されるようになった。公衆衛生学のターゲットは感染症だけに限らず、生活習慣病も含まれる。しかもその対象は世界規模から一人一人の生活、そして遺伝子にまで多様である。本講義ではその公衆衛生学について概説し、日常生活レベルから、国家として、また地球規模に至る議論も含みながら、「リスク」について、誰がどのような場面でどのように向き合えばよいかについて考える。	
	グローバル・スタディーズ4	グローバル化が進むにつれて、環境問題をはじめとして、一つの国家では解決し得ない問題が急増している。それらの問題に取り組むには国際協力が不可欠である。SDGsを軸とした最近の国際協力で中心的な役割を担っているのが、国際連合など国際機構(国際機関)である。そこで本講義は、日本とのつながりに注目しながら、さまざまな国際機構の現状の基本的な理解を得ることを目的とする。まず国際機構の一般的な仕組みを理解した上で、具体的な国際機構の働きについて、分野別かつ事例に焦点を合わせて考察する。	
	グローバル・スタディーズ5	新しい歴史学と歴史教育の動向を踏まえて、「近代化」、「大衆化」、「グローバル化」という3つの視点から、19世紀から20世紀にかけての日本と世界の近現代史を学ぶ。歴史を知識として教わり、覚えることよりも、資料を用いたグループワークを通して、歴史を解釈することを重視し、日本と世界の歴史を「私たち」の歴史として捉えることで、「地球市民」としての帰属意識を養っていく。また、歴史像を主体的に伝える過程で、アカデミック・コミュニケーション能力を高めていく。	
	グローバル・スタディーズ6	日本や日本人は、世界各国の市民の目にはどのように映っているのだろうか。世界各国の「日本人論」を検証しながら、さまざまなバイアスやステレオタイプが生じている背景を探る。人の移動が加速するなか、その「日本人」も変容しつつある。時代とともに変遷してきた「日本人」の境界について考える。日本人の中にある中国、韓国など近隣アジア諸国の人々や欧米人に対する見方の変化も、その背景とともに検証し、相互理解の可能性と不可能性を考える。	
	グローバル・スタディーズ7	グローバル化した21世紀社会において必要なスキルと言われているのが「英語・IT・会計」である。会計はビジネスの共通言語であり、業種や企業規模も異なる様々な企業は「会計」という共通ルールに従って活動を行い、投資家にとっても比較が可能になる。本科目では「会計」に関する基本知識を習得した上で、サステナビリティ時代の会計について考察する。ESGやSDGsに包含される「サステナビリティ」への対応は企業にとって不可避である。企業が財務情報や非財務情報といった事業内容について開示し、企業が自らの活動を数字や言葉で表現する動向を探りながら、企業や社会のあり方を考えていく。	
	グローバル・スタディーズ8	本科目のテーマは、公的領域における政策形成・決定および実施のプロセスを理解し、社会の諸問題の解決を目指す地球市民として公的領域にどのように関わることができるかを探ることにある。具体的には、政策形成、政策決定、政策実施といった一連の政策プロセスに関する理論を学んだ上で、国内外の事例を取りあげることで政策過程分析の手法を学んでいく。その上で、市民による政治参加について、ガバナンス論を踏まえながら検討していく。	
	グローバル・スタディーズ9	本科目は、開発学を包括的に外観し、今日的な課題に対しての理解を深めることである。まず現代における「開発」の複数のレベルにおける担い手、すなわち、国連諸機関、国際的ネットワーク、政府、民間団体などの分類をし、その特徴について概観する。その上で、開発学を開発経済学、開発政治学、開発社会学の視点からその変遷を理解し、そしてそれに呼応する形で変化してきた国内外の諸援助機関の動きを理解する。主要課題として貧困、ガバナンス、グローバルイノベーション、教育、平和等の問題への理解も深める。	
	グローバル・スタディーズ10	自分と異なる存在を「そのまま」理解するとは、どのようにすればよいか。大量の情報が行き交う現代において、存在や現象を内在的に理解することを試みる文化人類学の果たすべき役割は大きい。なぜなら、異なる他者を内在的に理解することとは、ほぼ無意識に肯定してきたそれまでの自分の認識方法に自覚的になり、それをアップデートする機会を得ることができるからである。学術界のみならず一般社会例えばビジネス界においても、人類学的発想の重要性が確認されているのは、この点からである。本科目は、いわば今や発想法の一つとなっている文化人類学の基礎的な考え方について紹介し、文化人類学的発想を用いた思考実験を行ってみる。	
	多文化理解と言語	地域文化研究1	本科目は、東アジア地域を、歴史・文化・政治など多角的に学ぶ地域研究の科目である。中国に関しては、日中「混成文化」の現代的意義と価値を学ぶ。日本は、「混成文化」の取捨選択をした中、自主的発展を遂げてきたが、その日中「混成文化」の形態を知理、その知恵を現在の生き方に活用できる参考を提供する。同様に文化や社会の発展に共通する要素の多い韓国の事例も取り上げる。これらを通して、日本の歴史文化社会生活全般の特徴を再認識する。
		地域文化研究2	多様性をもつ東南アジア地域の文化について、国別の縦割りの理解ではなく、国境をまたぐ自然環境の理解、国民国家形成以前からの歴史、第二次世界大戦後の政治や経済・産業構造の特徴などのさまざまな視点から、総合的に理解する知見をやしなう。いくつかの主題については、国別の事例を、関連する映像資料の視聴などもまじえながらおこなう。東南アジアの中の、自分が興味を持った国や地域を、自然環境、歴史、政治、経済・産業などの多様な視点から総合的に理解することができるようになることを目的とする。
地域文化研究3		この授業では近年、政治的影響力の拡大と経済発展が著しい南アジアの社会と文化について学ぶことを目的とする。アジア地域／インドについては日本ではまだまだあまり知られておらず、そのためか偏見やステレオタイプなイメージも多くみられる。そこでこの授業では、南アジア／インドの社会と文化の基礎的な知識を身につけることで、この地域の多様性を知ることが第一の到達目標である。そこからさらに、日本を含めた、世界の国々や地域それぞれの多様性に対する視点を持てるようになることも目標とする。	

多文化理解と言語(続き)	地域文化研究4		中東・北アフリカ地域の安定性が維持されるか否かは、日本にとっても無視できない問題である。それは、当該地域のエネルギー資源に対する日本の依存度が極めて高いことから理解されよう。本授業では、中東・北アフリカ地域がどのような国々からなり、そこでどのような国際関係が展開されてきたのかを近代から現代に至るまでの歴史的な経緯を概観しながら学ぶ。まず、当該地域を構成する3つの下位地域(東アラブ、湾岸および北アフリカ)に着目し、地域の国際関係を考察する。さらに、アラブ諸国を横断する形で発生した政治変動である「アラブの春」についても理解を深める。	
	地域文化研究5		アメリカは「移民大国」としての長い歴史を持つ一方、排外主義運動を定期的に生んできた過去も持つ。加えてアメリカには、女性の権利向上を推進する団体が多数存在するが、女性の中絶権に反対する団体も同じく多い。アメリカが持つこうした二面性を理解するには、「分極化」と呼ばれる近年の文化的・政治的背景を把握することが不可欠となる。この講義では、アメリカ政治の観点から、アメリカの社会・文化問題について講義する。	
	地域文化研究6		近年、欧州とりわけ欧州連合(EU)およびその加盟国は、ユーロ危機、難民・移民危機、テロ、BREXIT、COVID-19の蔓延そしてロシアによるウクライナ侵攻と大きな挑戦を受けている。他方で、EU統合の歴史は第一次世界大戦・第二次世界大戦という戦争からの復興と地域の安定さらには経済発展を企図したものであり、世界における地域統合体のモデルともいえる。この「一種独特の政体」であるEUをどのように把握すればいいのか。本講座ではEUの機構とガバナンス、その根底にある地域文化に焦点を当てて、今日的な話題も盛り込みながら講義を行う。	
	地域文化研究7		世界史上ユニークな位置を占めるラテンアメリカ地域の多様性に富んだ文化的実態の理解を目指す。人類史上最後のフロンティアであり、独自の文明と社会を育んだアメリカ大陸は、15世紀末の大航海時代以降、西洋の周縁として取り込まれた。とくに、先住民人口の多かった今日のラテンアメリカ地域は、現地社会の急激な変化を強いられる一方で、西洋近代の発展の基盤となる富を産出する地域となった。授業では、アメリカ大陸への人類居住の開始から始まり、19世紀初頭の植民地独立運動にいたるまでの通史をたどりながら、ある程度まで共通したラテンアメリカ基層文化の成立プロセスの理解に努める。	
	地域文化研究8		15世紀の早い時期からヨーロッパによる植民地支配の対象となったラテンアメリカ地域は、初期のスペイン、ポルトガルによる独占が後発諸国によって切り崩されていく過程の中で多様化していった。19世紀前半、大陸部、島嶼部の大半が政治的独立を遂げた後、ラテンアメリカ・カリブ地域はイギリス、フランス、アメリカ合衆国などによる新植民地主義のもとで経済的な支配が進展する。授業では、独立以降、西洋先進諸国への資源供給地域とされたラテンアメリカ地域における政治経済的、文化的独自性の希求について概観する。	
	フィールドワーク1		本科目は、以下の四つのコースのフィールドワークのいずれかを学生が選択して参加するものである。 ①イギリス・コース:4週間ヨーク市でホームステイをし、午前中はMelton Collegeにおいてその日の活動に伴う英語の学習、ヨーク市およびイギリスの歴史や文化についての講義を受け多文化理解体験学習を行う。午後は、ヨーク市のさまざまな施設や機関ボランティア・インターンを経験をする。 ②ワシントン・コース:アメリカ先住民居留地で2~3週間、諸機関への調査訪問や学校訪問をし、先住民やその子どもたちとの交流を通じて彼らの生活と直面している問題を学ぶ。また居留地でのコミュニティーサービス等活動に参加する。英語の学習は体験を通して学ぶとともに、毎日振り返りの中で学習する。 ③オレゴン・コース:4週間ポートランド市でホームステイをし、PIAにおいてポートランド市のさまざまな学校、施設、機関、企業、ボランティア団体などで英語のレベルや適性に応じたボランティア活動を行うことによって生きた英語を学ぶと同時に多文化理解を体験する。また、活動に伴う英語学習をする。 ④マレーシア・コース:世界遺産の街ペナン島ジョージタウンで、約2週間に亘り、フィールドワークを実施する。前半はペナン島の多民族共生社会を中国系、インド系、マレー系の人々の生活や宗教の違いから理解する。後半は村でのホームステイ体験や環境保護運動への参加等を実施する。	
	フィールドワーク2		本科目は、夏期休暇期間中に約2週間海外実習を行うもので(2025年度は韓国、2027年度は台湾を予定)、前期はその企画及び準備の多くを学生自身が主体的に担う。ここでの海外実習の目的は、その土地の文化の(言語を含めて)理解を試みること、及び、現地の社会課題に関して理解し、同時代を生きる若い世代同士で、課題解決のための協働の可能性を探ることにある。学生が主体的に訪問先等を決定していくのでテーマは年度によって変わるが、ホームステイやバディ制度を設定しての現地の大学生との交流は、文化や社会の理解のために重要なこととして取り入れることとする。実習後は実習成果を何らかの形で公表する。	隔年
	フィールドワーク3		本プログラムでは海外(2026年度は韓国、2028年度はルワンダを予定)を2週間訪問し、平和課題への理解を深め、平和のための活動・アクションを現地の学生とともに検討する。渡航前は学生自身が探求したい平和課題を選定し、小グループで調査プランを作成する。現地では諸機関への訪問調査、ホームステイ、ワークショップを通して平和課題への理解と現地の人々との交流を深める。とくに、本プログラムでは平和構築のための市民外交・平和教育の役割を探求し、現地の活動から学び、フィールドワークのアウトプットとして、自身が取り組みたい活動・アクションを現地の学生と共に検討して発表する。	隔年

選択必修科目(続き)	フィールドワーク科目群(続き)	フィールドワーク4		<p>本科目の目的は、アフリカ・マラウイ共和国の都市と農村を訪問し、諸機関への訪問調査やホームステイを通して人々の生活を体験学習し、彼らの豊かさや直面している問題を学ぶことである。</p> <p>ホームステイを取り入れた2週間のフィールドワークを通して、地域住民と寝食・作業を共にしながら、マラウイの豊かさや課題を理解すると同時にフィールドワークの基礎を習得する。</p> <p>授業は全て学生主体で計画・実施され、主に以下の活動をする</p> <p>①受け入れ家族との会話や交流を通して相互理解を図り訪問国農村部の暮らしを理解する。</p> <p>②自分達の関心と現地の状況に合ったテーマを選び、簡単な訪問調査を事前準備段階から自分達で計画し実施する。</p> <p>③学生同士の話し合いや地域住民との話し合いを通して互いに学びあう。</p> <p>④最終報告書を日本語と英語で執筆する。</p>	隔年
		フィールドワーク5		<p>本科目は、夏期休暇期間中に約2週間海外実習を行うもので(2026年度はメキシコ、2027年度はフィリピンを予定)、前期はその企画及び準備の多くを学生自身が主体的に担う。ここで海外実習の目的は、その土地の文化の(言語を含めて)理解を試みることにあり、及び、現地の社会課題に関して理解し、同時代を生きる若い世代同士で、課題解決のための協働の可能性を探ることにある。学生が主体的に訪問先等を決定していくのでテーマは年度によって変わるが、ホームステイやバディ制度を設定しての現地の大学生との交流は、文化や社会の理解のために重要なこととして取り入れることとする。実習後は実習成果を何らかの形で公表する。</p>	隔年
		フィールドワーク6(日本語教育実習)		<p>本科目では、日本語学校、協定校等において1~2週間、日本語教員になるための実地研修を行う。日本語教員課程の各科目で学んだ知識を実践に移し、学内での座学や演習と現場の事情との違いなどを体験しつつ、日本語教員として立ち立ちできるよう自律的に学ぶ貴重な機会である。日本語教員課程でそれまでに学んだ日本語教育に関する知識を実践に移すこと、日本語教育の現場を知り、体験し学んだことを省察し、他の人に伝えること、課程修了(卒業)後の進路および日本語教育との関わり方を決定できることを到達目標とする。</p>	
		GCSインターンシップ		<p>国内外で、地域貢献的な、または国際的な活動を行っている、企業、組織、政府機関、NGO・NPOなどでのインターンシップに参加する。</p> <p>活動前にはガイダンスに出席し、担当教員と面談し綿密な計画を立てる。インターンシップ先と相談しながら計画書を完成させ提出する。活動時間は、原則として事前準備および事後学習10時間、インターンシップ10日以上(1日8時間と計算する)、もしくは事前準備・事後学習とインターンシップをあわせて90時間以上とする。活動後も教員と相談しながら報告書を完成させる。</p>	
		情報系インターン講座		<p>デジタル社会の発展が急速に進む昨今、社会やビジネスにおけるIT化とそれを担うデジタル人材の確保が求められている。しかし、日本では高いデジタルスキルを持つ人材が不足している現状があり、デジタル人材の育成が喫緊の課題であると言われている。例えば、2021年9月に設立されたデジタル庁では「デジタル人材の育成・確保」を政策課題として掲げている。本科目では、企業が求めるデジタル人材像を把握し、IT企業でのインターンなどが実現できるように知識とスキルを高めていく。併せて、デジタルスキルを習得するためのツールやセミナーなどについても情報提供を行っていく予定である。</p>	
		地域共生インターン講座		<p>本科目は、国内で、地域のニーズに根ざした形でのボランティアやインターンシップを行いたいと考える学生が受講する。そのため、授業最初の数回で活動に対して具体的な注意点や心構え、実習の手順などを確認した後、個別に実習先との連絡をとりながら準備を始め、学期末には、具体的なボランティア・インターンシップ先を決定し、開始時期も決定している必要がある。ただし、実習先は、各々の学生の研究(プロジェクト)テーマに沿った活動を実施している団体のため、多岐に渡る。教員とアドバイザーは、実施まできめ細やかな指導を行う。</p>	
		海外インターン講座		<p>本科目は、海外でボランティアやインターンシップを行いたいと考える学生が受講する。そのため、授業最初の数回で活動に対して具体的な注意点や心構え、実習の手順などを確認した後、個別に派遣団体や実習先とのやりとりを始め、学期末には、具体的なボランティア・インターンシップ先を決定し、開始時期も決定している必要がある。ただし、実習先は、各々の学生の研究(プロジェクト)テーマに沿った活動を実施している団体のため、多岐に渡る。教員とアドバイザーは、実施まできめ細やかな指導を行う。</p>	
	専門事例科目群	専門事例: 地球市民と政治	○	<p>本科目のテーマは、「ポスト・コロナ」および「ポスト・グローバル化」と形容されるような地球社会の現状と課題を政治学および国際関係論的な側面から理解することにある。そのことを通して、同時に、望ましい未来への変化に向けたグローバル・シティズンの役割についても考えていく。具体的には、米中対立、パンデミック、技術をめぐる国際政治、気候変動問題、エネルギー問題、カウンターデモクラシー論、サイバー・セキュリティ論、脱成長論など、現代の地球社会が直面している諸テーマを軸として、国際政治・国内政治の両方の視点から2020年代の地球社会の現状と課題を理解し、グローバル・シティズンとしての役割について検討していく。</p>	隔年
		専門事例: 地球市民と文化	○	<p>本科目のテーマは、恋愛、結婚、出産の文化人類学である。恋愛、結婚、出産は関連した連続的なものとして、また、「個人の自由な選択」の領域である行為として、とらえられがちかもしれない。本科目では、私たちの周りの、そして私たちから遠く離れているように見える文化の人たちの恋愛、結婚、出産のさまざまな事例への理解を深め、その助けをかりながら、恋愛、結婚、出産とそれを取り巻く社会をとらえ直してみたい。恋愛、結婚、出産についての自らの「あたりまえ」が何に基づいたものなのかに気づき、「自分の人生を自分で選択する」ことの困難に気づいたうえで、その難しい試みに挑戦する。</p>	
		専門事例: 地球市民と社会	○	<p>本科目の目的は、社会学者のミルズが提唱した「社会学的想像力」について考察を深め、その能力を涵養することである。社会学的想像力とは、個人と社会のつながりを見ること、視点を移動すること、多様性を見つめることを目指すものである。これは、身近なものを広く社会の文脈で捉える能力であると同時に、社会の出来事を身近なものとして捉える能力であり、地球市民としての私たちに欠かせないものである。講義では、社会学で取り扱われてきた主要なテーマや理論を具体的な事例に即して議論し、社会学的想像力の涵養を目指す。</p>	

選択必修科目（続き） 専門事例科目群（続き）	専門事例: 地球市民と平和構築	○	本コースでは社会における不平等・不公正・暴力の課題に向き合い、さまざまな事例を用いながら、学際的に、より平和な社会を実現し平和文化を築いていくための方法を身につける。 コース前半では平和紛争学から学ぶ暴力・平和・紛争概念を用い、個人・コミュニティ・国家・グローバルレベルにおける社会課題を分析する。その後、歴史をたどり、国際政治や国家、市民社会が今まで取り組んできた平和構築の事例とその思想・政策・活動を調査し、それぞれの限界と可能性を批判的に吟味する。コース後半ではこれらの学びをベースに、地球市民として取り組める平和のためのアプローチを考察し、平和構築の実践的なトレーニングを通して平和文化を促進するためのスキルを構築していく。	
	専門事例: 地球市民とキャリア	○	地球市民とは、グローバル社会や地域社会が抱える課題を、自分自身に関係がある身近な問題として理解し、他者と協働しながら具体的な解決策を提示できる人間であり、持続可能な世界の構築に貢献できる、言わばチェンジ・メーカーである。本科目では、地球市民としてのヒトのあり方を、さまざまな事例から多面的に学びながら、自らの生き方・働き方を考える手がかりを得ることを目標にする。コミュニケーション、リーダーシップ、クリエイティビティという基本的なスキルを習得し、グローバル人材、ソーシャル人材、クリエイティブ人材という人材像を学び、ケース・スタディやゲスト・スピーカーの招聘などを通じて、地球市民としての生き方・働き方を考察していく。	
	専門事例: 地球市民と環境	○	本科目の目的は、環境と開発に関わる緊張関係とその背後にある政治・経済・社会問題を理解することである。 開発による環境問題は、「開発か環境か」という二項対立の構図で理解しがちである。この排中律の図式がマスメディアを通して強化されることが多い今日、個人、組織、国家の置かれている政治・経済・社会的状況は、二者選択をすることが責任ある態度と見受けられることもある。この視点は和解や創造よりは対立や搾取を生じやすい限界を含んでいるかもしれない。この授業では、環境問題について、さまざまな事例分析を通じて、開発と環境の関係を二項対立の視点を超えて多角的な理解を試みる。	隔年
	専門事例: 地球市民と技術	○	本科目のテーマは、技術と社会変動との関係性について、歴史的な視点も交えつつ技術が人間社会にどのような影響を与えてきたかを検討することにある。とりわけ、地球社会を変容させてきた食料生産に関わる技術、エネルギーに関連する技術、人やモノを運搬する輸送に関する技術、人類のコミュニケーションを加速させた電気通信に関する技術、デジタル社会の基盤となっているインターネットやソーシャルメディア、人工知能に関連する技術などに焦点をあて、現代的な社会課題との関係性について具体的な事例と共に検討を行う。そのことを通じて、現代社会の特徴をテクノロジーの側面から浮かび上がらせ、地球市民としてどのようにテクノロジーに向き合いながら、社会の諸問題解決へと結びつけていくのかを探っていく。	隔年
	専門事例: 地球市民と宗教	○	本科目は、現代宗教の諸現象について人類学的な理解を試みるものである。まず宗教の人類学的分析の基礎を確認する。次に祝う・祈る・弔う・呪うという行為から、宗教を捉え直す。そして、次の三つのトピックについて分析する。第一に、国家による宗教への干渉・規制、第二にファンダメンタリズム(原理主義)、第三に「カルト」である。一見学生から縁遠く思えるような宗教をめぐる諸現象も、宗教を近代化・グローバル化といった文脈に位置付けた上で、そのなかの人々の日々の信仰実践に目を向けることで、宗教を身近な現象として浮かび上がらせる。授業全体を通して、現代社会における宗教をめぐるさまざまな事例を取り上げ、それを多角的に分析することで、宗教実践の内在的理解を試み、現代における「宗教」と「世俗」の境界について問い直したい。	
	専門事例: 地球市民とメディア	○	本科目の目的は、メディアはどのように成り立っているのか、メディアと人間はどのように関わりあっているのかという問いについて考察を深めることである。メディアは、デジタル化やグローバル化が進む社会や資本主義システム、国家体制などと結びついている。メディアについての考察を通じて、受講生は社会や文化を読み解く視座を獲得し、地球市民としてのパースペクティブを涵養する。また、メディアは人間の日常の営みとも結びついている。メディアの考察は、受講生が持つ関心や性向や常識を省みる基点にもなる。授業では、メディア論の文献と教材と日常のメディア体験を行き来しながら、デジタル時代のメディアリテラシーについて構想する。	
	専門事例: 地球市民とビジネス	○	今や利益追求のみを追い求める企業は生き残れない。CSR(企業の社会的責任)やCSV(共有価値の創造)が一般化し、Environment(環境)、Social(社会)、Governance(企業統治)に配慮した経営が王道になっている。2020年のダボス会議(世界経済フォーラム)では、企業が従業員や、取引先、顧客、地域社会といったあらゆるステークホルダーの利益に配慮すべきというステークホルダー資本主義がテーマとなった。最新のビジネス動向や豊富なケース・スタディも交えながら、地球市民としての企業のあり方や社会課題をビジネスで解決する方策を学際的に考察していく。	
	専門事例: 地球市民と開発	○	本科目の目的は、グローバル社会の時代における開発学を包括的に学ぶことである。「開発」とは何か、「開発学」とは何かを第二次世界大戦以降の歴史の変遷から示すところから始め、その後、今日の開発課題を外観し、開発経済学、開発政治学、開発社会学の視点から開発を分析する理論的枠組みを学ぶ。また開発に関わる主体として、国家、国際機関、民間企業、市民社会を取り上げそれぞれの実施の枠組みや特徴を理解する。後半では、開発課題として貧困問題、ガバナンス、グローバル社会、農村、教育、環境、平和を具体的事例を通して学ぶ。	隔年
	専門事例: 地球市民と対話	○	過去半世紀、世界は凄まじいグローバル化を経てきた。異なった文化、政治・経済・社会思想が交わる中で、市民社会は「疑惑と不信」(ユネスコ憲章)を超えて、他者理解と協力を促し、紛争予防・平和の構築に携わる必要がある。 本コースでは現代のグローバル社会を背景に「対話」理論における理解を深め、グローバルシティズンシップ(地球市民)や紛争解決などのテーマから対話の役割を分析し、個人間から国際政治、また多様な文化における対話のアプローチの事例を調査し、対話の役割、可能性や限界を調査する。さらに授業では体験型ワークショップや授業の学びを通して地球市民として役立つ対話スキルを構築する。	

選択必修科目（続き）	専門事例科目群（続き）	専門事例: 地球市民と教育	○	教育について考えるとき、われわれは、つい、自分の経験に基づいて考えてしまう傾向がある。しかし、教育のあり方はじつにさまざまである。また、教育は社会と人をつないでいるが、そのつながり方もさまざまである。教育を通じて社会が個人の在り方を規定していく側面と、逆に、教育を通じて社会を変革していく力を個人が獲得していく側面がある。教育は、社会を固定化する力も持っているし、社会を変革していく力を持っていると言い換えてもよい。自分たちが経験してきた教育から離れて、社会と個人をつなぐ営みとしての教育について、多面的に考察していく。	
		専門事例: 地球市民と心理	○	人間は一人一人異なる心の世界を持っているが、しかし、孤立して生存しているわけではなく、他者との関係の中で生活している。知り合いの知り合いというふうに関わりを築いていくと、間に5人の人間を挟んだ6人目には、世界中の人間とつながることができる、という説もあるほどに、人間同士のつながりは複雑で幅広い。一人一人の心の世界と人間同士のつながりについて、社会心理学等の知見を踏まえながら、多面的に考察していく。	
		専門事例: 地球市民と言語	○	「日本語教授法論」等の科目で学んだ日本語教育全般の広範な基礎項目や理論を活用し、実際に教える現場を想定しながら、日本語教育の現場を具体的に理解し、実践へと近づけるようにする、模擬授業や実習への橋渡しとなる科目である。「生活者としての外国人」のための地域日本語教育のコースデザインを計画することを通じて、主に日本国内での日本語教育を取り巻く諸事情、日本語授業活動、日本語学習上の問題点等について考察する。	
		専門事例: 地球市民と日本語教育	○	日本語教育に関する入門科目で学んだ日本語教育全般の広範な基礎項目や理論を活用する科目である。実際に教える現場を想定しながら、日本語教育の現場を具体的に理解し、実践へと近づけるようにし、模擬授業や実習への橋渡しとすることを目的とする。とりわけ短期日本文化日本語研修生のためのコースデザインを計画することを通じて、主に海外での日本語教育を取り巻く諸事情、日本語授業活動、日本語学習上の問題点等について考察し、その解決についてディスカッションする。	
		専門事例: 地球市民とポピュラー文化	○	ポピュラー音楽を構成するメロディーやリズムは、身体的な共振を通して地球規模での流通が可能である。その一方で、言語による象徴体系、ダンスなどの身体作法は場合によっては文脈依存的、かつ排他的であり、体系的な学習なしには参入不能な側面を持つ。本科目では、ラテンアメリカのポピュラー音楽を題材として、その歴史的形成プロセス、様式的な特徴、現代世界における位置づけについて概観した後、具体的に音楽やダンスの実践を通して、地球市民としてポピュラー文化とどのように関わり合っていくことができるかを考える。	
		専門事例: 地球市民とアート	○	アートにはローカルな制約を超えて、越境的、かつ世界的なコミュニケーションを実現するという理想が含まれる。現実にはその理想を実現するのは容易ではないが、アートがグローバルなコミュニケーションを牽引することは間違いない。本科目では、職業的専門家によってこなされる純粋芸術、マスメディアの媒介する大衆芸術に加えて、生活様式でありながら芸術としての側面をもっている分野を「限界芸術 (Marginal Art)」と名付けた鶴見俊輔の文化概念を参照しながら、その様々なあり方について理論的にアプローチし、アートによるコミュニケーションについて考察する。	
		専門事例: 地球市民とAI	○	社会の多種多様な場面で使われるようになった人工知能 (AI=Artificial Intelligence) は、気づかないうちに私たちの社会や生活に深く入り込んでいて、多くの恩恵がもたらされる一方で様々な課題も発生している。例えば、AIの活用が進むにつれて多様性やジェンダーの問題が指摘されている。画像の識別が性別や肌の色によって大きく変わってしまい、また受付嬢ロボットがジェンダー偏見を助長するという指摘もある。本科目では、AIについての基本知識を深めながら、地球市民として「AI社会とどのように向き合っていくべきか」を考察する。	
		Global Citizen and Politics		In an interconnected world, we need to be able to communicate with people from different cultures and backgrounds. This course will focus on both the language and critical thinking skills required to address the political aspects of issues around the world, such as learning how to recognize injustice. This course is intended to be flexible in its delivery and students will be working with other students. Students are encouraged to participate actively in class and explore topics proactively. The course aims to improve English skills and help students to have better awareness of global issues and politics. Students will be exposed to the relevant vocabulary & language to discuss global issues, and will be able to demonstrate an understanding of them and express their opinions in English by the end of the course. (和訳) 相互につながった世界では、異なる文化や背景を持つ人々とコミュニケーションをとる能力が必要である。このコースでは、不-正義について考える方法を学びながら、世界中の問題の政治的側面に取り組むために必要な言語力と批判的思考力の両方に焦点を当てる。この科目は柔軟に設計し、グループでの作業も行う。学生は授業に積極的に参加し、積極的にトピックを探求することが奨励される。 このコースの目的は、英語力を向上させ、グローバルな問題や政治に対する認識を深めることである。グローバルな問題について議論するために必要な語彙や表現に触れ、コース終了時にはその理解を示し、英語で自分の意見を述べるようになる。	
		Global Citizen and Culture		This course is designed to develop intercultural communication skills, and aims to develop English communication skills by considering familiar topics studied at universities from a global perspective on intercultural awareness, and covers topics such as intercultural awareness, economics, society, health, and travel. The course will cover topics such as intercultural awareness, economics, society, health, and travel. To acquire the basic ability to convey meaning in English without worrying about errors in English and to cope with multilingualism and multiculturalism. (和訳) この科目は、文化間コミュニケーション能力の育成を目的とし、大学で学ぶ身近な話題をグローバルな視点から文化間意識 (intercultural awareness) について考え、英語コミュニケーション能力の育成を目指し、文化間意識、経済、社会、健康、旅行などの内容を取り扱う。英語の誤りを気にせず、英語で意味を伝え、複言語複文化に対応するための基礎能力を身につける。	

専門事例科目群（続き） 選択必修科目（続き）	Global Citizen and Society	<p>Global issues are interconnected and as global citizens we need to make collaborative efforts to solve them. This course will focus on both the content and language as well as critical thinking skills required to address some of the pressing issues around the world. This course is intended to be flexible in its delivery and students will be working with other students. Students are encouraged to participate actively in class and explore topics proactively.</p> <p>(和訳)グローバルな問題は相互に関連しており、私たちはグローバル市民として、その解決に向けて協力的な努力をする必要がある。この科目では、世界各地の差し迫った問題に取り組むために必要な内容や言語、批判的思考力の両方に焦点を当てる。学生は、積極的に参加し、積極的にトピックを探求することが奨励される。</p>
	Global Citizen and Peace	<p>The course will first cover many of the fundamental causes and effects of violent behavior. This will be done with readings and discussions. The second half the the semester will concentrate on nonviolent actions taken by Gandhi and Martin Luther King, as well as the Civil Rights Movement of the 1960's.</p> <p>By the end of the course students will be able to understand why violence occurs and give examples. Students will also be able to give clear examples of how nonviolence can be used to counter violent behavior.</p> <p>(和訳)この科目ではまず、暴力的行動の根本的な原因と影響の多くを取り上げる。これは読書とディスカッションで行なう。後半は、ガンジーやキング牧師の非暴力行動、1960年代の公民権運動に焦点を当てる。後半では、なぜ暴力が起こるのかを理解し、その例を挙げるができるようになる。また、暴力的な行動に対抗するために非暴力をどのように用いることができるか、明確な例を挙げるができるようになる。</p>
	Global Citizen and Human Resource	<p>This course will focus on becoming more aware of global issues and learning to speak about them in an organized fashion. There will be weekly textbook assignments, video watching, or presentation preparation assignments.</p> <p>The aim of this course is to build confidence in speaking about global issues that one is familiar with as well ones that may be new.</p> <p>Through this course, students will be able to work in a group and play certain role which contributes to the presentation as a whole, and to develop ideas and arguments necessary for a debate.</p> <p>(和訳)この科目では、グローバルな問題をより深く認識し、組織的に発言できるようになることに重点を置く。毎週、テキスト課題、ビデオ視聴、プレゼンテーション準備の課題が出される。この科目の目的は、身近なグローバル問題だけでなく、新しい問題についても自信を持って話せるようになることである。また、ディベートに必要なアイデアや議論を発展させることができるようになることも到達目標である。</p>
	Global Citizen and Environment	<p>The focus of this class is to build critical reading and discussion skills through a textbook related to global citizen and the environment. We will look at environmental problems our society is facing today by studying the problems in depth and seek for solutions to make our society a better place. In addition to critical reading and discussion skills, annotation skills, summarizing and paraphrasing skills will also be covered.</p> <p>(和訳)この科目の焦点は、地球市民と環境に関連したテキストを通して、批判的読解力とディスカッション能力を身につけることにある。現代社会が直面している環境問題を深く考察し、より良い社会にするための解決策を探る。批判的にテキストを読む思考力とディスカッションのスキルに加え、要約とパラフレーズのスキルも学ぶ。</p>
	Global Citizen and Technology	<p>The theme of the course is how modern technology is affecting the world around us. We will read about and discuss issues that are important for all Japanese students.</p> <p>Students will read about various relevant topics and then engage in interesting, thought-provoking discussions.</p> <p>Through this course, students can learn to read with confidence about a wide range of technology-based topics. In addition, students can improve their discussion skills, their listening skills, and their general ability to communicate effectively in English.</p> <p>(和訳)この科目のテーマは、現代のテクノロジーが私たちを取り巻く世界にどのような影響を与えているかということである。関連する様々なトピックを読み、その後ディスカッションを行う。この科目を通して、生徒はテクノロジーに関連した幅広いトピックについて自信を持って読むことができるようになる。また、ディスカッションスキル、リスニングスキル、英語でのコミュニケーション能力も向上させる。</p>
	Global Citizen and Religion	<p>This course focuses on religions in Japan and overseas. Lessons are conducted mostly in English and at other times in Japanese when necessary. This content-based lessons will help students to express their thoughts on religions to people overseas.</p> <p>Four aims are as follows. First, to be able to think in-depth. Second, to exchange ideas/opinions with classmates. Third, to have various perspectives on issues related to religions. Fourth, to express themselves in English, logically and persuasively.</p> <p>(和訳)この科目では、日本と海外の宗教に焦点を当てる。授業は主に英語で行われるが、必要に応じて日本語で行われることもある。この科目を通して受講生は海外の人々に対して、自分の宗教に対する考えを述べるができるようになる。科目の目的は以下の4点である。第一に、深く考えることができるようになること。第二に、クラスメートと意見交換をする。第三に、宗教に関する問題について様々な視点を持つこと。第四に、英語で論理的かつ説得力のある表現ができるようになること。</p>
	Global Citizen and Media	<p>This class focuses on building critical thinking and academic presentation skills. Students will select a topic of their choice either global or domestic and will conduct secondary research from diverse sources to form a thesis statement. The class will also cover how to support an argument to illustrate one's ideas objectively.</p> <p>(和訳)このクラスでは、クリティカル・シンキングとアカデミック・プレゼンテーションのスキルを身につけることに重点を置く。世界または国内のトピックを選択し、多様な情報源から二次調査を行い、論文を作成する。また、自分の考えを客観的に説明するための論証のサポート方法についても学ぶ。</p>

専門事例科目群 (続き)	Global Citizen and Business	As globalization is progressing in the international community, knowledge of the Japanese economy and business is essential for university students who will enter the workforce in the future. In this class, students will read and deepen their knowledge of various English texts on the Japanese economy and business. We will read a variety of English texts on the Japanese economy and business, and deepen our understanding through exercises and discussions. Next, students will be able to speak and write their own opinions on each topic in English. (和訳)国際社会でグローバル化が進展しつつある中、今後社会に出る大学生にとって我が国の経済やビジネスの知識は必要不可欠である。そこで、この授業では、日本経済やビジネスに関する様々な英文を読み、知識を深めて行く。内容としては、日本経済やビジネスに関する様々な英文を読み、エクササイズやディスカッションを通して理解を深める。次に、各テーマに関して、自分の意見を英語で話したり書いたり出来るようにする。	
	Global Citizen and Development	The course will be based around weekly discussions on topics in the textbook meaning there will be weekly preparation homework. Each student will give two presentations. By the end of the course students will be able to / (can) give presentations in English on a variety of topics concerning sustainable development goals covered in the textbook, lead a discussion, ask educated questions and make inferences and understand what sustainable development goals do for societies (和訳)本科目は、持続可能な開発について、教科書を用いて学ぶ。毎週異なる話題についてディスカッションを行うことを基本としており、予習の宿題が出される。各生徒は2回のプレゼンテーションを行う。コース終了時には、教科書で扱われている持続可能な開発目標に関する様々なトピックについて英語でプレゼンテーションを行い、ディスカッションに参加し、適切な質問をし、持続可能な開発目標が社会にとって何をもたらすかを理解することができる。	
	Global Citizen and Law	This course introduces how the rule of law plays an important role in peacebuilding. United Nations multilateral treaties throughout its history prove how they have been practiced to settle disputes, to restore and support the progress of countries devastated by war and violence, to protect the rights of the people, to prevent violent extremism, and to tackle violence against women. (和訳)この科目では、平和構築において法の支配がいかに重要な役割を果たすかを紹介する。紛争の解決、戦争や暴力で荒廃した国々の復興と発展支援、国民の権利保護、暴力的過激主義の防止、女性に対する暴力への取り組みなど、国際連合の多国間条約がその歴史を通じていかに実践されてきたかを英語で理解する。	
	Global Citizen and Justice	This class focuses on building critical thinking and academic presentation skills. Students will select a topic related to justice, either global or domestic and will conduct secondary research from diverse sources to form a thesis statement. The class will also cover how to support an argument to illustrate one's ideas objectively. If time allows, we will also look at the two different approaches, retributive justice, and restorative justice. (和訳)この科目では、批判的思考力とアカデミック・プレゼンテーションのスキルを身につけることに重点を置く。生徒は、世界または国内の「正義」に関するトピックを選択し、多様な情報源から二次調査を行い、レポートを作成する。また、自分の考えを客観的に説明するための論証方法についても学ぶ。時間が許せば、応報的正義と修復的正義という2つの異なるアプローチについても取り上げる。	
	Global Citizen and Constructive Controversy	Constructive controversy unlike debate (a competitive process where one view "wins" over the other) is a creative problem-solving process. In this course, students will learn a positive way of communication especially in a situation where both parties have a different opinion. The class will train students to become better communicators by practicing a communication approach where disagreement will no longer be an obstacle, but rather a good source to understand each other better. Students will learn to make better decisions based on good reasoning and consideration. (和訳)「建設的な論争」は、ディベート(一方の意見が他方の意見に「勝つ」競争プロセス)とは異なり、創造的な問題解決プロセスである。この科目では、特に両者の意見が異なる状況での積極的なコミュニケーション方法を学ぶ。このクラスでは、意見の相違とは障害ではなく、むしろ互いをよりよく理解するための良い材料となると捉え、そのようなコミュニケーション・アプローチを実践する。	
	Global Citizen and Law	This course introduces how the rule of law plays an important role in peacebuilding. United Nations multilateral treaties throughout its history prove how they have been practiced to settle disputes, to restore and support the progress of countries devastated by war and violence, to protect the rights of the people, to prevent violent extremism, and to tackle violence against women. (和訳)この科目では、平和構築において法の支配がいかに重要な役割を果たすかを紹介する。紛争の解決、戦争や暴力で荒廃した国々の復興と発展支援、国民の権利保護、暴力的過激主義の防止、女性に対する暴力への取り組みなど、国際連合の多国間条約がその歴史を通じていかに実践されてきたかを英語で理解する。	
思考法・表現法・スキル	映像表現法	「映像」は日々の暮らしの中で触れない日は無いほど生活に入り込んできている。映画、ドキュメンタリー、ニュース、アニメーション、コマーシャル、ミュージックビデオなど、玉石混濁の映像表現の中で、映像を読み込む力が必要になってきている。本講義では国内外、新作から旧作まで様々な映像作品を参照しながら、表現すること、伝えることの意味を、創り手の視点から考察する。	
	映像表現演習	映像表現に関する歴史的経緯を学びながら、現在の映像表現を読み解く力を身につける。中でも、本科目が着目する映像表現は、映画等の芸術的な要素を含めた映像表現である。とりわけ、映画的手法を用いて社会課題についてアプローチするための先行事例について理解した上で、具体的に使用されている技法についての理解を深める。こうした一連の作業を踏まえ、最終的には、自らが社会課題にアプローチするための映像作品を作るための企画立案をする。さらに、実際に映像を形にし、上映出来る状況を整えることで、作品の公開方法についても学んでいく。	
	アート・デザイン論	アートやデザインは理屈を超えて人の感情に届き、感動や共感を呼び起こす力を持っている。「デザイン」という概念の核にある、本質を捉えて視覚的・直感的なコミュニケーションを行うことは、人々を新たな行動に駆り立てたり、行動変容につながる原動力を生み出すことも可能にする。 本講義では、社会的な問題や課題の解決のためにアートやデザインが果たしてきた事例を解説し、アートやデザインが社会的な諸課題を創造的に解決する有効な手段のひとつになることを学んでいく。	

思考法・表現法・スキル（続き） 選択必修科目（続き）	アート・デザイン演習	<p>本質を捉えて視覚的・直感的なコミュニケーションを行うこと＝「デザイン」は、人々を新たな行動に駆り立てたり、行動変容につながる原動力を生み出すものである。国内外の事例の中には、デザインの要素を組み入れることで、社会課題の解決を目指しているものも多い。本科目では、こうした先行事例について、具体的にどのようなデザイン的な技法や手法が用いられているのかを検討し、理解していく。その上で、デザインに関連するソフトウェア等の使用法について、演習形式で身につける。最終的には、履修者によるグループを編成し、グループごとに、ある社会課題に対して「問題の発見」を行った上で、アートやデザインの手法を活用した解決への実践をグループワークの形でを行い、発表していく。</p>
	ワークショップ・デザイン論	<p>ワークショップとは、主体的に参加者が協働する体験を通じて、学習と創造を産み出す場である。本科目は、ワークショップを企画・実践するために必要な方法論を、まず学ぶ。その上で、自分たちが関心ある社会課題に関して、ワークショップを実施するために必要な、企画力、プログラムづくり、問いのたてかた、対話とコミュニケーションの手法、実施実務を実践する。本授業自体も、受講者が主体的に参加し、お互いが学び合う場とする。</p>
	リーダーシップ・組織論	<p>リーダーによる組織の団結は一方で、排他的な社会の顔をも持ち合わせている。本科目は、この世界のなかで、小さくてもポジティブな変化を起こすために、リーダーシップの在り方を問う。人の心をとらえるのはどのような言葉や行動なのか。人はどのような誤りを起こしやすいのか。その原因は何なのか。といった、より良い組織をデザインしていく上で役立つさまざまな事柄を理解し、そのうえで、組織を構成する一員であり、また環境や状況の変化に対応する当事者として、リーダーシップとは何か、組織のインタフェースとは何かを考える。</p>
	ユニバーサル・コミュニケーション論	<p>本科目は、障害の観点から、少数派と多数派の間のコミュニケーションの在り方を理論的に探求する。前半は、「障害」に関する知識を学び、さまざまな障害のある人の特性や生活に関する理解を得る。後半は、自己のコミュニケーションスタイルを内観した上で、障害のある人とならない人および障害のある家族とのコミュニケーションの諸相を確認し、多様性社会への課題と解決への道筋とユニバーサル・コミュニケーションの本質を追求する。</p>
	ユニバーサル・コミュニケーション演習	<p>聴覚に障害がある人とならない人はどのように「コミュニケーション」をとるのか。本科目は、まず国籍というラベル以外での異文化コミュニケーションや、音声以外でのコミュニケーション方法などについて学び、コミュニケーションの概念について振り返る。その上で、聴覚障害者の多様なコミュニケーション方法について当事者の声や実践、グループディスカッションなどを通し、聴覚に障害がある人とならない人のコミュニケーションについての考察を深める。講義を通し、コミュニケーションの本質について振り返りや対話をし、探究する。</p>
	コーチング論	<p>この授業では、自分自身がコーチングを受ける体験を通して、自己を内省することの重要性を体感することを基軸としている。自己の内省を通して、自分が大切にしたい「願い」、望ましい未来、ありたい自分を探究し、自分の体験をもとに、授業内外で他者に対してコーチングを通じた対人支援の実践を行なっていくアクションラーニング形式で進めていく。自分を深く理解することは、他者を理解し、世界を理解することに通じる。この授業で学んだことを、個人のよりよい生き方のみならず、将来より広い分野において活用していけるよう考察を深めていく。</p>
	日本語教授法論1	<p>日本語が流暢に使いこなせる人は、そうでない人に、どのような手助けができるのか。そもそも日本語を教えるというのは、どういうことなのか。日本語の何を、どのように指導するのか。といったようなことを広範に学び、基礎固めを目指す。日本語教育の大まかな姿を、さまざまな側面から広く観察する。 特に「日本語教授法」の「日本語」に注目し、日本語を客観的に見つめ直し反省する姿勢を身に付けることに焦点を合わせる。日本語を客観視するためにまず、母語話者がふだん意識せず駆使している文法ルールについて再確認する訓練から始め、続いて、語彙、音声、表記（漢字や仮名など）の各側面について、非母語話者の視点から反省・分析・整理していく。</p>
	日本語教授法論2	<p>日本語が流暢に使いこなせる人は、そうでない人に、どのような手助けができるのか。そもそも日本語を教えるというのは、どういうことなのか。日本語の何を、どのように指導するのか。といったようなことを広範に学び、基礎固めを目指す。日本語教育の大まかな姿を、さまざまな側面から広く観察する。 特に「日本語教授法」の「教授法」に注目し、(1)日本語を学ぶ人々を支援する方法について、考え、工夫する習慣を身に付けること、(2)日本語とその学習指導を語る上で最低限必要な用語を学ぶ。いわゆる4技能「読み・書き・聞き・話す」力を伸ばす方法、教科書の選び方や分析方法、授業準備のしかた、指導の基本技術など、大きなことから小さなことまで、幅広く考察する。</p>
日本語教授法演習1	<p>「日本語教授法論」等の科目で学んだ日本語教育の知識、理論を応用し、主として日本語学校の留学生を対象とした初級の教室型日本語授業の進め方に日本語教育の実践的、具体的な方法を学ぶ。 Can-do-statement に基づき「何がどのようにできるか」を重視した市販の教科書を題材に、言語的知識を重視しつつコミュニケーション能力を伸ばすための言語教育についての考えおよび具体的な方法について学ぶ。模擬授業を中心とし、その準備、実施、振り返りによって、日本語を客観的に分析する力や実践的な教授方法を身につける。教案を書き授業の準備をして模擬授業を行うことにより、実際の授業をイメージできるようになることを目標とする。2クラスに分けて実施する。 (1)クラス担当 52 田坂敦子、(2)クラス担当 72 矢崎理恵。 □</p>	

思考法・表現法・スキル (続き)	選択必修科目(続き)	日本語教授法演習2	<p>「日本語教授法論」等の科目で学んだ日本語教育の知識、理論を応用し、主として「生活者としての外国人」を対象とした日本語授業の進め方に日本語教育の実践的、具体的な方法を学ぶ。</p> <p>「対話」について学ぶことや、学習者の目的にそった日本語学習の形(対話や課題達成に重きをおく)を考え、それらを実践する模擬授業を行うことを通して、日本語教育の具体的なイメージを持ち、授業の進め方を実践的に自身の力で考えられるようになること、そして、多様化する日本語教育の現場を知り、いわゆる地域日本語教育の現場で期待される日本語教育のあり方への理解を深めることを目標とする。</p> <p>2クラスに分けて実施する。</p> <p>(1)クラス担当 52 田坂敦子、(2)クラス担当 72 矢崎理恵。</p>
		情報スキル1	<p>現代では、インターネットその他の高度情報通信ネットワークを通じて自由かつ安全に多様な情報、知識を世界的規模で入手し、共有し、または発信することにより、創造的かつ活力ある発展が可能となっている。従来、情報の受け手の位置づけであった個人もインターネットを通じて、マスメディアなどと同様に情報の発信者になることができるようになった。本科目では、WEBデザインの基本を習得しながら、インターネット社会における情報発信のスキルを身につけ、社会課題の解決に向けたチェンジメーカーとしての可能性を広げていく。</p>
		情報スキル2	<p>デジタル社会とは、様々な分野にデジタル技術を活かすことにより、ひとりひとりが多様な幸せを実現できる社会である。デジタル技術の活用によって新たなサービスの創出、暮らしやすい環境の構築につながり、生活の利便性も高まると考えられている。デジタル社会の推進に欠かせないのがPythonなどのプログラミング言語の習得である。本科目では、プログラミングの基本を習得しながら、アプリ開発やデータ分析のスキルなどを身につけ、社会課題の解決に向けたチェンジメーカーとしての可能性を広げていく。</p>
		情報スキル3	<p>デジタル化やAIによる自動化や予測といったテクノロジーは、社会課題の解決に革新的な貢献をもたらし、その活用は人々の生活を幸せにするとされている。『DX白書2023』(独立行政法人情報処理推進機構)によるとAIの利活用の状況に関し日本のAI導入率は米国とは立ち遅れているが、今後AI技術の活用が進んでいくことは疑いがない。本科目では、高度なプログラミングの知識は必要としない形でAIの活用スキルを身につけ、社会課題の解決に向けたチェンジメーカーとしての可能性を広げていく。</p>
		データサイエンス	<p>本科目のテーマは、データを用いた分析に関する重要概念を理解すると共に、2年前期必修科目である「データと社会」にて操作方法を学んだデータ分析用のソフトウェア(Exploratory)を用いて具体的にデータ分析を行えるようになることにある。なお、本科目は、いわゆる「反転授業」に近い形態で行われる。毎回の講義に際しては、事前にその週のテーマと課題について解説した詳細なスライドを用意する。講義前に、一通り、スライドを見ながら「予習」をし、データ分析用のソフトウェアも動かしながら課題に取り組んでもらう。</p>
		社会課題解決のための情報スキル	<p>日本が目指すべき未来社会(Society 5.0)では、IoT(Internet of Things)やAI(Artificial Intelligence)などのデジタル技術で今までにない新たな価値を生み出すことで、少子高齢化、地方の過疎化、貧富の格差などの社会的な課題や困難を克服し、社会の変革を通じてこれまでの閉塞感を打破し、希望の持てる社会、世代を超えて互いに尊重し合える社会、一人一人が快適で活躍できる社会となることが想定されている。本科目では、社会の課題解決に向けた情報スキルの活用を、ケース・スタディも交えながら考察し、各自のプロジェクト推進に役立てていく。</p>
		社会課題解決のためのメディア1	<p>本科目の目的は、社会課題の解決にメディアを役立てるために、広報・PRに必要な構想力と技能を、ケーススタディと実践を通じて涵養することである。社会課題の解決を目指すプロジェクトでは、参加者の動機づけやステークホルダー間の合意形成を促進するために、広報・PRが重要な役割を担っている。受講生は、広報・PR論やコミュニケーション論の知見を踏まえつつ、広報・PRの具体的な事例について、実務家との議論を交えながら考察を深め、実践に向けた構想力を養う。そのうえで、受講生自身が広報・PRの実践に取り組み、必要となる技能を修得することを目指す。</p>
		社会課題解決のためのメディア2	<p>本科目の目的は、社会課題の解決にメディアを役立てるために、メディアの特性に応じた表現の技法を受講生が理解し、修得することである。社会課題の解決にメディアを役立てるためには、課題を深く理解し、その解決に資するメディアを的確に選択し、メディアの特性に応じた表現の技法を用いることが求められる。本科目では、課題の理解とメディア表現の前提として、取材と構成の技法を学ぶ。そのうえで、メディアの特性を理解し、その特性に応じて求められる映像表現と文字・文章表現の技法を受講生が修得することを目指す。</p>
		社会課題解決のためのビジネス1	<p>ソーシャルビジネスとは、社会課題の解決を目指して行うビジネスのことであり、バングラデシュの経済学者でグラミン銀行創設者のムハマド・ユヌス博士が提唱した概念である。経済産業省では「社会性」「事業性」「革新性」の3つの要素を満たす事業をソーシャルビジネスとして定義している。重要なのは、ソーシャルビジネスが社会問題の解決をミッションとしつつ、ビジネスの手法で取り組んでいることである。本科目では、ビジネスの根幹であるマーケティング(商品やサービスを通じた市場創造の方法など)の基本を学びながら、ソーシャルビジネスの事業計画を策定できるようになることを目標とする。</p>
		社会課題解決のためのビジネス2	<p>ソーシャルビジネスとは、社会課題の解決を目指して行うビジネスのことであり、バングラデシュの経済学者でグラミン銀行創設者のムハマド・ユヌス博士が提唱した概念である。経済産業省では「社会性」「事業性」「革新性」の3つの要素を満たす事業をソーシャルビジネスとして定義している。重要なのは、ソーシャルビジネスが社会問題の解決をミッションとしつつ、ビジネスの手法で取り組んでいることである。本科目では、ビジネスの根幹であるマネジメント(株式会社のあり方や経営管理の手法など)の基本を学びながら、ソーシャルビジネスの事業計画を策定できるようになることを目標とする。</p>

選択必修科目(続き)	思考法・表現法・スキル(続き)	国際協力のための外国語	本科目では、国際協力機構(JICA)が、JICA海外協力隊を現地派遣する前に行っている言語トレーニングと同じ手法を用い、少人数制による集中的なトレーニングによって目標とする外国語の運用能力を向上させようとするものである。 講義は、夏季休暇期間を利用した集中講座(約3週間のトレーニング)の形で実施される。受講時間は計75時間(5時間×15日)を予定。JICA青年海外協力隊員などとして海外で活躍の学科卒業生の体験談を聴く機会なども設ける予定である。	共同
		外国語特別演習	本学部では、国際共通語としての英語のほか、学生自身がプロジェクトを行う現場の言語の習得も、文化理解に根付いた社会分析・プロジェクト実施のためには重要であると考え。そのため、本科目は、自学で英語を含む諸言語を学び、検定などを通してその証明をし、学外の活動につなげたい学生をフォローするものである。教員は、受講生それぞれの受講開始時点での言語のレベルを確認し、いつまでどのような目的でどこまで言語力を伸ばしたいのかを共有して、助言を行いながら、学生の目標達成を助ける。	
基幹教育科目	清泉スタンダード	スタートアップ・ゼミナール	本授業では、大学で学ぶための基礎的な環境やルールについて学ぶ。また、清泉女子大学のルールブックであり、またガイドブックでもある「学生要覧」や学生生活上の注意すべき点や重要な点を学ぶ。また、アセスメントテストを受験し、またその解説から現在の自分の能力について知る。さらに、ZoomやLMS(授業で使用するウェブサイト)の使用法を学ぶとともに、自分の健康状態について確認し、大学での学修や学生生活に必要な知識を学ぶ。	
		初年次ゼミナール	清泉女子大学に関わりの深いテーマ、「女性」と「平和」について学びながら、「大学への学び」に求められる基礎的な力を学ぶ。女性と平和に関するテーマの講義を聴き、文献等から基礎的な知識を学んだ上で、現代的な問題について多様な切り口があることを踏まえながら、それぞれのテーマに関する学生の知見を広げる。その過程を通じて、レポートの書き方、図書館の使い方、文献検索やデータベースの使い方などを身につけ、またグループ・ディスカッションや発表などを、学生自らが主体的におこなえるようにする。	
		初年次ゼミナール	初年次ゼミナールの再履修者を対象に、レポートの書き方や図書館の使い方、文献検索の方法やデータベースの使い方など、大学で学ぶための基礎的な力を養成する。学期末課題にレポートを課す。再履修クラスという特性を考慮し、個々の進捗や特性に応じつつ、個別指導を重視し、指導する。	
		キャリア・デザイン I	卒業後のキャリアを視野に入れ、大学での学びを社会で生かしていくことを学ぶ。「キャリア」という考え方が、社会における役割、つまり働くことと私生活の両方を含む広い概念であることを学んだ上で、「キャリア」を考えるため様々な現代社会の課題に注目していく。ジェンダーとキャリアの概念を踏まえ、卒業後に向けたキャリアの概念を獲得し、自らの将来に主体的に向き合う態度を涵養する。さらに大学での学びを通じて経済や社会、家庭や個人の役割の変化を理解し、社会人としての将来の自己イメージを具体的にしていく。	
		スペイン語の世界	本科目では、本学のルーツに深く関わるスペイン語の基礎を、スペイン語が使用される地域のライフスタイルや価値観に触れながら学んでいく。身近な事柄を表現するためによく用いられる語彙や文構造を中心に学び、正確な発音も身につけていく。①スペイン語が使われる国や地域の文化や社会に親しみ、本学とスペイン語の関わりに関心を寄せること、②スペイン語の発音や綴りに慣れ、基本的な動詞の活用や、日常よく用いられる語彙を覚えること、③スペイン語の日常的な表現を理解し、用いることができるようになることを目標とする。	
		人間論	(概要)本授業は、建学の精神であるキリスト教について、多様な観点より学ぶことを目的とする。4人の教員がオムニバス形式で授業を行い、キリスト教の人間観や世界観を学ぶことで、自らの人生観や生き方に立ち止まって考える。 (オムニバス形式/全13回) (21 竹田文彦/3回) キリスト教人間観の基礎について指導する (26 井上まどか/3回) Beyond gender の人間学について指導する (7 吉岡昌紀/3回) 心理学から見た人間について指導する (27 坂田奈々絵/3回) 他者とはなにかを指導する (12 藤本夕衣/1回) 人間論の科目の意義、キリスト教大学としてのアイデンティティについて指導する	オムニバス
		キリスト教学 I	本授業は、聖書にもとづき、キリスト教の基礎的な知識(思想・歴史・文化など)を学ぶことを目的とする。キリスト教成立以前について、また、イエスの生涯、聖書のエピソードを学ぶことを通じて、「キリスト教とはいったいかなる宗教であるか」を考える。また、こうした基礎的な事柄を学ばなかで、各自、具体的に「キリスト教を生きるとはどのようなことなのか」ということを考える。	
		キリスト教学 II	本授業では、「キリスト教学」での学びを踏まえ、さらにより詳しく、キリスト教に関する事柄について理解を深める。具体的には、キリスト教の信仰を生きる聖人の生涯や、キリスト教の中心的概念(愛など)、あるいは中心的な儀式であるミサについて等の詳細を学ぶ。具体的、専門的にキリスト教について学び、様々な側面からキリスト教についての知見を深めつつ、現在の私達自身との関わりや影響、その意味について考える。	

清泉 スタン ダード (続 き)	健康・安全管理	(概要)大学生生活および卒業後の人生をよりよいものとするために、「健康」かつ「安全」に生きるための知識を習得する。①身体の構造と働き、栄養・運動・休養の重要性、②社会保障制度(セーフティーネット)や犯罪被害防止に関する知識、③感染症とその予防、④心の健康に焦点を当てたストレスマネジメントと働く人のメンタルヘルス、という幅広い内容について、それぞれを専門とする教員が解説し、理解と実践につなげる。 (オムニバス形式/13回) (12 藤本夕衣/10回) ①の内容(生理学、解剖学、女性の生理、栄養、運動)、②の内容(年金、ハラスメント、カルト、犯罪被害防止)、④の内容(心の健康に焦点を当てたストレスマネジメントと働く人のメンタルヘルス)、まとめと理解度の確認(最終回)※①②④は、授業内講演講師を招いて実施。 (53 津久井久美子/3回) ③の内容、感染および免疫応答の理解。予防方法の原理と実践。性感染症の最新の世界的動向と海外旅行リスク。飲食物からの感染症。	オムニバス
	情報環境の構築	必携とされている各自のBYOD PCを、大学で学ぶための基本環境として整え、それを活用するスキルを身につける。そのために、まずは、PCに対して、必要な設定を行い、ソフトウェアを導入する。そして、勉学など学生生活のために活用すべきシステムの利用方法を学び、さらに、学内・学外の情報にアクセスして資料を検索・入手して、それを読解したり、レポートで参照したり、プレゼンテーションで説明したりする実習を進める。	
	情報環境の構築	必携とされている各自のBYOD PCを、大学で学ぶための基本環境として整え、それを活用するスキルを身につける。そのために、まずは、PCに対して、必要な設定を行い、ソフトウェアを導入する。そして、勉学など学生生活のために活用すべきシステムの利用方法を学び、さらに、学内・学外の情報にアクセスして資料を検索・入手して、それを読解したり、レポートで参照したり、プレゼンテーションで説明したりする実習を進める。	共同
	データリテラシー基礎	必携とされているBYOD PCを用いて勉学や社会活動に必要とされるデータを検索・取得・整理し、また、そのPC上表現する実習を行う。それを通して、他者がデータを用いて事実や意見を説明する内容を批判的に解釈するスキルや、自身がデータを用いて事実や意見を効果的に説明するスキルを身につける。そのために、データの検索・取得・整理、基本的な記述統計量の算出、表からグラフへの変換、グラフ種類の選択、データと主張との関係、などを、社会の実統計データを用いて操作する。	
	情報社会の安全と倫理	自分に関わる情報環境を社会の中で適切に認識して管理して活用するスキルを身につけるとともに、AI・データサイエンスを安全かつ効果的に活用するための認識を身につける。そのために、BYOD PCやスマートホンを初めとした自分の日常を構成する情報環境の設定・利用、および、それらから発信される情報とその影響を正しく把握するための基本知識を学ぶ。さらに、自身が情報の発信者や情報環境への参加者となることで世界に対してどのような影響を与えるかについて考えられるようになることを目指す。	
基幹 教育 科目 (続 き)	First-year English: English for Global Citizens 1a	The aim of this course is to improve students' general English skills and critical thinking skills. In this course, students will have opportunities to practice organizing their opinions and expressing them clearly. Students will practice use of English as a foreign language for internships and projects abroad. In addition, students will learn how to integrate speaking, listening, and writing skills to demonstrate college-level English proficiency.  (和訳)この講座は、英語の4技能(読む、書く、聞く、話す)を統合して使用する能力の向上を目的とする。批判的思考力にフォーカスした内容で、自分の意見を整理して相手に分かりやすく伝えるための訓練を行う。海外でインターンシップやプロジェクトを行うために英語を用いる準備をおこなう。さらに、大学レベルのスピーキング、リスニング、ライティングのスキルを統合して使用する力を身に付ける機会が提供される。	
	First-year English: English for Global Citizens 1b	The aim of this course is to improve students' general English skills and critical thinking skills. In this course, students will have opportunities to practice organizing their opinions and expressing them clearly. Students will practice use of English as a foreign language for internships and projects in developing countries in Asia and Africa. In addition, students will learn how to integrate speaking, listening, and writing skills to demonstrate college-level English proficiency.  (和訳)この講座は、英語の4技能(読む、書く、聞く、話す)を統合して使用する能力の向上を目的とする。批判的思考力にフォーカスした内容で、自分の意見を整理して相手に分かりやすく伝えるための訓練を行う。アジアやアフリカなどの途上国でインターンシップやプロジェクトを行うために英語を用いる準備をおこなう。さらに、大学レベルのスピーキング、リスニング、ライティングのスキルを統合して使用する力を身に付ける機会が提供される。	
	First-year English: Seisen Studies in English	The aim of this course is to enhance students' four skills in English (reading, listening, speaking, and writing) by way of watching assigned videos and working on tasks on the textbook. Discussion and other skill-based tasks will be employed. This course furthermore focuses on learning vocabulary and grammar that students can use in actual communication. (和訳)この講座では、CLIL(内容言語統合型学習)を採用した授業を実施する。CLILとは、教科科目やテーマの内容(content)の学習と、外国語(language)の学習を組み合わせた(integrated)言語習得アプローチを意味する。授業ではビデオ教材や教科書に提示された課題を使って、清泉を英語「で」学ぶことを主要な目的とすると同時に、英語の4技能(読む・聴く・話す・書く)を養うことを目指す。授業では、ディスカッションその他のスキルを使うタスクにも取り組む。さらに、実際のコミュニケーションで使用する語彙や文法の習得にも重きを置く。	
必修 外国 語			

必修外国語 (続き)	First-year English: Basic English GC 1a		この講座は、英語のリスニング・スピーキング・リーディング・ライティングの四技能について、基礎的事柄を学び直し、基本的英語知識の定着と、基礎的英語運用能力の習得を目的とする。授業ではテキストに沿って学習をすすめると共に、ワークブックや課題を有効に用いて、テキストで学習した事柄の定着を図る。また、授業外学修として e-learningを用い、学生ひとりひとりの習熟度、得意とする点、苦手な点に細やかに対応した学修を可能とする。	
	First-year English: Basic English GC 1b		この講座は、英語のリスニング・スピーキング・リーディング・ライティングの四技能について、基礎的事柄を学び直し、基本的英語知識の定着と、基礎的英語運用能力の習得を目的とする。授業ではテキストに沿って学習をすすめると共に、ワークブックや課題を有効に用いて、テキストで学習した事柄の定着を図る。また、授業外学修として e-learningを用い、学生ひとりひとりの習熟度、さらには強み、苦手な点に細やかに対応した学修を可能とする。	
	First-year English: Basic English GC 2		この講座は、前期に引き続き、英語のリスニング・スピーキング・リーディング・ライティングの四技能について、基礎的事柄を学び直し、基本的英語知識の定着と、基礎的英語運用能力の習得を目的とする。授業ではテキストに沿って学習をすすめると共に、ワークブックや課題を有効に用いて、テキストで学習した事柄の定着を図る。また、授業外学修として e-learningを用い、学生ひとりひとりの習熟度、得意とする点、苦手な点に細やかに対応した学修を可能とする。	
	Second-year English: English for Global Citizens 2		The aim of this course is to improve students' general English skills and critical thinking skills. In this course, students will have opportunities to practice organizing their opinions and expressing them clearly. Students will practice use of English as a foreign language for internships and projects abroad. In addition, students will learn how to integrate speaking, listening, and writing skills to demonstrate college-level English proficiency. Building on the first-year courses, it covers more advanced skills and contents.  (和訳)この講座は、英語の4技能(読む、書く、聞く、話す)を統合して使用する能力の向上を目的とする。批判的思考力にフォーカスした内容で、自分の意見を整理して相手に分かりやすく伝えるための訓練を行う。海外でインターンシップやプロジェクトを行うために英語を用いる準備をおこなう。さらに、大学レベルのスピーキング、リスニング、ライティングのスキルを統合して使用する力を身に付ける機会が提供される。一年次の学習内容をふまえてより高度なスキルや発展的内容を扱う。	
選択外国語	English Skills Workshop (Extensive Reading) a		The aim of this course is to enhance students' reading skills in English through extensive reading and other language-related tasks. Students will have the opportunity to read for enjoyment, appreciate stories, and simultaneously enhance their English proficiency.  (和訳)この講座の目的は、多読とそれに関連する英語学習タスクを通じて、学生の英語習熟度を向上させることである。授業では、学習者向けの洋書 (graded readers) を用い、学生達は楽しむために英語で書かれた様々なジャンルの読み物に触れる機会を与えられる。これにより学生は、物語等を楽しんで読むことを通じて、英語力(特に読解力)を身に付けることができる。また、授業内タスクを通じて、多読への関心を更に深めたり、言語的な気づきを促し、言語習得を助けることができる。	
	English Skills Workshop (Extensive Reading) b		The aim of this course is to enhance students' reading skills in English through extensive reading and other language-related tasks. Building on the first semester course, it covers more advanced skills and contents. Students will have the opportunity to read for enjoyment, appreciate stories, and simultaneously enhance their English proficiency.  (和訳)この講座の目的は、多読とそれに関連する英語学習タスクを通じて、学生の英語習熟度を向上させることである。前期の学習内容をふまえてより高度なスキルや発展的内容を扱う。授業では、学習者向けの洋書 (graded readers) を用い、学生達は楽しむために英語で書かれた様々なジャンルの読み物に触れる機会を与えられる。これにより学生は、物語等を楽しんで読むことを通じて、英語力(特に読解力)を身に付けることができる。また、授業内タスクを通じて、多読への関心を更に深めたり、言語的な気づきを促し、言語習得を助けることができる。	
	English Skills Workshop (Active Skills for Communication) a		The aim of this course is to enhance students' active conversation and discussion skills in English. Students will engage in conversations on a variety of personalized topics to foster fluency and conversational proficiency. Additionally, they will explore educational, social, and environmental issues to develop the skills required for expressing ideas and opinions effectively. Through the preparation of short speeches and presentations, students will also develop the ability to logically structure their opinions and arguments.  (和訳)この講座は、学生が英語を使用して活発に会話をする能力や、英語でディスカッションをおこなう技術の向上を目的とする。学生は、流暢さを向上させ、会話力を養うために、教育、社会、そして環境問題といったトピックを自分に関連付けて考え、英語で話す技術を養っていく。この講座ではまた、学生がディスカッションや短いプレゼンテーションを行う機会がある。プレゼンテーションの準備段階において、自分の意見や主張を論理的に組み立てる力を培うことができる。	

基幹教育科目（続き） 選択外国語（続き）	English Skills Workshop (Active Skills for Communication) b	<p>The aim of this course is to enhance students' active conversation and discussion skills in English. Building on the first semester course, it covers more advanced skills and contents. Students will engage in conversations on a variety of personalized topics to foster fluency and conversational proficiency. Additionally, they will explore educational, social, and environmental issues to develop the skills required for expressing ideas and opinions effectively. Through the preparation of short speeches and presentations, students will also develop the ability to logically structure their opinions and arguments.</p> <p>(和訳)この講座は、学生が英語を使用して活発に会話をする能力や、英語でディスカッションをおこなう技術の向上を目的とする。前期の学習内容をふまえてより高度なスキルや発展的内容を扱う。学生は、流暢さを向上させ、会話力を養うために、教育、社会、そして環境問題といったトピックを自分に関連付けて考え、英語で話す技術を養っていく。この講座ではまた、学生がディスカッションや短いプレゼンテーションを行う機会がある。プレゼンテーションの準備段階において、自分の意見や主張を論理的に組み立てる力を培うことができる。</p>
	English Skills Workshop (Academic Listening)	<p>The aim of this course is to develop students' academic listening skills. The course covers note-taking skills as well. In class, students will have opportunities to listen to lectures on a variety of topics while taking notes. Students will also have opportunities to work in pairs and groups, which will help them enhance their understanding of the lectures they have just listened to. The activity will also help them improve their listening skills.</p> <p>(和訳)このコースの目的は、学生の学術的なリスニングスキルを養成することである。加えて、このコースではノートテイキングのスキル養成も扱う。授業では、学生はノートを取りながらさまざまなトピックに関する講義を聞く機会を与えられる。この講座はリスニングに焦点をあてるが、ペアやグループワークも取り入れてゆく。ペアやグループで活動をおこなうことにより学生は、聞いた講義の理解を向上させることができ、リスニングスキル向上を助けることにもつながる。</p>
	English Skills Workshop (Advanced Academic Listening)	<p>The aim of this course is to develop students' academic listening skills. The course covers note-taking skills as well. It covers more advanced skills and contents compared to English Skills Workshop (Academic Listening). In class, students will have opportunities to listen to lectures on a variety of topics while taking notes. Students will also have opportunities to work in pairs and groups, which will help them enhance their understanding of the lectures they have just listened to. The activity will also help them improve their listening skills.</p> <p>(和訳)このコースの目的は、学生の学術的なリスニングスキルを養成することである。加えて、このコースではノートテイキングのスキル養成も扱う。English Skills Workshop (Academic Listening)と比較して、より高度なスキルや発展的内容を扱う。授業では、学生はノートを取りながらさまざまなトピックに関する講義を聞く機会を与えられる。この講座はリスニングに焦点をあてるが、ペアやグループワークも取り入れてゆく。ペアやグループで活動をおこなうことにより学生は、聞いた講義の理解を向上させることができ、リスニングスキル向上を助けることにもつながる。</p>
	English Skills Workshop (Academic Writing)	<p>この講座の目的は、アカデミック・ライティングで用いられるパラグラフ(段落)の構成法を学び、読みやすく客観性・論理性・一貫性を備えたパラグラフを書けるようにすることである。また、パラグラフの集合体であるエッセイの構成についても学ぶ。パラグラフ、エッセイの両方について、発想から構想・整理・アウトラインの段階を追って文章を作成していく。またこれらと並行して、センテンス(文)レベルの英文作成について復習する。</p>
	TOEIC対策講座 Pre-intermediate a	<p>この講座では、TOEICの解答テクニックに捕らわれすぎることなく、英語力全般を向上させることを視野に入れた学習をすすめてゆく。その結果として、TOEICのスコアを伸ばすことがこの講座の目的である。授業では、TOEICテスト形式の問題を中心に用いて問題を解き、正解や誤答をの理由を考えてゆく。このような過程を通じて、英語そのものへの理解を深め、リスニング力、文法力、リーディング力の向上と、語彙力の強化をはかる。</p>
	TOEIC対策講座 Pre-intermediate b	<p>この講座では、TOEICの解答テクニックに捕らわれすぎることなく、英語力全般を向上させることを視野に入れた学習をすすめてゆく。その結果として、TOEICのスコアを伸ばすことがこの講座の目的である。この科目は、前期科目とは異なった内容・問題を扱う。授業では、TOEICテスト形式の問題を中心に用いて問題を解き、正解や誤答をの理由を考えてゆく。このような過程を通じて、英語そのものへの理解を深め、リスニング力、文法力、リーディング力の向上と、語彙力の強化をはかる。</p>
	TOEIC対策講座 Intermediate a	<p>この講座では、TOEICの解答テクニックに捕らわれすぎることなく、英語力全般を向上させることを視野に入れた学習をすすめてゆく。その結果として、TOEICのスコアを伸ばすことがこの講座の目的である。授業では、TOEICテスト形式の問題を中心に用いて問題を解き、正解や誤答をの理由を考えてゆく。このような過程を通じて、英語そのものへの理解を深め、リスニング力、文法力、リーディング力の向上と、語彙力の強化をはかる。</p>
	TOEIC対策講座 Intermediate b	<p>この講座では、TOEICの解答テクニックに捕らわれすぎることなく、英語力全般を向上させることを視野に入れた学習をすすめてゆく。その結果として、TOEICのスコアを伸ばすことがこの講座の目的である。この科目は、前期科目とは異なった内容・問題を扱う。授業では、TOEICテスト形式の問題を中心に用いて問題を解き、正解や誤答をの理由を考えてゆく。このような過程を通じて、英語そのものへの理解を深め、リスニング力、文法力、リーディング力の向上と、語彙力の強化をはかる。</p>

基幹教育科目（続き）	選択外国語（続き）	TOEIC対策講座 Advanced a	<p>The aim of this course is to develop students' skills necessary to do well on the TOEIC Listening and Reading Test. It focuses on building the range and understanding of language use and on developing awareness of the key testing strategies needed to get a high score. The course will familiarize students with the Listening and Reading components of the TOEIC test and provide sufficient practice of all sections.</p> <p>(和訳)この講座は、TOEICのリスニングとリーディングで高得点を取得するのに必要とされる、英語ならびに受験スキルの向上を目指す。授業では、学生の言語使用への理解を深めるとともに言語使用の範囲を広げてゆく。また、高得点をとるために必要である、受験テクニックへの気づきを高めることもおこなっていく。TOEICのリスニングやリーディングのパートの試験形式、問題に慣れるための練習機会も十分に設ける。</p>	
		TOEIC対策講座 Advanced b	<p>The aim of this course is to develop students' skills necessary to do well on the TOEIC Listening and Reading Test. It focuses on building the range and understanding of language use and on developing awareness of the key testing strategies needed to get a high score. This course covers contents and questions that are different from those covered in the first semester course. The course will familiarize students with the Listening and Reading components of the TOEIC test and provide sufficient practice of all sections.</p> <p>(和訳)この講座は、TOEICのリスニングとリーディングで高得点を取得するのに必要とされる、英語ならびに受験スキルの向上を目指す。授業では、学生の言語使用への理解を深めるとともに言語使用の範囲を広げてゆく。また、高得点をとるために必要である、受験テクニックへの気づきを高めることもおこなっていく。この科目は、前期科目とは異なった内容・問題を扱う。TOEICのリスニングやリーディングのパートの試験形式、問題に慣れるための練習機会も十分に設ける。</p>	
		留学準備TOEFL-ITP対策講座 a	<p>The aim of this course is to enhance students' overall English abilities, thereby improving their TOEFL-ITP scores. Students will have the opportunity to practice reading, writing, speaking, and listening skills within the context of the TOEFL test. The target TOEFL score is 500.</p> <p>(和訳)この講座は、TOEFLの解答テクニックに捕らわれすぎることなく、学生の総合的な英語力を伸ばすことによって、TOEFL-ITPのスコアを向上させることを目的とする。授業ではTOEFLテストに使用されるような素材を読んだり、聞いたりする。また、TOEFLテストで用いられるようなトピックについて書いたり、話したりする機会も与え得られる。この講座を受講した後に、学生が取得できることを目標とするTOEFL ITPスコアは500点である。</p>	
		留学準備TOEFL-ITP対策講座 b	<p>The aim of this course is to enhance students' overall English abilities, thereby improving their TOEFL-ITP scores. This course covers contents and questions that are different from those covered in the first semester course. Students will have the opportunity to practice reading, writing, speaking, and listening skills within the context of the TOEFL test. The target TOEFL score is 500.</p> <p>(和訳)この講座は、TOEFLの解答テクニックに捕らわれすぎることなく、学生の総合的な英語力を伸ばすことによって、TOEFL-ITPのスコアを向上させることを目的とする。この科目は、前期科目とは異なった内容・問題を扱う。授業ではTOEFLテストに使用されるような素材を読んだり、聞いたりする。また、TOEFLテストで用いられるようなトピックについて書いたり、話したりする機会も与え得られる。この講座を受講した後に、学生が取得できることを目標とするTOEFL ITPスコアは500点である。</p>	
		留学準備TOEFL S&W対策講座	<p>The aim of this course is to enhance students' speaking and writing abilities in English, thereby improving their TOEFL S&amp;W scores. This course will review the four types of questions on the TOEFL Speaking sections and the two types on the TOEFL Writing sections.</p> <p>(和訳)この講座の目的は、この講座は、TOEFLの解答テクニックに捕らわれすぎることなく、学生の英語におけるスピーキングとライティング能力を向上させ、その結果としてTOEFLのスピーキングおよびライティングのスコアを向上させることである。このコースでは、TOEFLのスピーキングセクションの4つのタイプとライティングセクションの2つのタイプを扱い、学生の発信力を高め、留学に必要なTOEFL S&amp;Wスコアを取得することを目指す。</p>	
		留学準備IELTS対策講座 a	<p>The aims of this course are to improve students' IELTS scores and build their language proficiency. It will help students stay focused to get the IELTS band score they need, thereby helping them to achieve their goals, whether it's to get a better job, get on to a university course abroad or for visa requirements when studying abroad. As a result, students will also build their self-confidence by trying to achieve their own clear study goals.</p> <p>(和訳)この講座は、学生のIELTSの得点向上を言語使用能力の向上を目的とする。学生が目標とするIELTSのバンド・スコアに到達ができるように指導をしていく。目標スコアの達成によって、その先に学生自身が自らの目標として持つもの、例えば、より良い仕事、海外留学、留学で必要とされるビザの習得などが達成できるように援助をしていく。また、学生自身が自身の明確な学習目標を到達しようとすることによって、自分への自信を培うことも可能となる。</p>	

基幹教育科目（続き）	選択外国語（続き）	留学準備IELTS対策講座 b	<p>The aims of this course are to improve students' IELTS scores and build their language proficiency. It will help students stay focused to get the IELTS band score they need, thereby helping them to achieve their goals, whether it's to get a better job, get on to a university course abroad or for visa requirements when studying abroad. As a result, students will also build their self-confidence by trying to achieve their own clear study goals. This course covers contents and questions that are different from those covered in the first semester course.</p> <p>(和訳)この講座は、学生のIELTSの得点向上を言語使用能力の向上を目的とする。学生が目標とするIELTSのバンド・スコアに到達ができるように指導をしていく。目標スコアの達成によって、その先に学生自身が自らの目標として持つもの、例えば、より良い仕事、海外留学、留学で必要とされるビザの習得などが達成できるように援助をしていく。また、学生自身が自身の明確な学習目標を到達しようとすることによって、自分への自信を培うことも可能となる。この科目は、前期科目とは異なった内容・問題を扱う。</p>	
		英検対策講座 a	<p>この講座は、英検2～準1級受験に向けて必要な英語力を強化することを目的とする。英検受験・合格を目指して、読解力、リスニング力、スピーキング力を強化する。この講座では、これまでの英語力をブラッシュアップしながら、英検2級の問題形式に対応した教材の練習問題を解き、主体的に学習することで英検受験の準備・対策を行う。単語力、文法の理解なども強化していく。また習熟度に応じて、準1級対策につながる練習問題も適宜、取り入れていく。</p>	
		英検対策講座 b	<p>この講座は、英検準1級受験・合格に向けて必要な英語力を強化することを目的とする。英検準1級の受験・合格を目指して、読解力、リスニング力、ライティング力およびスピーキング力をさらに強化していく。英検2級及び準1級の問題形式に対応した教材の練習問題を解き、主体的に学習することで英検受験の準備・対策を行う。さらに学習した英語の知識を実践的な場面で運用できるように、より正確な理解力を身に付け、表現力の強化することを目指す。</p>	
		Business Communication	<p>The aim of this course is to develop students' English skills necessary for international business communication. Students will practice business English through activities in which they will utilize the four language skills to communicate ideas in a formalized context.</p> <p>(和訳)この講座の目的は、国際ビジネスの場面におけるコミュニケーションのために必要となる英語スキルを養成することである。学生が将来、国際ビジネスの場面で英語を用いて意思疎通ができるように、この授業ではビジネス英語を用いた訓練を行う。英語四技能(読む、聞く、話す、書く)を活用する言語活動を通じて、学生が将来国際舞台においてビジネスをおこなう際に、形式に則ったコミュニケーションの取り方を知り、使えるようにする。</p>	
		Current Issues: SDGs a	<p>The aim of this course is to develop students' skills in discussing current issues related to the Sustainable Development Goals (SDGs). In this course, students will have opportunities to raise their awareness of and practice predicting global issues and the SDGs, expanding their vocabulary for describing global problems and solutions, prioritizing and justifying their choices, and enhancing their creativity and design skills.</p> <p>(和訳)この講座の目的は、持続可能な開発目標(SDGs)に関連する時事問題を議論するための英語スキルを育成することである。このコースでは、学生に以下のような機会が与えられる。1)グローバルな問題とSDGsについての意識を高め、将来について予測する、2)グローバルな問題とその解決策について英語で表現するための語彙を増やす、3)数ある選択肢の優先順位を付け、その理由を説明する、4)創造性とデザインスキルを向上させる。</p>	
		Current Issues: SDGs b	<p>The aim of this course is to develop students' skills in discussing current issues related to the Sustainable Development Goals (SDGs). In this course, students will have opportunities to raise their awareness of and practice predicting global issues and the SDGs, expanding their vocabulary for describing global problems and solutions, prioritizing and justifying their choices, and enhancing their creativity and design skills. This course covers contents and topics that are different from those covered in the first semester course.</p> <p>(和訳)この講座の目的は、持続可能な開発目標(SDGs)に関連する時事問題を議論するための英語スキルを育成することである。このコースでは、学生に以下のような機会が与えられる。1)グローバルな問題とSDGsについての意識を高め、将来について予測する、2)グローバルな問題とその解決策について英語で表現するための語彙を増やす、3)数ある選択肢の優先順位を付け、その理由を説明する、4)創造性とデザインスキルを向上させる。この科目は、前期科目とは異なった内容・トピックを扱う。</p>	
		フランス語入門	<p>本科目では、日常生活に用いられる簡単なフランス語を理解し、表現できるようになることを目指す。身近な事柄を表現するためによく用いられる語彙や文構造を、様々な練習を通して学び、正確な発音も身につけていく。フランス語が使われる国や地域の文化、社会背景についての理解も深める。①フランス語の発音や綴りに慣れ、基本的な動詞の活用や、日常よく用いられる語彙を覚えること、②フランス語の日常的な表現を理解し、用いることができるようになること、③フランス語が使われる国や地域の文化や社会についての理解を深めることを目標とする。</p>	
		フランス語初級	<p>本科目では、日常生活に用いられるフランス語を理解し、表現できるようになることを目指す。身近な事柄を表現するためによく用いられる語彙や文構造を、様々な練習を通して学び、「フランス語入門」に引き続き、一歩進んだ文法事項も身につけていく。フランス語が使われる国や地域の文化、社会背景、価値観についての理解もより深める。①フランス語の基本的な動詞の活用や、基本語彙を覚えること、②フランス語の日常的な表現を理解し、簡単なやり取りができるようになること、③フランス語が使われる国や地域の文化や社会を、より身近なものとして捉えられるようになることを目標とする。</p>	

基幹教育科目（続き）	選択外国語（続き）	ドイツ語入門	本科目では、日常生活に用いられる簡単なドイツ語を理解し、表現できるようになることを目指す。身近な事柄を表現するためによく用いられる語彙や文構造を、様々な練習を通して学び、正確な発音も身につけていく。ドイツ語が使われる国や地域の文化、社会背景についての理解も深める。①ドイツ語の発音や綴りに慣れ、基本的な動詞の活用や、日常よく用いられる語彙を覚えること、②ドイツ語の日常的な表現を理解し、用いることができるようになること、③ドイツ語が使われる国や地域の文化や社会についての理解を深めることを目標とする。
		ドイツ語初級	本科目では、日常生活に用いられるドイツ語を理解し、表現できるようになることを目指す。身近な事柄を表現するためによく用いられる語彙や文構造を、様々な練習を通して学び、「ドイツ語入門」に引き続き、一歩進んだ文法事項も身につけていく。ドイツ語が使われる国や地域の文化、社会背景、価値観についての理解もより深める。①ドイツ語の基本的な動詞の活用や、基本語彙を覚えること、②ドイツ語の日常的な表現を理解し、簡単なやり取りができるようになること、③ドイツ語が使われる国や地域の文化や社会を、より身近なものとして捉えられるようになることを目標とする。
		中国語入門	本科目では、中国語と日本語の違いを比較しながら、中国語の発音と文法の基礎を学ぶ。正確な発音が身につくように練習を重ね、身近な事柄を表現するためによく用いられる語彙や文法事項を学ぶ。中国の文化、社会背景、価値観についての理解も深める。①中国語の発音の基礎を身につけること、②中国語の文法の基礎を理解し、基本語彙を覚えること、③中国語の日常的な表現を理解し、用いることができるようになることを目標とする。
		中国語初級	本科目では、中国語と日本語の違いを比較しながら、中国語の発音と文法の基礎を学ぶ。「中国語入門」に引き続き、より正確な発音が身につくように練習を重ね、一歩進んだ文法事項も身につけていく。中国の文化、社会背景、価値観についての理解もより深める。①正確な中国語の発音を身につけること、②中国語の文法の基礎を定着させ、基本語彙を覚えること、③中国語の日常的な表現を理解し、簡単なやり取りができるようになることを目標とする。
		朝鮮・韓国語入門	本科目では、朝鮮・韓国語と日本語の違いを比較しながら、韓国語の発音と文法の基礎を学ぶ。正確な発音が身につくように練習を重ね、身近な事柄を表現するためによく用いられる語彙や文法事項を学ぶ。韓国の文化、社会背景、価値観についての理解も深める。①韓国語の発音の基礎を身につけること、②文字（ハングル）が読めるようになること、③韓国語の文法の基礎を理解し、基本語彙を覚えること、④韓国語の日常的な表現を理解し、用いることができるようになることを目標とする。
		朝鮮・韓国語初級	本科目では、朝鮮・韓国語と日本語の違いを比較しながら、韓国語の発音と文法の基礎を学ぶ。「朝鮮・韓国語入門」に引き続き、語彙や基本的な表現を学び、一歩進んだ文法事項も身につけていく。韓国の文化、社会背景、価値観についての理解もより深める。①韓国語の文法の基礎を定着させ、基本語彙を覚えること、②身近な事柄について、韓国語で自分の気持ちや考えを伝えることができるようになること、③韓国語の日常的な表現を理解し、簡単なやり取りができるようになることを目標とする。
		イタリア語入門	本科目では、日常生活に用いられる簡単なイタリア語を理解し、表現できるようになることを目指す。身近な事柄を表現するためによく用いられる語彙や文構造を、様々な練習を通して学び、正確な発音も身につけていく。イタリアの文化、社会背景についての理解も深める。①イタリア語の発音や綴りに慣れ、基本的な動詞の活用や、日常よく用いられる語彙を覚えること、②イタリア語の日常的な表現を理解し、用いることができるようになること、③イタリアの文化や社会についての理解を深めることを目標とする。
		イタリア語初級	本科目では、日常生活に用いられるイタリア語を理解し、表現できるようになることを目指す。身近な事柄を表現するためによく用いられる語彙や文構造を、様々な練習を通して学び、「イタリア語入門」に引き続き、一歩進んだ文法事項も身につけていく。イタリアの文化、社会背景、価値観についての理解もより深める。①イタリア語の基本的な動詞の活用や、基本語彙を覚えること、②イタリア語の日常的な表現を理解し、簡単なやり取りができるようになること、③イタリアの文化や社会を、より身近なものとして捉えられるようになることを目標とする。
		ギリシア語入門	本科目は、①『新約聖書』が書かれたコイネー・ギリシア語の基本文法を学ぶこと、②ギリシア神話、ギリシア文学、ギリシア哲学の概要を学び、ギリシア文化の特質について考えることを目的とする。授業では、名詞、形容詞、前置詞を中心に基礎文法を学び、講読の練習を行う。また、ギリシア神話、ギリシア叙事詩、ギリシア悲劇、ギリシア哲学の概説を通してギリシア文化の特質について考える。到達目標は、①コイネー・ギリシア語で書かれた文章について、辞書などを用いて読むことができる、②ギリシア語で書かれた様々な文学作品をもとに、ギリシア文化の特質について自分なりの考えを説明することができることである。
		ギリシア語初級	本科目は、①『新約聖書』が書かれたコイネー・ギリシア語の基本文法を学ぶこと、②『新約聖書』をギリシア語原典で読めるようにすることを目的とする。授業では、動詞の活用、不定詞、分詞など発展的な文法事項を学び、『新約聖書』の「マルコによる福音書」等の講読練習を行う。到達目標は、①コイネー・ギリシア語で書かれた文章について、辞書などを用いて読むことができる、②コイネー・ギリシア語で書かれた『新約聖書』のギリシア語原典を受講者各自が辞書を用いて読むことができることである。
ラテン語入門	本科目はラテン語の初等文法を学び、ラテン語で書かれたさまざまな作品、文章について知ることを目的とする。文法は、名詞、形容詞、動詞の直説法能動相の活用までを終える。授業では、各回で学んだ文法事項の例文として、ラテン語で書かれた作品からの引用を紹介する。到達目標は、①学んだ文法事項を用いた簡単なラテン語の作文と読解ができる。②さまざまな時代の作家、作品について知ることで興味、視野の範囲を広げ、教養を身につけることである。		

基幹教育科目（続き）	選択外国語（続き）	ラテン語初級	本科目はラテン語の初等文法を学び、ラテン語で書かれたさまざまな作品、文章について知ることを目的とする。文法は、「ラテン語入門」の発展として、動詞のさまざまな活用を学ぶ。授業では、各回で学んだ文法事項の例文としてラテン語で書かれた作品からの引用を紹介する。到達目標は、①学んだ文法事項に沿って単語を的確に活用させることができ、簡単な読解もできる、②さまざまな時代の作家、作品について知ることによって興味、視野の範囲を広げ、教養を身につけることができることである。
		ロシア語入門	本科目は①ロシア語の初等文法を学ぶこと、②歌謡・絵本・映画を通してロシア、ウクライナ、ベラルーシの人々の生活世界を知ることとする。授業では、名詞・形容詞の格変化、動詞の現在形・過去形・未来形までを学ぶ。またロシア、ウクライナ、ベラルーシなど東スラヴの人々の歌謡・絵本・映画を鑑賞することによって、その生活世界についての理解を深める。到達目標は、①学んだ文法事項を用いた文を読むことができる、②学んだ文法事項を用いた簡単な文を書くことができる、③学んだ文法事項を用いて、日常会話を行うことができる、④ロシア、ウクライナ、ベラルーシの歌謡・絵本・映画を通して、これらの国々の人びとの生活世界について広く理解することである。
		ロシア語初級	本科目は①ロシア語の中等文法を学ぶこと、②歌謡・絵本・映画を通してロシア、ウクライナ、ベラルーシの人々の生活世界を知ることとする。授業では、動詞の体や仮定法、関係詞、形動詞、副動詞、受動態までを学ぶ。またロシア、ウクライナ、ベラルーシなど東スラヴの人々の歌謡・絵本・映画を鑑賞することによって、その生活世界についての理解を深める。到達目標は、①学んだ文法事項を用いた文を読むことができる、②学んだ文法事項を用いた簡単な文を書くことができる、③学んだ文法事項を用いて、日常会話を行うことができる、④ロシア、ウクライナ、ベラルーシの歌謡・絵本・映画を通して、これらの国々の人びとの生活世界について広く理解することである。
		日本語上級文法a	本科目では、日本語を母語としない学生を対象として、文法的誤りの少ない日本語を話したり書いたりするために、日本語文法力を向上させる練習を中心に行う。新聞記事を読んで要約を発表したり、ディクトグロスを行ったり、比較的難易度が高いとされる文型を中心に聞き取り練習を試みたりしながら、議論、口頭発表、レポート・論文作成などで必要とされる表現を理解し、使えるようにする。①アカデミックな場面や日常で用いられる語彙・文型（文法）・表現の意味が理解できること、②似たような意味の文型（文法）・表現を区別できることを目標とする。
		日本語上級文法b	本科目では、日本語を母語としない学生を対象として、文法的誤りの少ない日本語を話したり書いたりするために、日本語文法力を向上させる練習を中心に行う。新聞記事を読んで要約を発表したり、ディクトグロスを行ったり、日常的に使用頻度のあまり高くない文型を中心に聞き取り練習を試みたりしながら、議論、口頭発表、レポート・論文作成などで必要とされる表現を理解し、使えるようにする。①アカデミックな場面や日常で用いられる語彙・文型（文法）・表現の意味が理解できること、②学んだ語彙・文型（文法）・表現を正しく使えることを目標とする。
		日本語上級読解a	本科目では、日本語を母語としない学生を対象として、日本語で書かれた様々な読み物を読み、大学での学修において求められる日本語の基礎的な読解力をつけるための授業を行う。授業では読解に必要な様々な読解ストラテジーについて学ぶ。詩、新聞記事、短編小説、エッセイ等様々なジャンルの読み物に触れ、読み方の違いを理解する。読解を通して理解語彙を増やし、日本語の表現力の伸長を図る。①大学での学習に求められる読解力を身につけることができること、②読解ストラテジーを用いて文章を読むことができること、③漢字語の読みや意味を理解し、理解語彙を増やすことができることを目標とする。
		日本語上級読解b	本科目では、日本語を母語としない学生を対象として、日本語で書かれたアカデミックな文章や現代小説を読み、大学での学修において求められる日本語の読解力を高めるための授業を行う。授業では読解に必要な様々な読解ストラテジーについて学ぶ。①大学でのアカデミックな学びに必要な読解力を高めること、②やや複雑な文章や抽象度の高い文章を論理的に読み、文章の構成や内容が理解できること、③読解ストラテジーを用いて文章や書かれた背景を深く理解し、内容について説明したり、自分の考えを述べること、④漢字語やカタカナ語の意味を理解したうえで、他者との議論や再話活動を通じて使用語彙として用いることができることを目標とする。
		日本語上級会話a	本科目では、日本語を母語としない学生を対象として、大学での学修において求められる日本語口頭運用能力を向上させるための練習を行う。平和や格差といったような、日本社会あるいは世界における時事問題や課題について聞いたり読んだりしながら考え、ディスカッションやインタビューをすることを通じて、自然で、流暢にかつ正確に自己表現ができ、柔軟で効果的なことば遣いができるようになるための練習を行う。①自分の興味・関心について詳しく説明できること、②自分の意見をわかりやすくまとめて述べられることを目標とする。
		日本語上級会話b	本科目では、日本語を母語としない学生を対象として、主にアルバイトや就職活動等、大学の外の社会で求められる日本語口頭運用能力を向上させるための練習を行う。社会人としての自身の将来のキャリアについて考えながら聞いたり読んだりしつつ、自然で流暢かつ正確な自己表現ができ、一人の大人として求められるような、柔軟で効果的なことば遣いができるようになるための練習を行う。①社会の一員として働くことや日本のビジネス慣習に対する理解を深めること、②Eメールや電話などで相手の用件が理解でき応対できること、③対人関係に応じた言語表現の使い分けができることを目標とする。
日本語上級総合a	本科目では、日本語を母語としない学生を対象として、大学での学修に活かせる中上級レベルの日本語の総合的な運用能力をつけるための授業を行う。物語を創作し、日本語のリズム、アクセント、イントネーションについて学んだうえで、他者に伝わりやすく話せるよう練習を行う。①オノマトペをはじめとした中上級レベル以上の語彙が理解できること、②「書き言葉」と「話し言葉」のスタイルの違いを理解し、適切に使用できること、③グループのメンバーとの話し合いを通じて、まとまった文章を書くことができること、④日本語での発表に必要な音韻規則を理解し、他者にわかりやすく自分の意見を伝えたり、発表したりできることを目標とする。		

基幹教育科目（続き）	選択外国語（続き）	日本語上級総合b	本科目では、日本語を母語としない学生を対象として、日本語の4技能を総合的に活用し、アカデミックな文章表現力や口頭でのプレゼンテーション能力を高めるための授業を行う。テーマに対する自分の立場を提示し、明確な理由が述べられるよう意見文に取り組んだり、ディスカッションやインタビュー、プレゼンテーションを行う。①自分の立場やその論拠を示した文章を書くことができること、②他者にインタビューした結果を簡潔にまとめ、スライドを用いてわかりやすいプレゼンテーションができること、③読んだ本の内容やその面白さを他者に伝えることができること、④他者の発表を聞き、適切な質疑応答ができることを目標とする。
		日本語中級Ia	本科目は、主に非漢字圏からの交換留学生を対象として、「日本語中級IIa」（および「日本語中級IIIa」「日本語中級IVa」）と同時に履修することで、日本語の4技能を総合的に高めるための授業を行う。聞いて理解する、会話する、長く話す、読んで理解する、書く等、幅広く4技能を活用する活動を行う。学校や娯楽でふだん出会うような身近な話題についてはもちろん、自身の専門分野の議論など抽象的な話題でも、やや複雑なテキストの主要な内容を理解できるような練習を行う。お互いに緊張しないで熟達した日本語話者とやり取りができるくらい流暢かつ自然に話せることを目標とする。
		日本語中級Ib	本科目は、主に非漢字圏からの交換留学生を対象として、「日本語中級IIb」（および「日本語中級IIIb」「日本語中級IVb」）と同時に履修することで、日本語の4技能を総合的に高めるための授業を行う。聞いて理解する、会話する、長く話す、読んで理解する、書く等、幅広く4技能を活用する活動を行う。学校や娯楽でふだん出会うような身近な話題についてはもちろん、自身の専門分野の議論など抽象的な話題でも、やや複雑なテキストの主要な内容を理解できるような練習を行う。お互いに緊張しないで熟達した日本語話者とやり取りができるくらい流暢かつ自然に話せることを目標とする。
		日本語中級IIa	本科目は、主に非漢字圏からの交換留学生を対象として、「日本語中級Ia」（および「日本語中級IIIa」「日本語中級IVa」）と同時に履修することで、日本語の4技能を総合的に高めるための授業を行う。聞いて理解する、会話する、長く話す、読んで理解する、書く等、幅広く4技能を活用する活動を行う。学校や娯楽でふだん出会うような身近な話題についてはもちろん、自身の専門分野の議論など抽象的な話題でも、やや複雑なテキストの主要な内容を理解できるような練習を行う。お互いに緊張しないで熟達した日本語話者とやり取りができるくらい流暢かつ自然に話せることを目標とする。
		日本語中級IIb	本科目は、主に非漢字圏からの交換留学生を対象として、「日本語中級Ib」（および「日本語中級IIIb」「日本語中級IVb」）と同時に履修することで、日本語の4技能を総合的に高めるための授業を行う。聞いて理解する、会話する、長く話す、読んで理解する、書く等、幅広く4技能を活用する活動を行う。学校や娯楽でふだん出会うような身近な話題についてはもちろん、自身の専門分野の議論など抽象的な話題でも、やや複雑なテキストの主要な内容を理解できるような練習を行う。お互いに緊張しないで熟達した日本語話者とやり取りができるくらい流暢かつ自然に話せることを目標とする。
		日本語中級IIIa	本科目は、主に非漢字圏からの交換留学生を対象として、「日本語中級IVa」（および「日本語中級Ia」「日本語中級IIa」）と同時に履修することで、日本語の4技能を総合的に高めるための授業を行う。聞いて理解する、会話する、長く話す、読んで理解する、書く等、幅広く4技能を活用する活動を行う。学校や娯楽でふだん出会うような身近な話題についてはもちろん、自身の専門分野の議論など抽象的な話題でも、やや複雑なテキストの主要な内容を理解できるような練習を行う。お互いに緊張しないで熟達した日本語話者とやり取りができるくらい流暢かつ自然に話せることを目標とする。
		日本語中級IIIb	本科目は、主に非漢字圏からの交換留学生を対象として、「日本語中級IVb」（および「日本語中級Ib」「日本語中級IIb」）と同時に履修することで、日本語の4技能を総合的に高めるための授業を行う。聞いて理解する、会話する、長く話す、読んで理解する、書く等、幅広く4技能を活用する活動を行う。学校や娯楽でふだん出会うような身近な話題についてはもちろん、自身の専門分野の議論など抽象的な話題でも、やや複雑なテキストの主要な内容を理解できるような練習を行う。お互いに緊張しないで熟達した日本語話者とやり取りができるくらい流暢かつ自然に話せることを目標とする。
		日本語中級IVa	本科目は、主に非漢字圏からの交換留学生を対象として、「日本語中級IIIa」（および「日本語中級Ia」「日本語中級IIa」）と同時に履修することで、日本語の4技能を総合的に高めるための授業を行う。聞いて理解する、会話する、長く話す、読んで理解する、書く等、幅広く4技能を活用する活動を行う。学校や娯楽でふだん出会うような身近な話題についてはもちろん、自身の専門分野の議論など抽象的な話題でも、やや複雑なテキストの主要な内容を理解できるような練習を行う。お互いに緊張しないで熟達した日本語話者とやり取りができるくらい流暢かつ自然に話せることを目標とする。
		日本語中級IVb	本科目は、主に非漢字圏からの交換留学生を対象として、「日本語中級IIIb」（および「日本語中級Ib」「日本語中級IIb」）と同時に履修することで、日本語の4技能を総合的に高めるための授業を行う。聞いて理解する、会話する、長く話す、読んで理解する、書く等、幅広く4技能を活用する活動を行う。学校や娯楽でふだん出会うような身近な話題についてはもちろん、自身の専門分野の議論など抽象的な話題でも、やや複雑なテキストの主要な内容を理解できるような練習を行う。お互いに緊張しないで熟達した日本語話者とやり取りができるくらい流暢かつ自然に話せることを目標とする。
		教養科目	考える技法
書く技法（基礎）	本授業では、大学で「文章」を書くために必要な基礎的な知識や技能を身につけることを目指す。段階的に、客観的に文章を書くトレーニングを行う。事前の構成、読み手の理解に応じた書き方、一度書き上げた文章の推敲など、一連の書くための手順を基礎から学ぶ。また、授業中には学生同士のピア活動やグループワークを積極的に取り入れ、コミュニケーション能力の向上をはかることで、「客観的な文章」を書くために求められる「相手の理解の想像力」も培う。こうした学びを通して、大学で学ぶために必要な基礎的文章力を身につけることを目標とする。		

基幹教育科目（続き）	教養科目（続き）	書く技法（一般）	様々な目的や場面に応じた文章を書く力を養う。日常生活・社会生活で書くことが多い様々なジャンルの文章に触れ、それぞれのジャンルの文章構成やスタイルなどを学び、理解することによって、自らの文章力を向上させていく。文章表現の基礎となる日本語の文法や語彙、敬語の用法を理解すると共に、文章を書く基本的な手順を身につける。そして異なる種類の文章の特色について理解し、ジャンルに応じた自己表現の力をつけることを目標とする。
		書く技法（発展）	日本語のアカデミック・ライティングの力を向上させることを目的とする。特に説明文やレビュー（書評など）、レポート・論文を中心に扱う。これらの文章それぞれの構成や、論旨の一貫性などに関するスキルを学び向上させ、同時にアカデミックな文章に適切な文章表現を学ぶ。特にレポート・論文は、執筆を始める前にアイデアを整理し、資料を収集し、文献を読み込むといったプロセスが必要である。また草稿完成後には推敲、編集といった作業も必要となる。このようなプロセスを経てより良い文章が書けるようになることを目標とする。
		読む技法	日本語母語話者の学生を対象として、日本語の基礎的・汎用的読解力を向上することを目的とする。日本語の文章における、文構造、照応関係、接続関係、定義・分類表現、同義関係、論理的推論などに関する知識を学びあるいは確認し、またこれらに関連したスキルを向上させる。本科目では単に知識を獲得・確認するだけではなく、実際にそれらの知識を利用する活動や、文を生成する活動を通じて、大学での学びや実社会において利用できる形で日本語読解力を向上させる。
		対話の技法	社会人にとって必須のスキルである日本語コミュニケーション能力の向上を目標とする。口頭表現の技法を基礎から学びながら、人前で話す・伝える経験を重ねながら「伝えるスキル」「聞くスキル」の両方を向上させる。普段無意識で言葉にする日本語を「的確に」「論理的に」「豊かに」使いこなすことで、現代人が見落としがちな「対面コミュニケーション」の重要性を再認識すると共に、相手の理解を想像、確認しながら実際に相手と対話する力を身につける。
		文理融合基礎	人の目や耳や肌で受け取るアナログ情報と情報機器内で表現されるデジタル信号とがどのように変換されたり伝達されたり記録されたりするのかを、人体や人の心の仕組みとあわせてスマートフォンやテレビなど身近な機器を題材に解き明かす。さらに、人がデジタル表現を扱う機器を得たことによって、個人の思考や感性がどのように影響され、また、社会・文化がどのように変化したかについて考える。技術進歩などの事情によって取り上げる機器の種類は変わる可能性がある。
		キャリア・デザインⅡ	インターンシップやその他の社会的な活動を通じて、自らを取り巻く社会の現状について理解を深めていく。大学での学びを社会でどのように生かすか、就職活動などの進路選択の場面で、自分と社会を結びつける（つまり、就労する）方法に取り組み、また、卒業後をより具体的に考えるために、社会の構造や企業の活動を理解を深めていく。具体的には、インターンシップやProject Based Learning、フィールドワークなどを通じて、実際に社会と接点を持つ機会を活用し、自らの体験を通して将来を考えていく。
		キャリア・デザインⅢ	卒業後の進路を具体的に検討し、多様な選択肢から自らの将来を主体的かつ適切に選び取るための知識と技術を涵養する。具体的には、自分自身を理解し他者に伝える方法、自らを取り巻く企業や業界などの社会を理解していく方法、それらを考えるための実際の業種や企業について情報を得る方法などが挙げられる。また、企業などで業務にあたっている実務者等から説明を受ける機会を設け、多様な業界や業種、職種に触れ、進路選択や就職活動を実践的に進めていく。
		キャリアの組織論	学校とは異なる組織における個人のキャリアや、組織の構成員との関係性について考える。組織において適切に自らの役割を果たすため、他者と自分の関係に対する考え方を学ぶ。まず、キャリアの基本的な概念を踏まえ、学校から会社、つまり学生から社会人という環境や役割の移行において、自らが体験するであろう組織社会化について考える。ついで、組織内における多様で複雑な価値観の交錯に、自らがいかに対応するかと言った課題を中心的に検討していく。
		インターンシップ	企業や行政機関・団体等における就業体験を通じて大学で育んでいる汎用的能力を活用し、社会で役割を持って活動することを体験的に学ぶ。就業体験によって、自分自身の将来の可能性を検討する材料とする。また、現時点における自身の能力を見極め、不得意な分野があれば今後の学生生活で補ったり、得意分野については一層伸ばせるように取り組んでいく姿勢が求められる。必要に応じて就業体験の開始前にキャリアサポート課へ相談し、実習先のミスマッチがないようにする。
		ジェンダー学	ジェンダー論の入門として、フェミニズムの知見を用いながら、ジェンダーという視点を通じて現代社会を解読する。性別二元論の価値観が社会に及ぼす影響を理解し、日常の問題について考える能力を養うことを目標とする。トピックとしては、ジェンダー概念、性の多様性、フェミニズム、トランスジェンダー、性暴力などを扱い、ジェンダーとフェミニズムについての理解を深め、関連する社会問題について議論し、性の多様性と平等についての洞察力を深める。
現代社会とジェンダー	セクシュアリティという切り口から社会構造を解読し、「異性愛主義」という価値観を改めて捉え直すことにより、日常生活のさまざまな場面でそれについて考える姿勢を身につける。社会は性別を「男」と「女」に二分し固定化した上で、前者により多くの利益配分を行なうシステムを維持している（性別二元論）。また、その二分された「男」と「女」を一对になるものとして認識する規範をもあわせもっている（異性愛主義）。異性愛主義という性規範について把握し、排除や抑圧を生み出す社会構造への批判的な視点を育む。		
教育とジェンダー	本授業では、教育に関するジェンダーの問題を様々な視点から学ぶ。これまでの歴史的経緯や他国の実践などを参照しながら、学校教育におけるジェンダーバイアスの問題、多様なジェンダーの人々にとっての学校教育がどのような課題を抱えているのか等、各自、自分の問いをみつけ、考察を行う。自らの学校教育の経験を振り返りつつ、現代の教育におけるジェンダーを取り巻く問題状況や課題を学び、歴史的視点、国際的視野のもとに、これからの教育とジェンダーの関わりについて考えることのできる視座を培う。		

基幹教育科目（続き）	教養科目（続き）	表象文化とジェンダー	表象文化研究入門およびジェンダー研究入門を主なテーマとして、ジェンダー・イメージがいかにかに時代や社会によって規定されるもので、生物学的な性差によって決定されるものではないかを理解する。また普段何気なく触れている表象文化が、いかに政治的・社会的なメッセージを含んだものであるかを学び、その分析方法を習得する。具体例としてジェンダー・イメージが文学や映画などを通じていかに表現されているか、また近年ではそうしたジェンダーそのものを問い直す作品がいかに生み出されているかを知ることによって、ジェンダーや表象文化を論ずる切り口を身につける。
		英語で学ぶ平和	The course will first cover many of the fundamental causes and effects of violent behavior. This will be done with readings and discussions. The second half the the semester will concentrate on nonviolent actions taken by Gandhi and Martin Luther King, as well as the Civil Rights Movement of the 1960's. By the end of the course students will be able to understand why violence occurs and give examples. Students will also be able to give clear examples of how nonviolence can be used to counter violent behavior. (和訳)この科目ではまず、暴力的行動の根本的な原因と影響の多くを取り上げる。これは読書とディスカッションで行なう。後半は、ガンジーやキング牧師の非暴力行動、1960年代の公民権運動に焦点を当てる。後半では、なぜ暴力が起こるのかを理解し、その例を挙げることができるようになる。また、暴力的な行動に対抗するために非暴力をどのように用いることができるか、明確な例を挙げることができるようになる。
		英語で学ぶ対話	Constructive controversy unlike debate (a competitive process where one view "wins" over the other) is a creative problem-solving process. In this course, students will learn a positive way of communication especially in a situation where both parties have a different opinion. The class will train students to become better communicators by practicing a communication approach where disagreement will no longer be an obstacle, but rather a good source to understand each other better. Students will learn to make better decisions based on good reasoning and consideration. (和訳)「建設的な論争」は、ディベート(一方の意見が他方の意見に「勝つ」競争プロセス)とは異なり、創造的な問題解決プロセスである。この科目では、特に両者の意見が異なる状況での積極的なコミュニケーション方法を学ぶ。このクラスでは、意見の相違とは障害ではなく、むしろ互いをよりよく理解するための良い材料となると捉え、そのようなコミュニケーション・アプローチを実践する。
		平和学	平和学の初学者を対象に、平和学の観点から直接的暴力および構造的暴力の諸問題を考える。前半は、20世紀の歴史と思想から、戦争やテロリズム問題など直接的暴力に関わる問題を考える。後半は、暴力と平和の問題について、貧困や格差など構造的暴力の問題を国際的視野をもとに考える。学修到達目標としては、①平和学の基礎的な理論を習得する、②平和に関する諸課題について基礎的知識と問題意識を持つ、③現代の平和の問題を自ら分析・考察することができる、という三点である。
		SDGs概論	SDGs(Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標)とは、2015年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択され、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標である。17のゴールから構成され、貧困や不平等、気候変動、環境劣化、繁栄、平和と公正など、私たちが直面するグローバルな諸課題の解決を目指している。SDGsを他人事ではなく、自分事として捉え、行動できるようになるためにSDGsの概要を学ぶ。
		現代社会とボランティア	現代社会とボランティアの関係性に対し、社会を取り巻く構造的な理解を含め多角的な観点から考察ができるようになることを目標とする。現代社会では、福祉ボランティアのような社会的課題の克服をサポートする活動から、スポーツなどの各種イベントを支えるボランティア、地域再生といった「まちづくり」を支えるボランティアまで多岐に及ぶ。さまざまなボランティア活動の事例を検討しながら、活動をおこなう主体(送り手)と客体(受け手)それぞれの立場を考えながら、現代社会におけるボランティア活動の動機や意味を考える。
		地域協力演習	品川区「すまいるスクール」での地域協力活動をおこなう。学校や児童の実情を知り、地域の人々との円滑な関係を築きながら地域社会に貢献できるようになることを目標とする。「すまいるスクール」は、品川区立小学校施設を活用した放課後全児童対策事業であり、専任の職員1名と複数のスタッフが配置されている。受講者はスタッフの一人として、「勉強」や「遊び」を通して小学生と触れ合うことで、地域の児童教育支援に携わる。
		暮らしの法律	社会生活を司る法やその適用例を具体的に学習することで、生活のさまざまな場面における法律の役割を理解し、社会人としての法常識を身につけ、無用なトラブル・紛争の未然防止のために必要な知識を獲得する。本科目では「暮らしと法律」をテーマとして、契約・消費者と法、犯罪と法、性の平等、権利と法、著作権・知的財産権、インターネットと法のように、日常生活において一般的な場面で法と関わる様々な具体例を扱いながら学んでいく。
		現代社会と法律	現代社会を司る法律・法体系を学ぶことで、社会のしくみや成り立ちを理解し、社会における法律の役割を理解する。本科目では現代社会における法律の意義や目的・その限界などをふまえ、法への体系的・一般的理解を目指す。憲法と法律、婚姻・離婚と法律、相続、賃貸借と法、交通事故と損害賠償といった現代的な諸問題を扱いながら、法の意義や仕組みを理解し、同時に多角的な視点から対話や問題解決を目指す法的な視点と態度を養う。
		労働者と法律	労働に関する法律は、組織において適切に自らの役割を果たしていくために必須の知識である。本科目では、アルバイトや卒業後の就労において直面するかもしれない、労働条件の変更や解雇など労働や雇用に関する問題や課題を取り上げ、それらを十分に理解し解決に向けて自分で対処できるようにするために必要な法的知識と考え方を習得する。また労働や雇用に関する社会的問題・課題に関して自分で分析・検討し、それを理解して自らの考えを導けるようにする。

基幹教育科目（続き）	教養科目（続き）	現代の国際経済	経済に対する予備知識が少ない学生を対象とし、国際経済に関する基本的な知識と考え方を身につける。授業の到達目標は、国際経済に関する基本的な知識と概念・考え方を身につけることによって、新聞やインターネット上のメディアの経済情報をより良く理解し、日常生活や将来の進路に活かすことである。扱うトピックには、国際経済の基本、貿易政策、国際金融、為替相場、国際収支、円高と円安、国際通貨制度、国際通貨危機などを含む。
		現代の日本政治	現代における日本政治の動きをテーマとし、そこに関連する政治学上の概念や知識と共に紹介し、今日に至る日本政治の大きな流れを理解する。また日本政治の仕組みを理解すると共に、他国との政治制度や背景の違いにも注意を向け、自国の政治を相対化して捉えられるようにする。トピックとしては、55年体制、高度経済成長、政党政治、官僚機構、中央と地方、選挙制度、行財政改革、圧力団体・NPO等を扱う。授業での学びを通して、日本の政治を客観的に捉え主体的に判断をできる能力を養う。
		現代の国際政治	現代における国際政治の動きをテーマとし、世界政治の動向をその時々に見えたビジョンとともに紹介し、今日に至る国際政治の大きな流れを理解する。近年の世界政治は目まぐるしく変化しており、その背景や要因を含め情報を的確に処理する必要性が求められている。本科目では国際政治について考え、現代の国際政治を動かしている原理が何であるのか、世界はどこへ向かっているのかを自分の思考力で見極められるようトレーニングを積む。
		現代社会とメディア	欧米から始まるマス・メディアとジャーナリズムの歴史と理論を基に、マス・メディアに関する研究がどのように成立してきたか、基礎的な概説を行う。その上で、現代社会におけるマス・コミュニケーション機関、マス・メディアの現状についてその役割と影響を中心に概観していく。そして、メディアが社会に対して果たす、また果たすべき責任と役割について考察する。まずメディアの歴史、メディア理論、表現・言論の自由などを学び、その後にメディアと政治・経済・戦争・平和・教育・倫理など、現代社会におけるメディアについて学ぶ。
		現代社会と倫理	現代倫理の源泉や、現代社会における支配的な思考枠組みおよび価値観の思想的背景を学ぶことによって、人間存在を反省的に問い直す。日々多くの選択や出来事が繰り返される人生における無数の分岐点に際して、私たちは、いったいどのようなものを見方や考え方、外的基準等にもとづいて判断を下すのか。本科目では、このような日常における判断と倫理をめぐる問題を、哲学や倫理的思想の視点から検討する。
		暮らしの倫理学	本科目では、私たちの日常生活における倫理をめぐる諸問題を取り上げ検討する。日々多くの選択や出来事が繰り返される人生の中で訪れる無数の分岐点に際して、私たちはいったい何を頼りに判断し、日常を生活しているのか。とりわけ倫理的判断は、どのようなもの見方や考え方、外的基準等にもとづいてなされるのか。本科目では、このような日常における判断と倫理をめぐる問題を、具体的・日常的視点から検討する。
		心理学 1	人は、他者との関係の中で感情をもち思考する社会的な存在である。そうした個人の心の営みが、個々の他者との関係や集団としての社会との関係をどのように作り上げるか、さらに、そうした関係をどのように維持したり変えたりしていくのかについて、事例を挙げながら検討していく。 人の社会的な性質を心理学の観点から説明できること、それを自身の人間関係や社会活動の中で省察したり活用したりする態度をもつことを目標とする。
		心理学 2	心理学が扱ってきた問題とその答えを歴史的にふりかえりながら、そうした心理学の成果が、我々の日常生活のありようをどのように説明し、また、我々の日常生活の問題をどのように解決するかについて、考えていく。 講義を受けることで知識を得るだけでなく、グループワーク等による具体的な問題への取り組みを通して、心理学の知識を自分なりに活用する態度を身につけることを目標とする。
		暮らしの科学 (実験講座 キッチンサイエンス)	私たちが生きる上で重要な「食」について、「食材を調理して食べる」という日常生活を、科学的なアプローチを通じて「なぜ？」という目で見直す。日常食べている代表的な食材を毎回のテーマとして取り上げ、その性質、組成、歴史の変遷、栄養的な特徴を学ぶ。食材の観察とそれを用いた実験(調理)を数名のグループで行い、熱や塩によっておこる物理的または化学的な変化を、食感や味として体感するとともに、科学の目で観察して理解する。
		科学史・科学哲学	現代社会で身近な科学技術は、様々な価値を生み出し生活を便利にする一方で、地球環境や倫理の面で多くの課題も生み出している。こうした課題に対応するためには、私たち誰もが科学に対する理解を深め、自分たちの問題として捉える必要がある。本授業では「科学とは何か」という問いについて、「歴史」「哲学」「社会」という三つの観点から考察する。17世紀に起こった「科学革命」がそれまでのアリストテレス的自然観をどのように克服したのかを学び、また科学哲学の観点から近代科学の方法論と理論的構造を明らかにする。さらには現代社会で科学に求められる倫理や責任について考察する。
言語学	本科目では、私たちが普段使っている母語や学んでいる外国語に起こる様々な現象について、学術的にどのように捉えられ、どのように分析されているのかを概観する。自分自身の母語や外国語学習に関心のある者、将来的に言語教師を目指す学生にとって、言語学は学んでおくべき科目の一つである。①自分自身の母語に関心を持つこと、②世界の言語にどのような特徴があるか知ること、③言語学にどのような下位分野があるか知ること、④外国語学習や言語教育に活かせる知識を身に付けることを目標とする。(日本語教員課程必修科目)		
応用言語学	本科目では第二言語習得論を扱い、私たちが母語以外のことばである外国語(第二言語)を、どのように学び、習得するのかを概観する。第二言語習得論は応用言語学の一領域であるが、自分自身の母語や外国語学習に関心のある者、将来的に言語教師を目指す学生にとって第二言語習得論は学んでおくべき科目の一つである。①第二言語習得論の歴史の変遷を説明できること、②母語と第二言語習得の関係について説明できること、③教えることと習得されることの関係について説明できること、④外国語学習や言語教育に知識を活かすことができることを目標とする。(日本語教員課程必修科目)		

社会言語学		本科目では、普段無意識に行っている言語活動を、社会という観点から捉え直し、言語についての理解を深めることを目的とする。社会言語学は、ことばが社会の中でどのように使われているかを、様々な面から考える学問で、地域差や性差、世代差等から、社会における言語使用の多様性について考える。また、話者や聞き手の属性や、場面・話題・機能の観点から、社会と言語の関係を具体的に考えていく。日本社会における言語使用の多様性や位相による言語の特徴の違いが説明できることを目標とする。（日本語教員課程必修科目）	
認知言語学		本科目では、認知言語学について、日本語の事例に触れながら学習する。認知言語学の基本的理論の他にも、言語習得や「やさしい日本語」など、さまざまなトピックを扱う。認知言語学では、ヒトの言語は、認知主体の「世界に対する見方」を反映していると考えられる。本授業では、この考えについて、日本語における様々な言語現象を見ながら理解を深める。①認知言語学の基本的な概念や問題意識について理解すること、②認知言語学の分析モデルを用いて、日本語の言語現象が捉えられることを目標とする。（日本語教員課程必修科目）	
日本語音声学		本科目では、日本語の音声的特徴について、特に日本語を母語としない日本語学習者への音声指導を中心に、基礎的な事柄を中心に学習する。日本語の音声を客観的に捉えることを目的として、言語教育の立場から日本語の音声に関わる諸現象について検討する。①日本語の音声について基礎的な知識を身につけること、②言語教育、また社会言語学的観点から日本語の音声について客観的に捉えられるようになること、③音声教育のための教材作成が行えるようになることを目標とする。（日本語教員課程必修科目）	
日本語教育文法		本科目は、日本語の構造を分析・整理し、第二言語(外国語)としての日本語教育に応用することを目的とする。日本語を母語としない人にとって、日本語はどのような言語なのか。本科目では、日本語母語話者が学校の国語で学ぶようなものとは異なる視点から、日本語の基本的な文法構造について、日本語教育で応用できるよう、自分自身で分析しながら整理していく。日本語の基本的な構造を理解し、日本語教育に応用できることを目標とする。（日本語教員課程必修科目）	
法学(日本国憲法)		人権について理解することに力点を置きながら、日本国憲法の基礎を学ぶ。立憲主義とその歴史、大日本帝国憲法と天皇主権、憲法改正と平和主義、日本国憲法と国民主権などを扱い、日本国憲法を歴史に位置づけて捉えられるようにする。また人権については、人権享有主体性、包括的基本権、公共の福祉、表現・思想良心・信教の自由や、教育を受ける権利・学問の自由などについて学び、人権がいかなるものかを具体的に説明できるようにする、同時に教員や公務員などに要求される日本国憲法の知識と考え方を獲得する。	
経済学		企業や個人の経済行動の原理を学び、人材、資本、財・サービスの取引のメカニズムを学ぶことによって、仕事・家計・人生の基礎力としての経済学を身につける。ミクロ経済学の視点からは、競争市場における需要と供給、独占と市場の失敗、ゲームの理論等を扱い、マクロ経済学の視点からは、GDP、インフレ・デフレと雇用問題、為替相場、マクロ経済における貨幣と銀行(金融システム)それぞれの役割などのテーマについて考察する。	
暮らしの経済学		私たちの身の回りにある様々な「モノ」(商品)の生産、流通、消費の過程を学ぶことで、グローバル経済のなかの日本の位置づけを理解する。鉱物資源やエネルギー資源に恵まれない日本に住む私たちの生活は、地球規模でおこなわれているモノの生産のおかげで成り立っている。本科目では日常に深く関係する様々なモノの生産、流通の仕組み、消費のあり方を通じて、世界のなかの日本、そして発展途上諸国で暮らす人々との経済的なつながりについて理解を深めていく。発展途上諸国の経済構造、国際貿易の歴史や仕組み、開発についての基礎的な考え方について学び、より発展的な学修に向けての基礎力を身につけることを目標とする。	
暮らしの社会学		「社会問題の社会学」をテーマとする。日常の「暮らし」のなかで出会う「社会問題」は、なぜ、どのように、構築されるのか。本科目では、社会学の視点から「社会問題」をとらえる理論を学び、そのうえで具体的な諸現象を取り上げ、検討していく。特に排除や抑圧、差別が生み出される現状がどこか遠くにあるのではなく、わたしたちの身近にあること、そして生み出す側にいるかもしれないことに思いを馳せ、他者化せず考える力を養う。	
哲学1		東洋の哲学に関する基本的な内容について、歴史、宗教といった視点から学ぶ。東洋における様々な地域、時代の哲学・思想を概観し、それぞれの考え方について理解することを目標とする。また「東洋」とは何か、西洋哲学との考え方の違いはどのようなものか、東洋の一部である日本ではどのような哲学・思想が展開してきたか、などについても考えていく。東洋哲学の多様な価値観を理解することによって、物事に対する幅広い視野を身につける。	
哲学2		「哲学」の本質についての概括的理解を得ると共に、キリスト教との関係を検討する。まず「哲学」の意味についての初歩的理解からはじめ、プラトンのイデア論と『ポリテイア』、アリストテレスの学問体系と理論哲学等を扱い、古代哲学の展開を概観する。続いてアウグスティヌス、スコラ学、トマス・アキナスやイエズス会と人文主義教育などを扱い、中世、近代、そして現代にいたるまでの哲学の展開とキリスト教との関係を概観する。	
表象文化論		表象とは、ある作品やイメージなどによって何かが表現されることである。本科目ではその媒体として、絵画・マンガなどの視覚表現、文学作品などの文字表現、音楽などの聴覚表現、映画・アニメなどそれらを総合した表現を取り上げる。それらの作品の中に、どのような社会規範や思想、概念等が織り込まれており、それがどのような視点からの表象であるのかを分析していく。このような分析を通じて、歴史的変化やその背景にある人々の心性等について考え、今後様々な作品や事象をより深く理解できるようにする。	

基幹教育科目（続き）	教養科目（続き）	音楽	19世紀ロマン派音楽と20世紀の西洋音楽について学ぶ。19世紀ロマン派、20世紀に活躍した西洋音楽を代表する音楽家達の作品、及び、その特徴を響きと共に知識として取り入れ、豊かな教養を身につける。ロマン主義音楽の興隆とその発展を、ロマン派初期・中期・後期の代表作品の音楽形式を通し、響きと共に理解し、初期におけるベートーヴェンの影響や、中期のシューマン、ショパンの音楽語法、後期の二つのドイツ音楽を中心とした流れなど、19世紀ロマン派音楽、20世紀の西洋音楽の各時期に活躍した作曲家の作品の中に存在する音楽的な特徴を認識できるようにする。
		キリスト教の祈り	本授業では、宗教における儀礼の役割について学び、教会の典礼の意味や目的について理解を深めることを目的とする。また、聖書と教会の教えに基づいて、各秘跡に関する基本的知識を学ぶ。さらに、こうした学びを通して、教会の典礼と信者の信仰生活とのつながりを理解することを重視するとともに、典礼に関連するキリスト教の文化や習慣を通して多面的にキリスト教を学ぶ。
		キリスト教のこぼ	本授業では、キリスト教のさまざまな「こぼ」を読むことで、キリスト教の価値観に照らし合わせて、現代社会を生きる一人として、自分の価値観や人生観を深めることを目的とする。具体的には、ローマ・カトリック教会の教皇フランシスコ、マザー・テレサ、聖心侍女修道会創立者ラファエラ・マリアなど、社会に貢献した人びとのこぼを取りあげる。こうしたこぼを学び、キリスト教の世界観、価値観の理解を深め、自らの価値観を振り返る契機を持ち、現代社会を見る視座を獲得する。
		キリスト教の思想	本授業は、日本のキリシタン史をより広く世界史的視点から位置づけるとともに、それが近代日本の精神史に与えた影響について学ぶことを目的とする。取り上げる主題は、ザビエルの日本布教、都のキリシタンと南蛮寺、伴天連追放令、ペトロ・パプチスタとその同士の来日、フェリペ号事件、日本二十六聖人の殉教、江戸幕府による禁教体制の確立、島原・天草の乱、宗門改と隠れキリシタン、開国と信徒発見、明治政府による迫害、浦上四番崩れ、禁教の終焉、など。
		キリスト教と現代社会	本授業では、いのちのはじめやおわり、性についてなど、現代社会における「いのち」にかかわるさまざまな現代的問題を学んだうえで、カトリック教会におけるいのちへのまなざしを考える。現代社会において、科学技術の進歩とともに、今までにはなかった人間のいのちにかかわる多くの問題が生じている。そうした時代背景を踏まえ、人間のいのちのはじまる場面と終える場面におけるさまざまな問題について、カトリック教会の視点から具体的な事例をもとに考察し、最終的には人間のいのちの意味を学生一人ひとりが自分の問題として深く考えることができるようにすることを目標とする。
		キリスト教と美術	本授業では、本学の建学の精神とも深い関わりを持つキリスト教のなかで美術がどのように展開したかについて、様々な作品に触れながら学修する。キリスト教文化圏で展開した美術について、福音書など新・旧約聖書や外典から生みだされた「視覚化された教典」の役割を持つ美術作品を、様々な地域や成立した時代区分を意識しながら学んでいく。説話的・非説話的な図像の表現形式とその意味などを理解し、キリスト教と結びつく作品が生活のなかで果たしてきた役割について考察を深める。
		キリスト教と音楽	本授業では、西洋音楽の根源を探る。その際、イエス・キリストの誕生、カトリック・キリスト教会における典礼の中でのキリスト教音楽の存在、そして、神に対する祈りの空間の中に、純粋な響きとして音楽が歌われていたことについて学ぶ。バロック時代が始まる以前の長いキリスト教音楽を根源とする音楽の流れは、普遍的に17世紀以降も存在し、神の永遠の愛の響きが常に西洋音楽の基礎として響き続けている。本授業では、こうした根源を探ると共に、後世に作られた西洋音楽作品（クラシック音楽作品）への影響にも触れながら授業を行う。
		キリスト教と文学	本授業では、「日本近代文学とキリスト教との関わり」について理解することを目的とする。日本文学がキリスト教からどのような影響を受けてきたか、明治期・大正期・昭和期（戦後）に分けて外観し、また芥川龍之介・太宰治・遠藤周作などを中心に、それぞれの作品を具体的に取り上げ、それぞれのキリスト教理解の特徴と意義について掘り下げる。
		暮らしの科学（実験講座 健康と環境）	健康と環境（環境衛生）をテーマとする。私たちが生きるために必須の資源である飲料水、呼吸により常に身体の中に取り込んでいる空気成分、温度や湿度、光、音、振動、放射線などの環境が人の健康に及ぼす影響について学ぶ。各テーマに関する基礎知識、現状、問題点と解決策について、教科書レベル、報道のトピックス、立場の異なる人の意見などを理解する。実際に手を動かして、飲料水の成分を測定して飲用の適否を判定したり、学内の空気環境を実際に調べることで、自分達を取りまく環境について深く理解する。
		暮らしの科学（栄養学）	栄養の基礎知識と健康な食生活の理解をテーマとする。栄養は人が生きていく上で必要不可欠なものであり、摂取不足も過剰も望ましくない。自分や家族の健康を保持増進するために、栄養に関する正しい知識をもつことを目的とする。栄養素の働き、栄養摂取の目安や栄養バランスについて学び、自らの食生活を評価し改善を提案する。またダイエットを含めた栄養・食生活に関する正しい知識を身につけ、人生のライフステージや状態における栄養・食生活に関する指針を理解し活用できるようにする。
暮らしの科学（病気の予防）	「病気の予防」をテーマとし、個人や家族でできること、市町村や国がやるべきことについて学ぶ。病気を予防することは私たちの「健康」にとって重要である。日本及び世界の疾病構造を理解し、健康を損なう要因と対処法を、自分の周りの事象を通して理解する。日本国内だけでなく、外国や地球規模での問題点と、解決のために行われている対策を知る。今後、国や国際社会がなすべきこと、私たちができることは何であるか、を考える力を身につける。		
暮らしの科学（健康増進）	「健康である」ということを考える。「病気にならない」だけでなく「健康増進」のために何ができるかを学び、「たとえ病気や障害を持っていても、よりよく生きる」とはどういうことかを考える。「健康」とは何か、「自分」は健康であるのか、「健康＝幸福」といえるか、ということについて、さまざまな分野の保健活動の例を学びながら考える。より健康で充実した生活を送るために、自分が出来ること、社会の制度として必要なことを認識し、現状と展望を学ぶ。私たちが自分や周りの人の健康増進のためにできることについて、自ら考える力を身につける。		

基幹教育科目（続き）	教養科目（続き）	心身の医学	心とからだ(意識と身体)の関係をテーマとして、主に心の方面からアプローチする。精神科臨床で見られること、現代の脳神経科学の所見、さらには心とからだの関係について古代から考えられてきたことや、演劇の訓練のなかで探求されてきたことなどを通じて、心とからだがどのようにすればよりよく寄り添っていけるのかを学ぶ。具体的には、うつ病、統合失調症、摂食障害、精神療法、精神分析、心の発達、心の理論などを扱う。	
		体育実技・理論	本科目では、心身の健康を促進し、充実し安定した状態で生活ができるための理論と実技を探究する。実技においては手軽におこなえる効果的な運動であるエアロビクスやヨガ等を実践しながら、心肺機能や柔軟性、筋力等の体力を向上させる。同時に心身のストレスを軽減し心と体の活性化を目指す。理論の面では、心身の健康を維持するための科学的なアプローチや研究成果をふまえて、自らの生活習慣の改善やコンディショニングに応用できるようにする。	
		体育実技・理論	学外施設において水泳をおこなう。水泳は、一度身につけたら生涯継続できるスポーツであり、体力の維持向上、病気や肥満の予防等の効果も期待できる。本科目では、水泳を通じて日常生活の中に適度な有酸素運動の習慣を取り入れ、健康的な生活態度を形成できるようにする。具体的には、水の特性を理解し、基本となる4種目を心地良く泳ぐことを目標とし、クロール、ブレスト(平泳ぎ)、バック(背泳ぎ)、バタフライ、4種目の泳法技術を学び、実践できるようにする。	
		数量リテラシー	(概要)「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」の各科目を履修する上で求められる数量スキルを確認するとともに、必要に応じてそれらを補う学びを展開する。具体的には、統計の基礎、データ集計の基礎、および、それらを支える数量概念について、計算や集計作業を実習しながら、実際の状況で活用するスキルを身につける。オンデマンドビデオと配布教材による授業と教室での対面授業とが週単位で交互に行われる。 (オムニバス形式/全13回) (23 福田健、116 高橋 アヤコ/1回) (共同) ガイダンスと診断的評価を行う。 (23 福田健/6回) Excel上の記述統計を扱う関数の意味と内部計算の方法を扱う。 (116 高橋 アヤコ/6回) データサイエンスに必要とされる基礎的代数スキルを確認して必要な補習を行う。	オムニバス・共同(一部)
		情報科学1	情報処理推進機構(IPA)が実施するITパスポート試験3級に対応する内容と2級の一部に対応する内容を実習を通して学ぶ。社会人として求められる情報技術の知識・技能とそれを活用した問題発見力や問題解決力を養うことを目標とする。具体的には、PCとネットワークの基本的な構成と機能を学ぶとともに、AI、ビッグデータ、IoTなどの新しい情報技術が社会全体におよぼす影響を知り、さらに、経営やセキュリティ管理など個別の社会事象の中での活用方法を考察する。	
		情報科学2	オデッセイコミュニケーションズが実施するマイクロソフトオフィススペシャリスト(MOS)試験(一般レベル)のWord科目に対応する内容を実習を通して学ぶ。Microsoft Office Systemの中で文書作成・編集機能を提供するMicrosoft Wordの実用的技能を検定する試験がMOS Word一般レベル試験であり、この試験が求める各種技能を修得することを目的として授業内容を構成する。	
		情報科学3	オデッセイコミュニケーションズが実施するマイクロソフトオフィススペシャリスト(MOS)試験(一般レベル)のExcel科目に対応する内容を実習を通して学ぶ。Microsoft Office Systemの中で表計算・編集機能を提供するMicrosoft Excelの実用的技能を検定する試験がMOS Excel一般レベル試験であり、この試験が求める各種技能を修得することを目的として授業内容を構成する。	
		情報科学4	オデッセイコミュニケーションズが実施するマイクロソフトオフィススペシャリスト(MOS)試験(一般レベル)のPowerPoint科目に対応する内容を実習を通して学ぶ。Microsoft Office Systemの中でプレゼンテーション・編集機能を提供するMicrosoft PowerPointの実用的技能を検定する試験がMOS PowerPoint一般レベル試験であり、この試験が求める各種技能を修得することを目的として授業内容を構成する。	